

金沢工業大学 御中

令和3年度 授業調査 報告書

2022.5.10

有限会社 アイ・ポイント

INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	16
<4>学部・学科別の分析	22
<5>科目区分別の分析	32
<6>同一学生群の分析	38
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	44
<8>遠隔授業の評価の分析	49
<9>全体のまとめ	56

<1>本調査の全体像

1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が17年目となるため、17年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。(調査開始は平成14年度)
- コロナ禍の対策として、前回に続いてすべてWebで実施した。また、「遠隔授業」に関する質問も前回に続いて2年目となる。

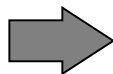
2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	46,489件(1年次: 18,820件、2年次: 17,284件、3年次: 9,648件、4年次: 737件、「社会人共学者」の16件は集計から除外)					
年別回答数推移	年度	春学期(夏期特別含む)	秋学期	冬学期	全回答数	調査票
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	質問項目変更
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
	年度	前学期	後学期	全回答数	調査票	
	平成21年度	42,446	43,962	86,408		
	平成22年度	48,541	48,175	96,716		
	平成23年度	53,166	49,870	103,036		
	平成24年度	47,317	46,666	93,983		
	平成25年度	47,317	45,003	92,320		
	平成26年度	45,014	50,767	95,781		
	平成27年度	48,882	43,421	92,303		後学期より一部選択肢変更
	平成28年度	47,946	41,113	89,059		
	平成29年度	46,988	39,594	86,582		
	平成30年度	47,659	40,416	88,075		
	令和元年度	41,011	46,990	88,001		
	令和2年度	29,365	32,293	61,658		Web調査へ移行、質問項目追加
	令和3年度	27,148	19,341	46,489		
	対象科目	691科目(シラバスコードの件数)				
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の第14週目から学期最終日、または最終授業日の1週間後まで実施した。 実施方法: 記名式。Web入力。 Web入力を科目担当の教員より周知するとともに、学生ポータルにて通知した。 					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度、一部は平成14年度から)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。

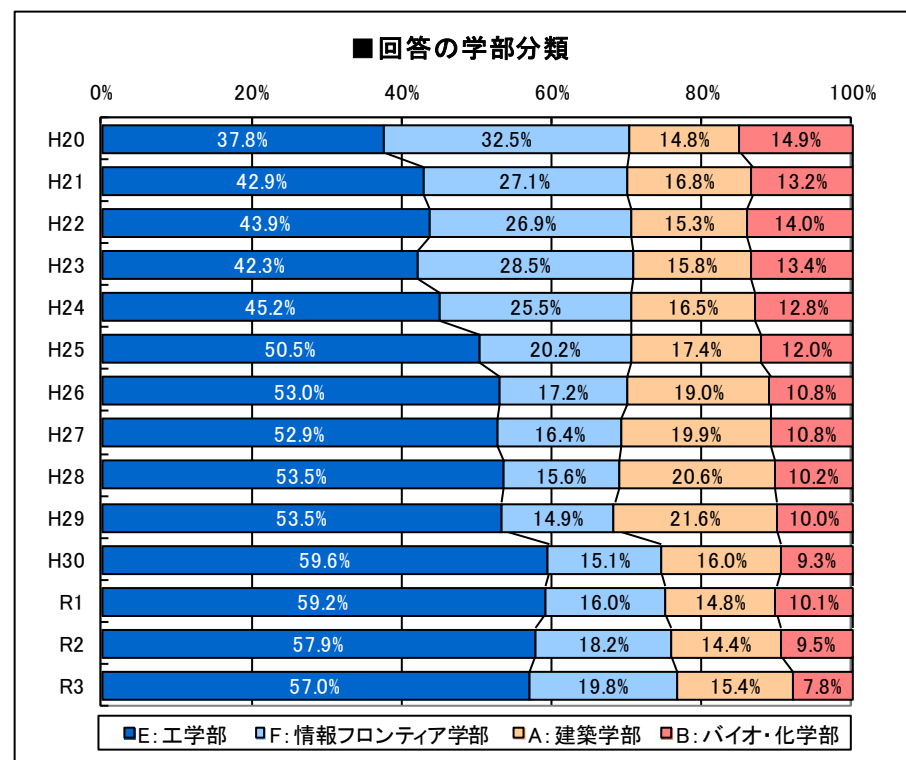
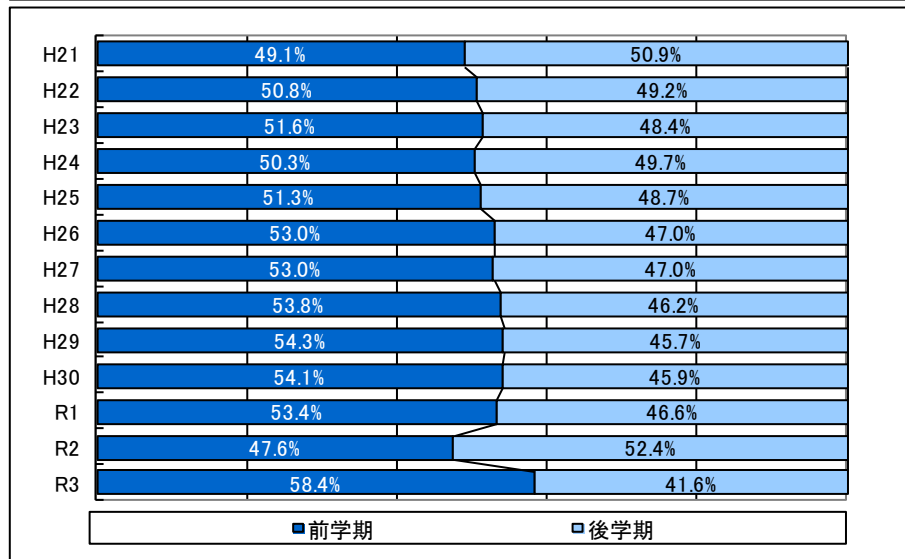
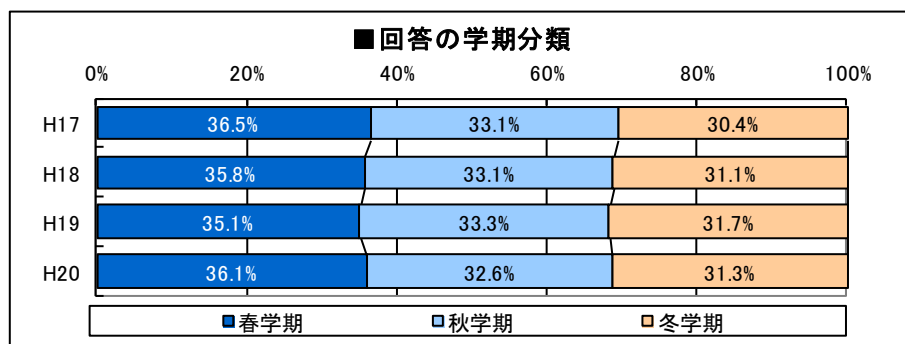


	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※平成27年度の後学期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合評価

4) 集計に関して

- 平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」の設問は平成14年度より、「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので、これらの4つの設問についてはそれぞれの期間に渡って比較を行っている。それら以外の設問は変更後の平成17年度以降で比較を行った。
- 平成27年度の後学期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後学期からは「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。
- 報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」などもこのルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。

- H21年度以降は2学期制となっているが、今回は「前学期」が58.4%と多く、「後学期」が41.5%となっていた。
- 学部・学科構成はH29までは4学部14学科であったが、H30以降は4学部12学科となっており、構成比の変化が見られる。そして、今回の回答割合は「E:工学部」が57.0%、「F:情報フロンティア学部」が19.8%、「A:建築学部」が15.4%、「B:バイオ・化学部」が7.8%となっていた。

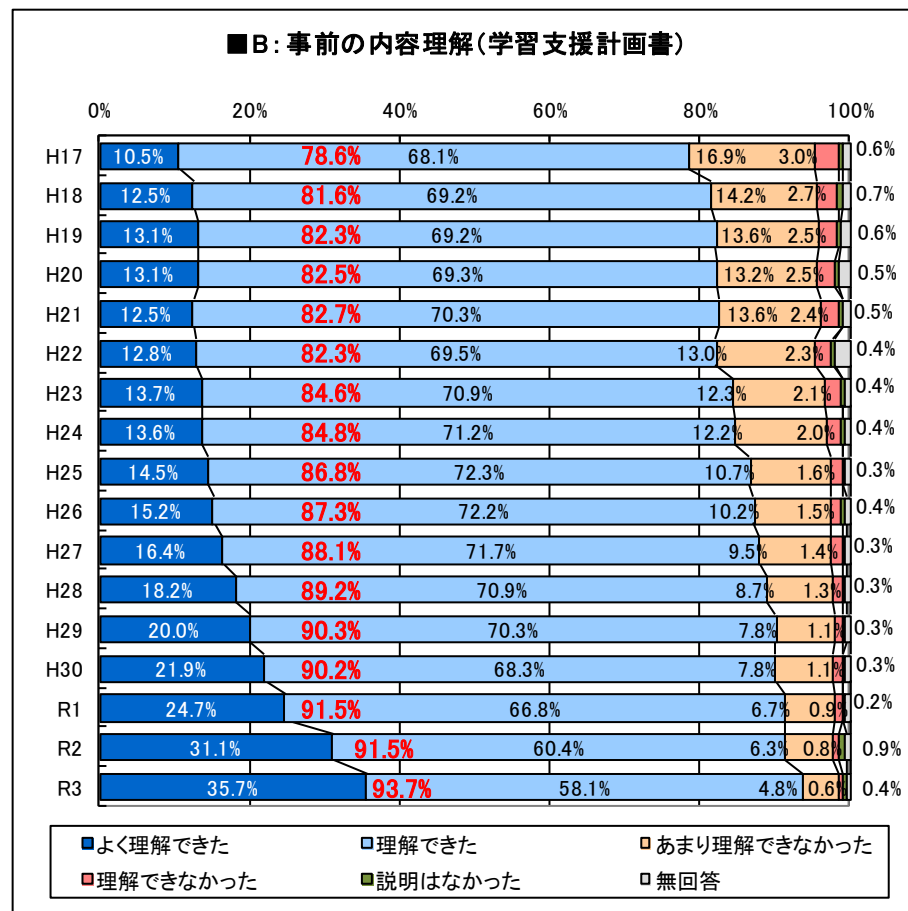
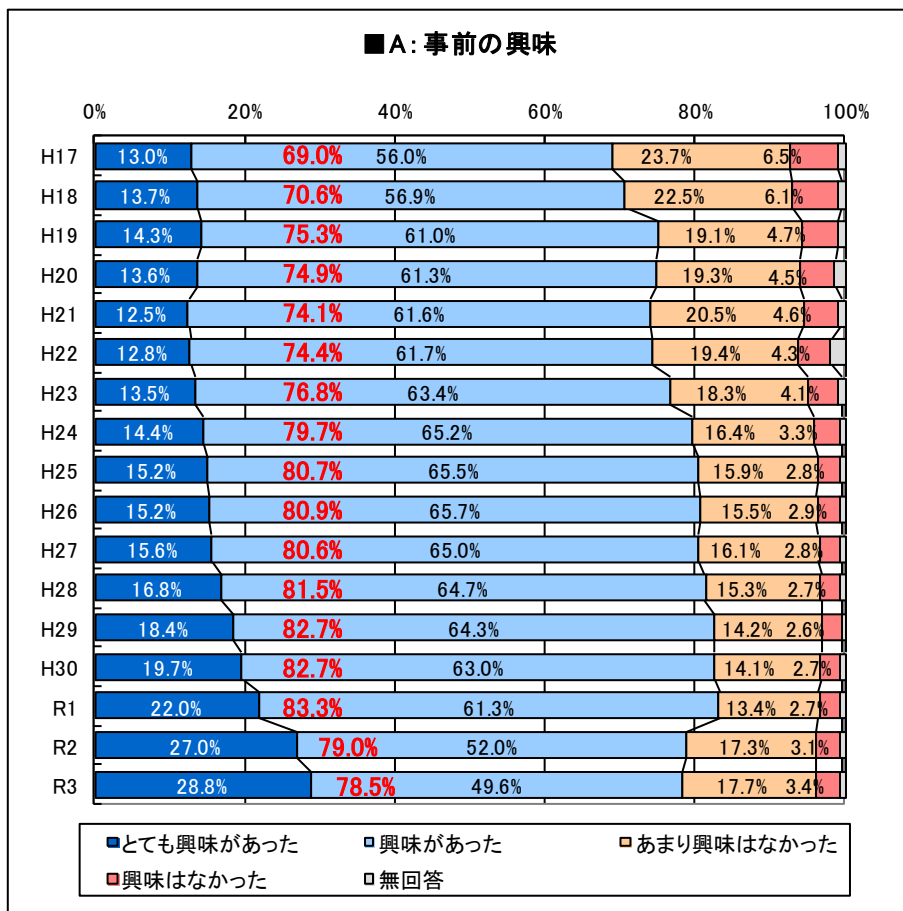


※H30に4学部14学科から4学部12学科に変わり、各学部に含まれる学科が異なっているため、学部ごとの構成比にも大きな変化が出ている。

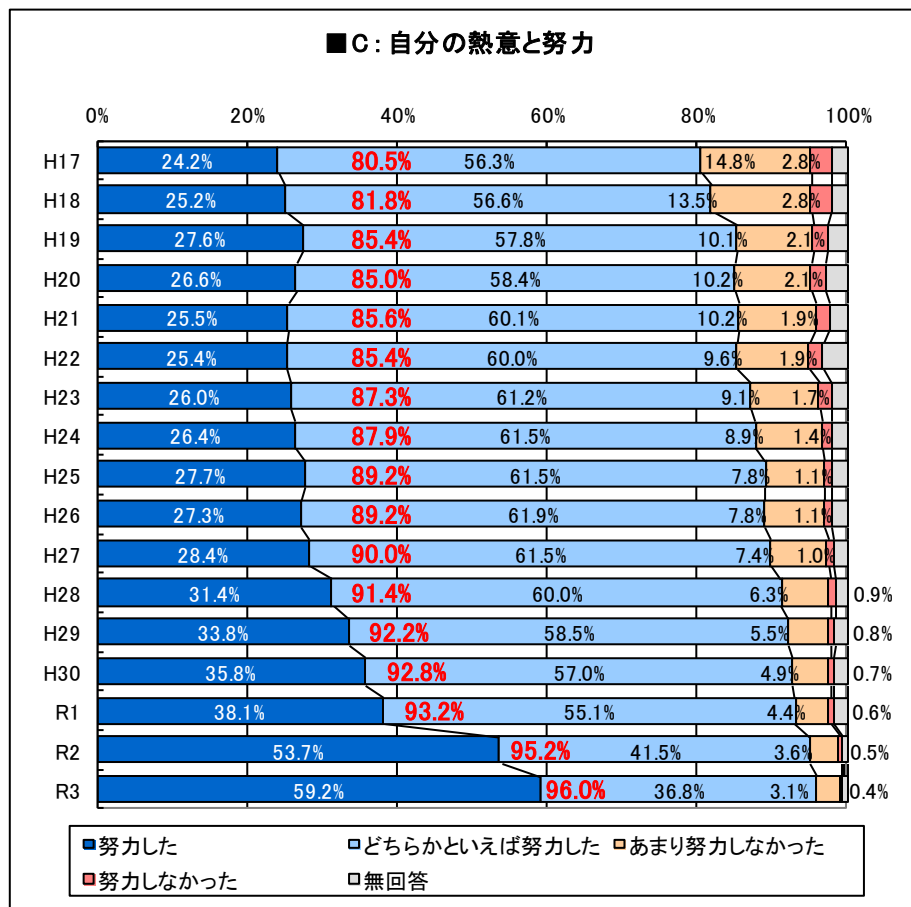
<2> 基本的な分析

- 経年変化のグラフでは肯定的な意見の合計を赤太文字で示しているが、注意書きにあるように、合計値には誤差が含まれる場合もある。そして、「無回答」の数値は表示していない。
- 「A:事前の興味」では、「とても興味があった」が前回は1.8ポイント上回って過去最高の28.8%であった。ただし、「興味があった」は過去最低の49.6%で、肯定的な意見の合計は前回は0.5ポイント下回って78.5%となり、約2割が事前に興味を持っていないという回答であった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」では、「よく理解できた」が前回は4.6ポイント上回って過去最高の35.7%であり、「理解できた」の58.1%を加えると肯定的な意見の合計は過去最高の93.7%となっていた。これらの内訳を見ると、単純に理解度が向上したのみではなく、理解の深さも増していると言えそうであった。

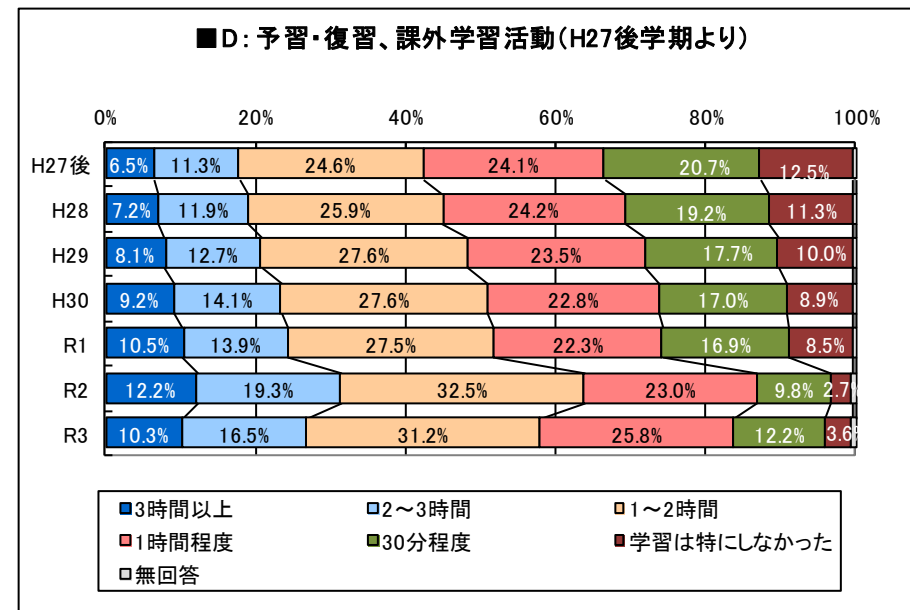
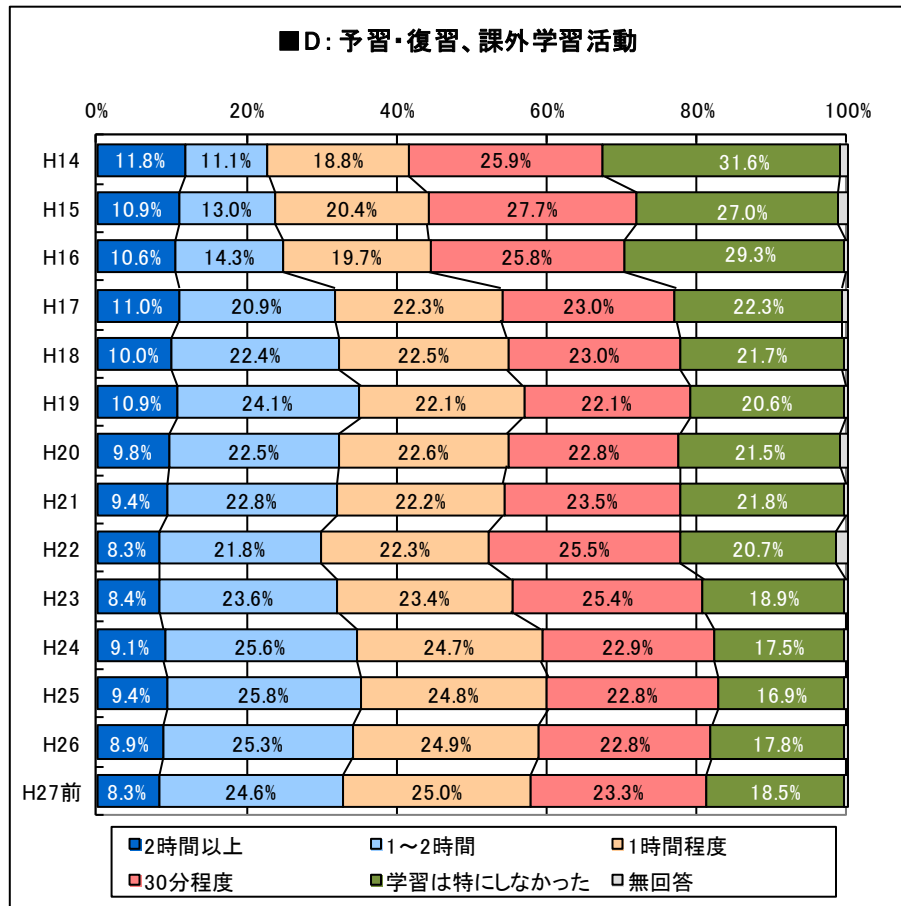
※報告書内のデータの「集計値」や「合計値」は小数点第1位までの表示となっているが、これは小数点第2位を四捨五入したものとなっている。「肯定的な意見の合計値」なども、このルールに従っているため、「集計値」と「合計値」の四捨五入の判断が異なり、最大で0.1の差となっているケースもあるが、これは誤差として、そのままとしている。



- 「C:自分の熱意と努力」は「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問であるが、「努力した」はH28頃から大幅な増加が続いており、今回は前回は5.5ポイントと大幅に上回って過去最高の59.2%で、非常に積極的に授業に取り組んでいる様子がうかがえた。そして、「どちらかといえば努力した」の36.8%を加えると肯定的な意見の合計は96.0%となり、これも過去最高であった。



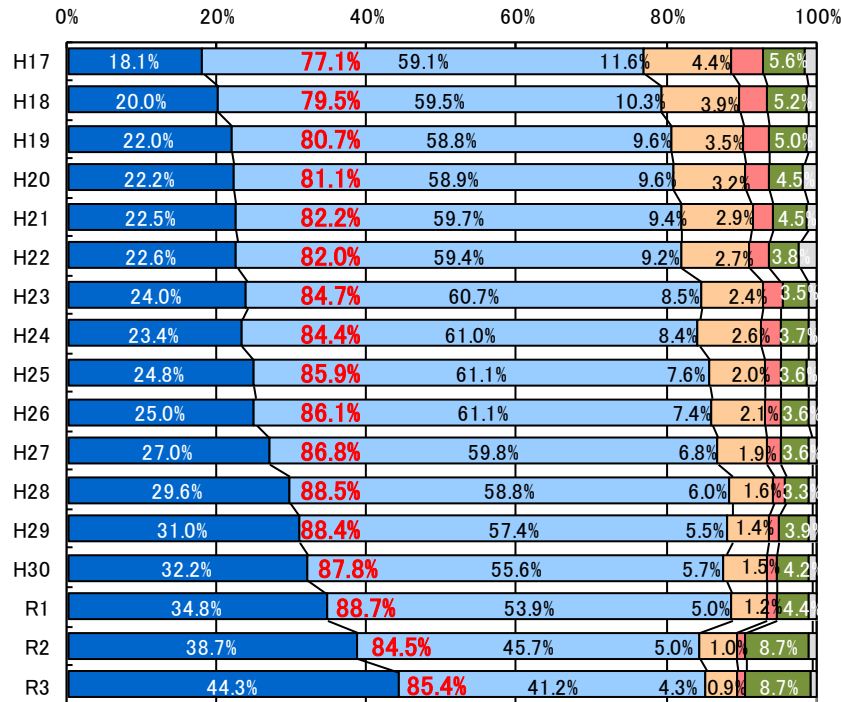
- 「D: 予習・復習、課外学習活動」は「1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか?」という質問であるが、H27後学期(H27後)以降は選択肢を変更したため、別のグラフで比較をしている。
- 今回は「3時間以上」が10.3%、「2～3時間」が16.5%、「1～2時間」が31.2%であり、これらの学習時間をしっかりと確保している層はすべて前回を下回っていた。「H27後」以降、前回までは学習時間が長くなる傾向が続いていたが、今回は減少に転じていた。ただし、学習時間としては前回に次いで、決して短いというわけではなかった。
- 一方、「学習は特にしなかった」は3.6%で、前回に次ぐ少なさであった。



※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。
 ※H27後学期から選択肢が変わったが、設問文は変わっていない。

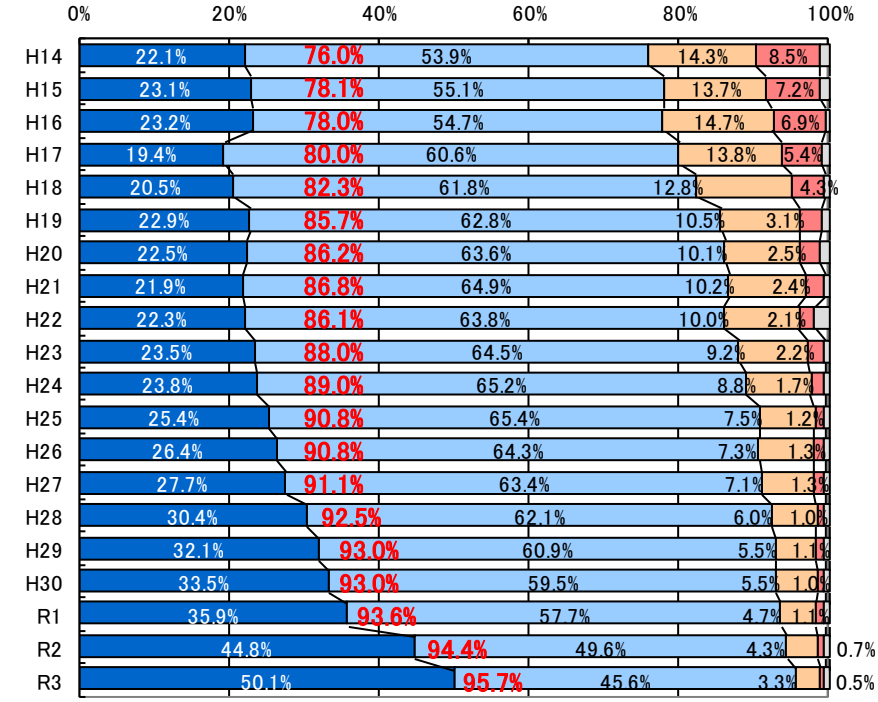
- 「E:教科書・指導書の適切さ」は「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか?」という質問であるが、「適切だった」は前回は5.6ポイント上回る44.3%で高く評価する意見が非常に多く、継続的に増加が続いていた。そして、「まあ適切だった」は過去最低の41.2%であり、肯定的な意見の合計は85.4%で前回は0.9ポイント上回っていた。また、「教科書・指導書はなかった」は前回と同じ8.7%でやや多めであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか?」という質問であるが、「十分役立った」は前回は5.3ポイント上回る50.1%となり、高く評価する意見が過半数を占めていた。そして、「役立った」の45.6%を加えると肯定的な意見の合計は95.7%となり、これも過去最高であった。

■E:教科書・指導書の適切さ



■適切だった □まあ適切だった □あまり適切ではなかった
 ■適切ではなかった ■教科書・指導書はなかった □無回答

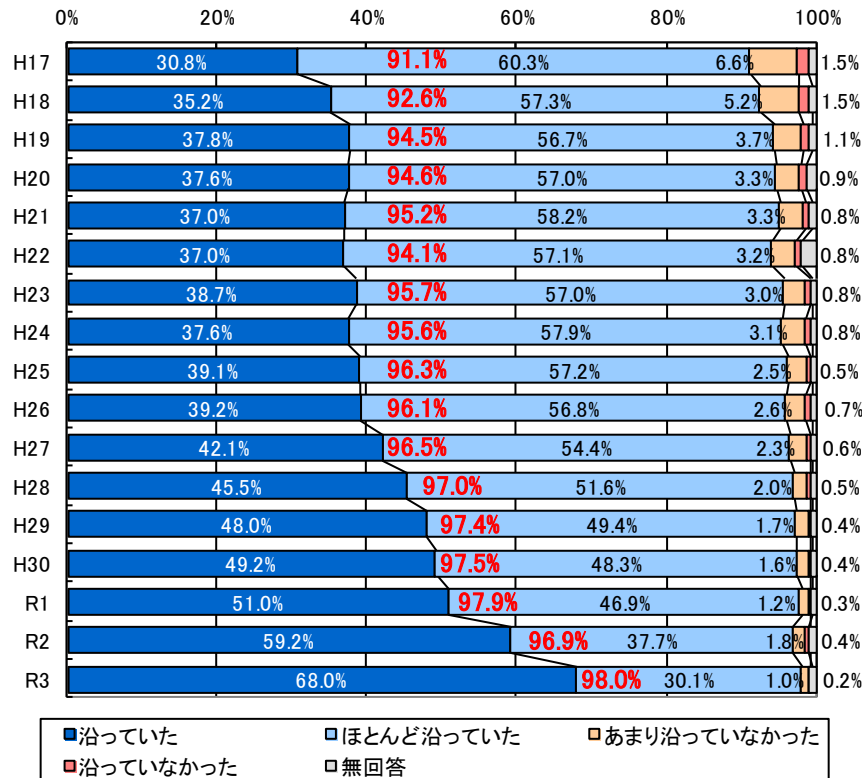
■F:課題・レポートの適切さ



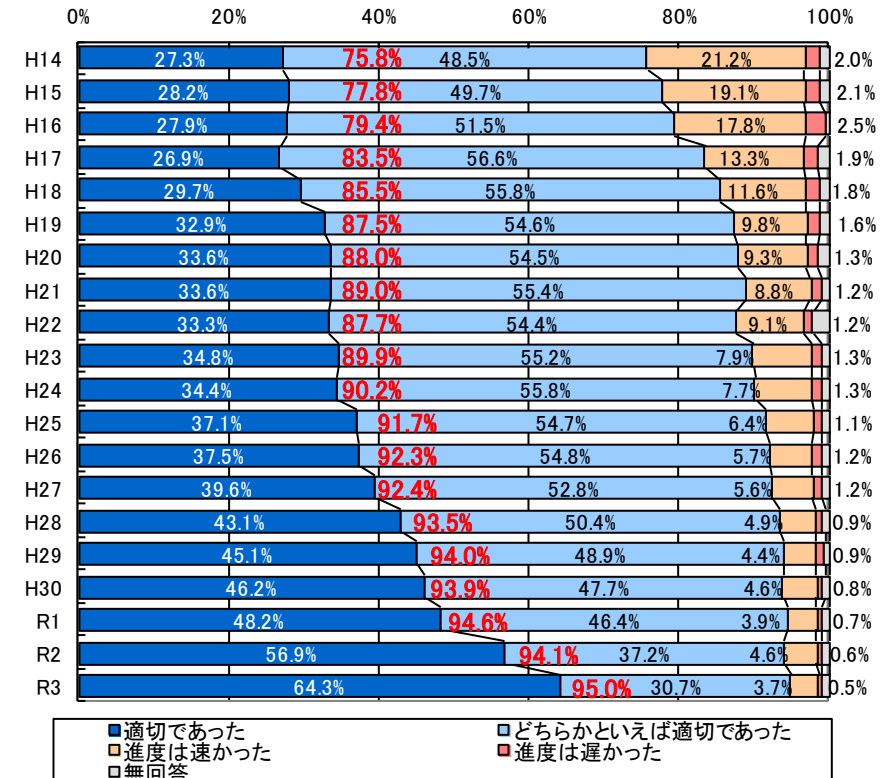
■十分役立った □役に立った
 ■あまり役立たなかった ■課題またはレポート等はなかった
 □無回答

- 「G:学習支援計画書との一致」は「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問であるが、「沿っていた」は前回は8.8ポイントと大幅に上回って過去最高の68.0%であり、ほぼ7割が高く評価する意見であった。そして、「ほとんど沿っていた」の30.1%を加えると肯定的な意見の合計は98.0%となり、ほぼ全員が肯定的な評価をしていた。
- 「H:授業の進度の適切さ」は「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問であるが、「適切であった」は前回は7.4ポイント上回って過去最高の64.3%であり、ここでも継続的な増加が続いていた。そして、「どちらかといえば適切であった」の30.7%を加えると肯定的な意見の合計は95.0%となり、これも過去最高の評価となっていた。

■ G: 学習支援計画書との一致

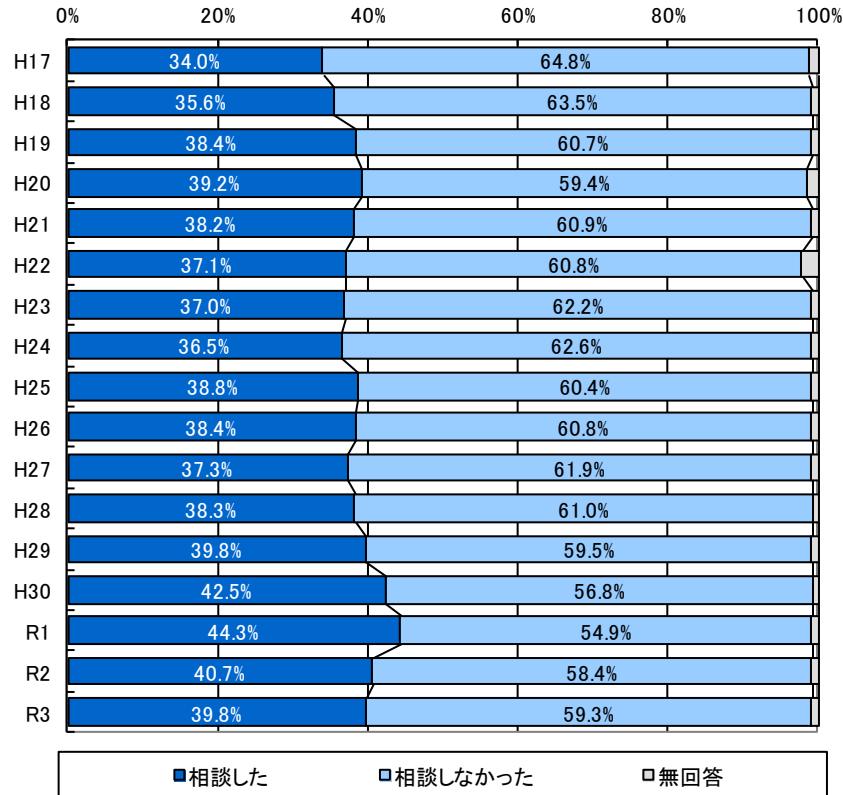


■ H: 授業の進度の適切さ



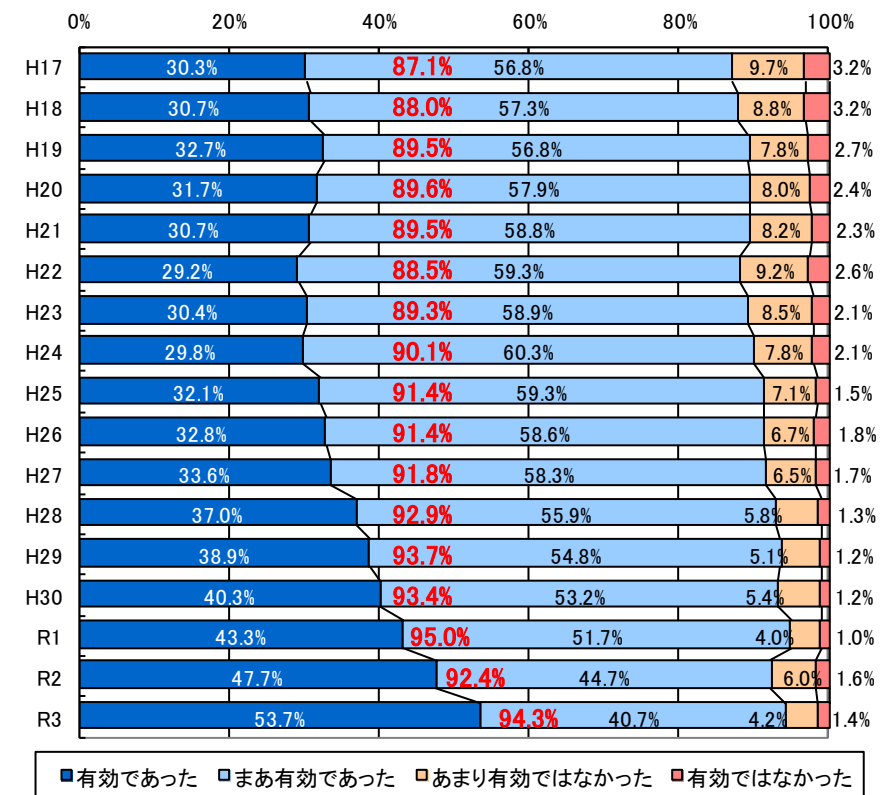
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であり、「有効であった」～「有効ではなかった」という内容の評価と、「相談しなかった」という5つの選択肢で聞いている。
- まず、左のグラフでは、「有効であった」～「有効ではなかった」の4段階評価で回答した学生を「相談した」層とし、それ以外を「相談しなかった」層として「学習相談の有無」を見ている。今回の「相談した」は39.8%であり、R1から徐々に減少傾向が続いていた。そして、約6割が「相談しなかった」と答えていた。
- 右グラフでは、相談経験者に絞り込んで「学習相談(OH、チューター)の有効性」を見ているが、「有効であった」は増加傾向が継続しており、前回は6.0ポイント上回って過去最高の53.7%となっていた。そして、「まあ有効であった」が40.7%であり、肯定的な意見の合計は94.3%となっていた。これはR1に次ぐものであったが、「有効であった」の割合を見ると「学習相談(OH、チューター)」の評価は非常に高いと言える。

■ 学習相談の有無

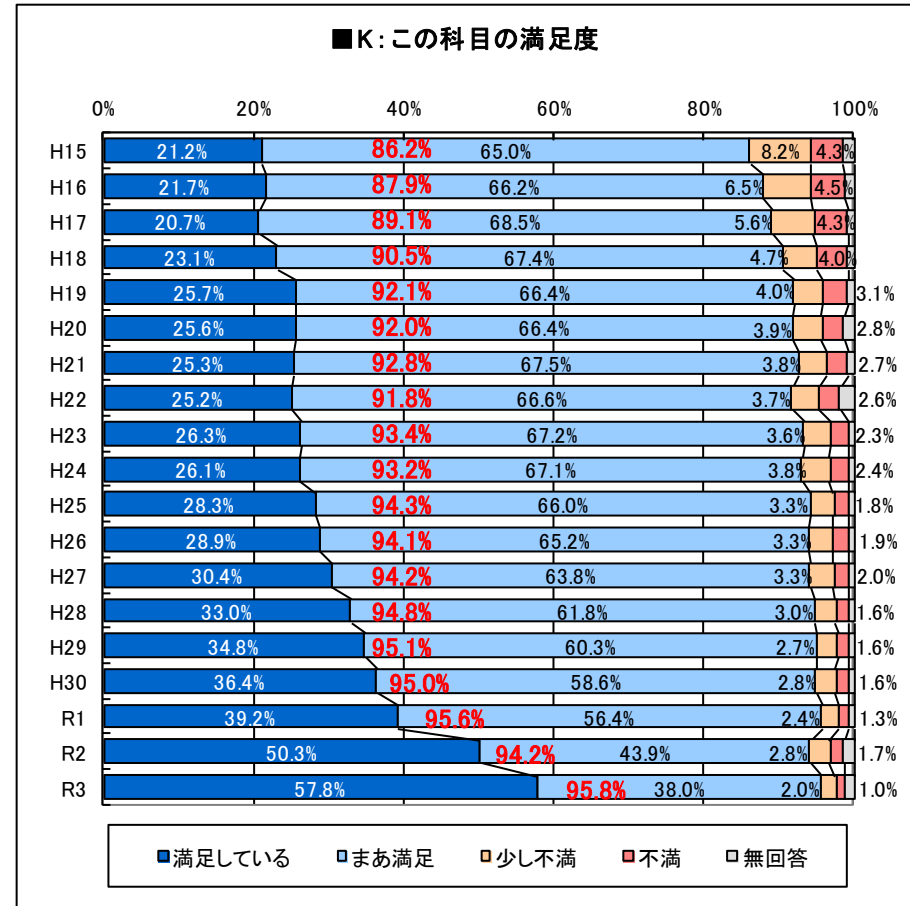
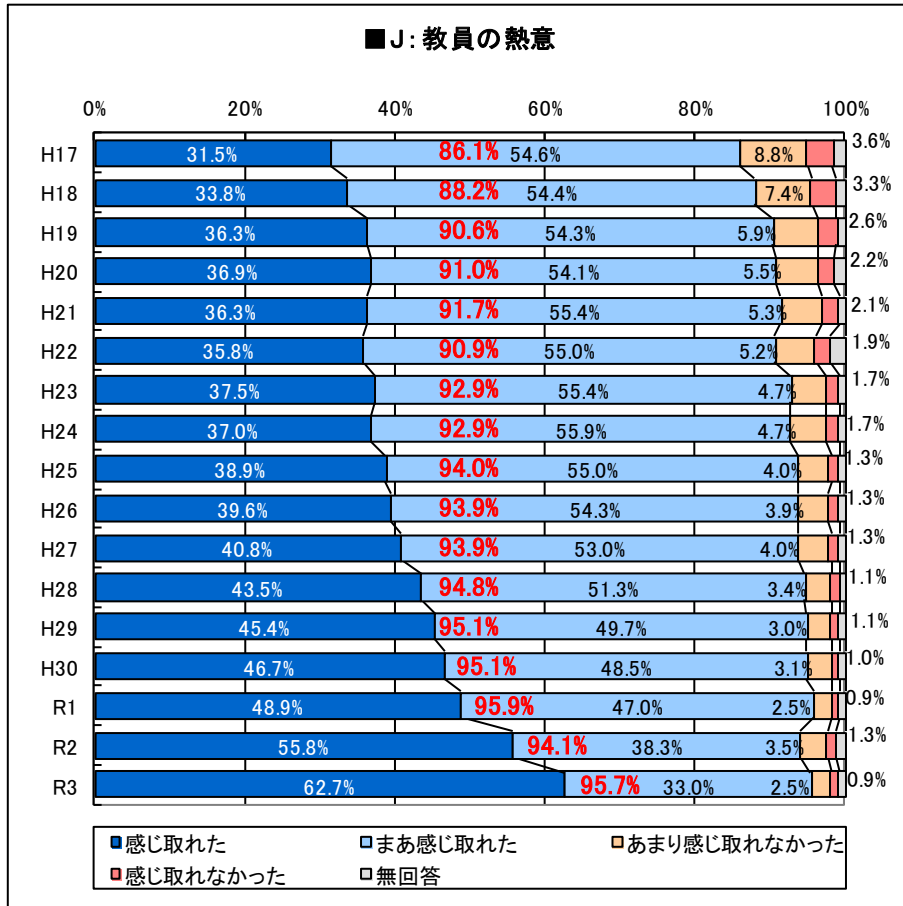


■ I: 学習相談(OH、チューター)の有効性

※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」は「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じる事ができましたか?」という質問であるが、「感じ取れた」は前回は6.9ポイント上回って過去最高の62.7%となっており、継続的な増加が続いていた。そして、「まあ感じ取れた」の33.0%を加えると肯定的な意見の合計は95.7%となり、ほとんどの学生が教員の熱意を感じると答えていた。
- 「K:この科目の満足度」では、「満足している」が前回は7.5ポイント上回って過去最高の57.8%であった。そして、「まあ満足」の38.0%を加えると肯定的な意見の合計は95.8%となり、これも過去最高であった。「満足している」の割合は継続的に増加しているが、R1以降の増加は非常に急激であり、R1と比べると18.6ポイントの差となっていた。これを見ると、ほとんどの学生が授業に満足と答えており、その満足度も非常に高いものとなっていると言える。



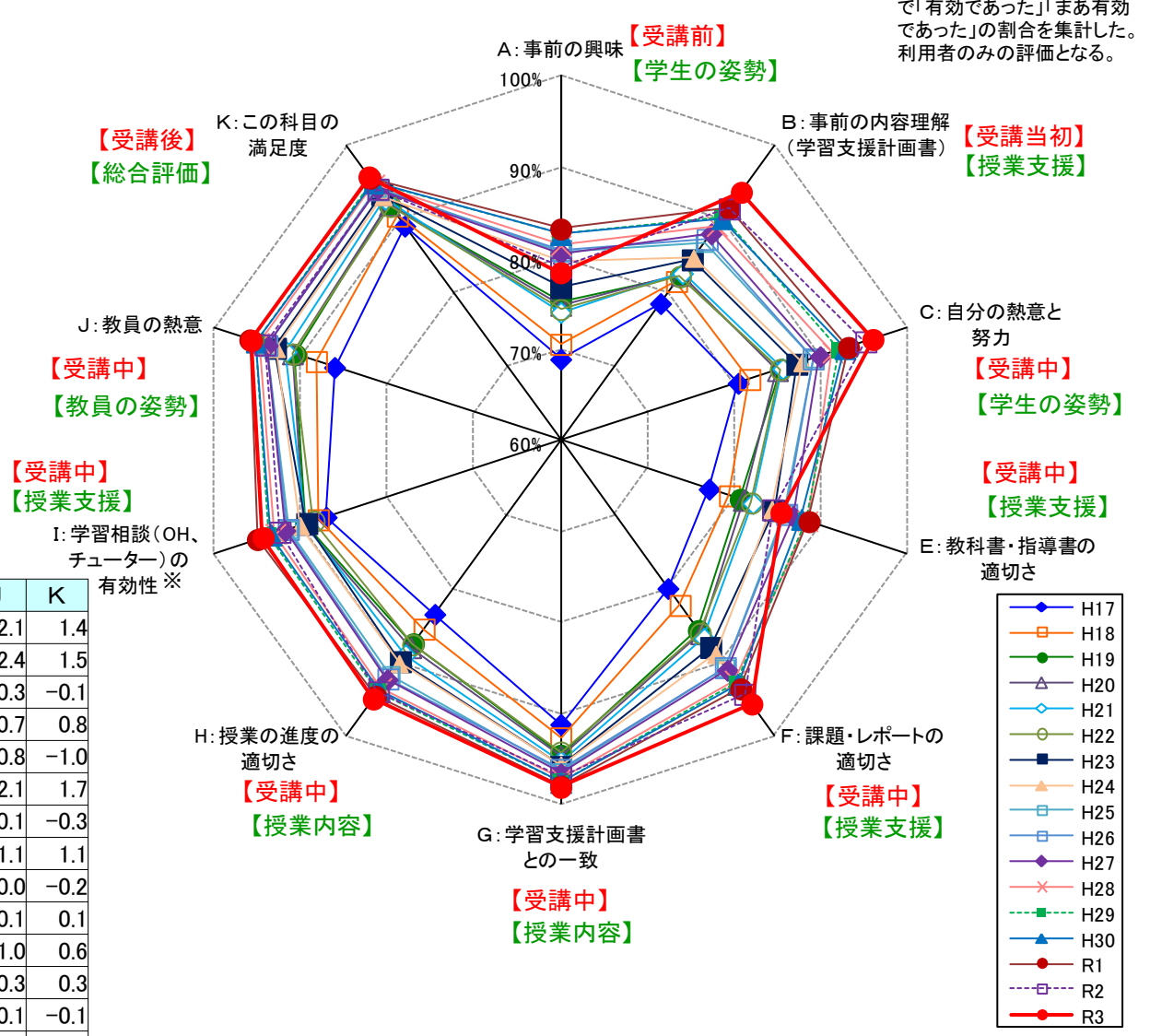
<2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

- 肯定的な意見の割合(%)をレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 比較のできない「D: 予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 今回の肯定的な意見の合計を見ると、「A: 事前の興味」だけが前を下回っていた。今回はこの項目と、「E: 教科書・指導書の適切さ」「I: 学習相談(OH、チューター)の有効性」「J: 教員の熱意」の4項目以外で過去最高となっていた。
- ここには表れないが、回答の内訳を見ても強く評価する意見が増加しており、全体的に評価は非常に高くなっていると言える。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

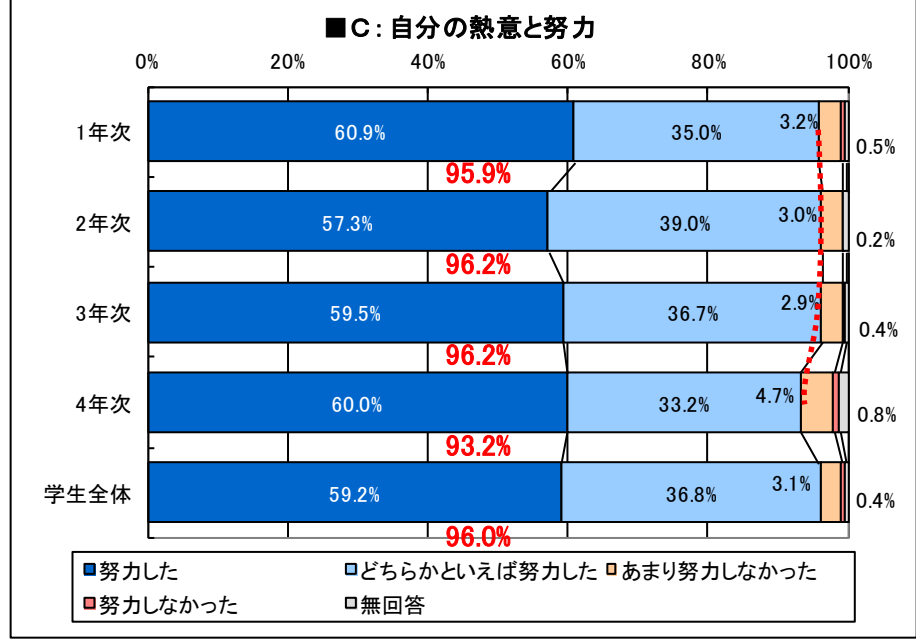
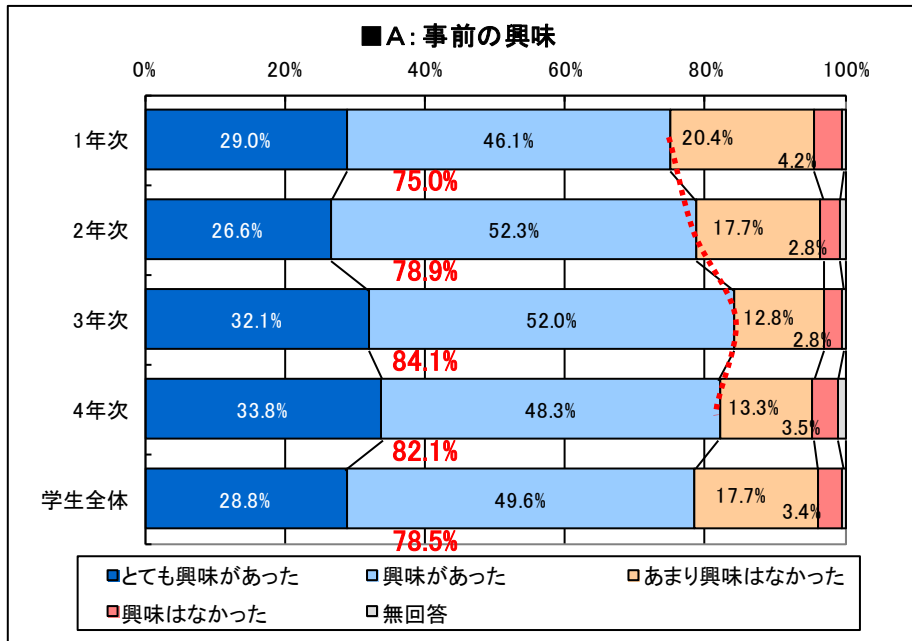
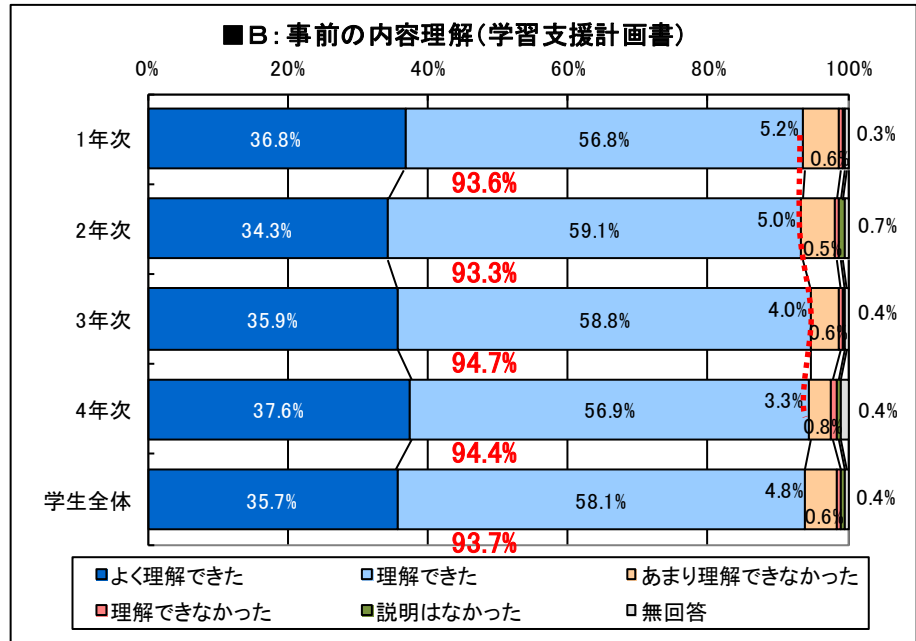
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1
H27からH28	0.9	1.0	1.4	1.7	1.4	0.5	1.1	1.1	1.0	0.6
H28からH29	1.3	1.1	0.8	0.0	0.5	0.4	0.5	0.8	0.3	0.3
H29からH30	-0.1	-0.1	0.6	-0.5	0.0	0.1	-0.1	-0.3	0.1	-0.1
H30からR1	0.6	1.3	0.4	0.9	0.6	0.4	0.7	1.6	0.7	0.7
R1からR2	-4.3	0.0	2.0	-4.2	0.7	-1.0	-0.6	-2.6	-1.7	-1.4
R2からR3	-0.5	2.3	0.8	1.0	1.3	1.1	1.0	1.9	1.6	1.7

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

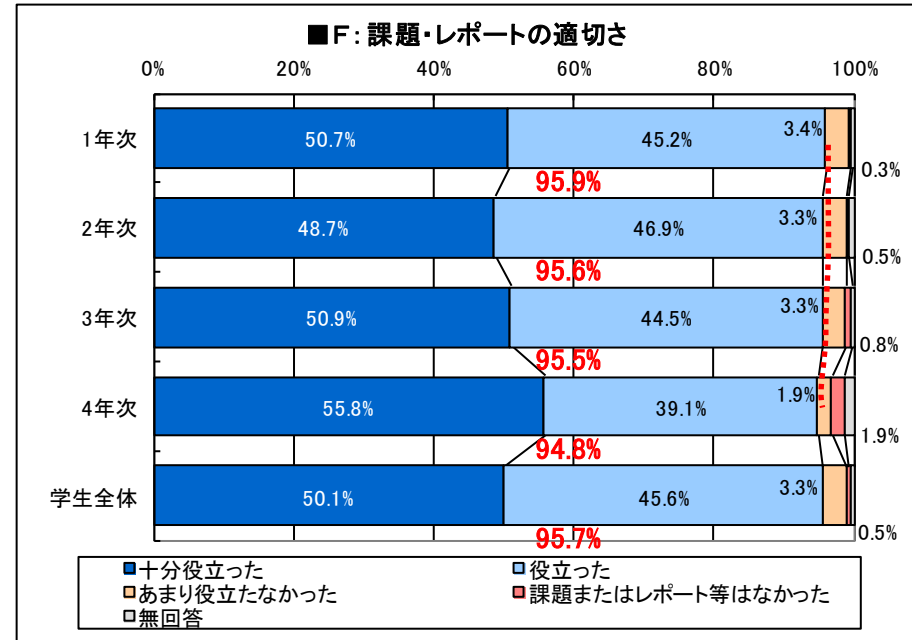
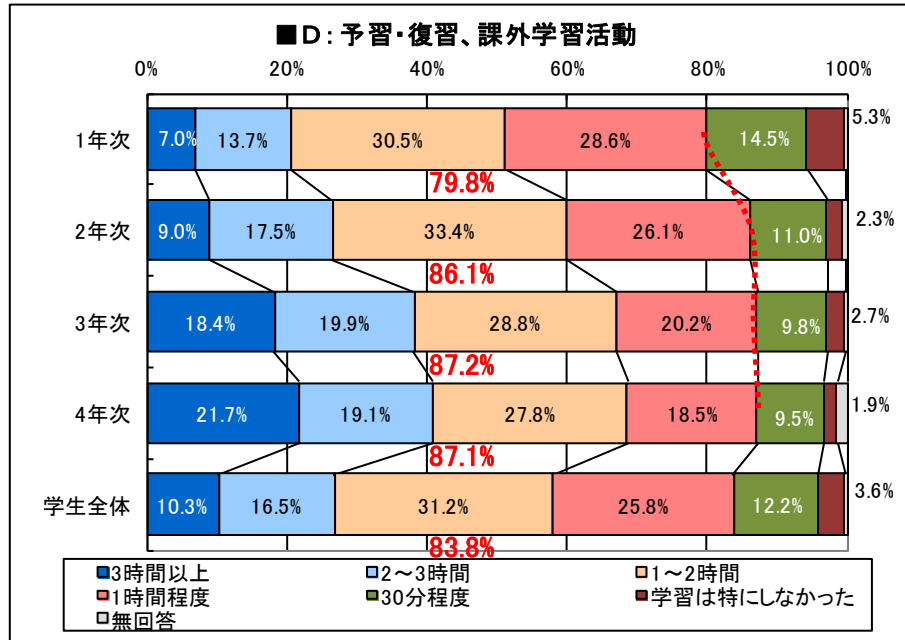
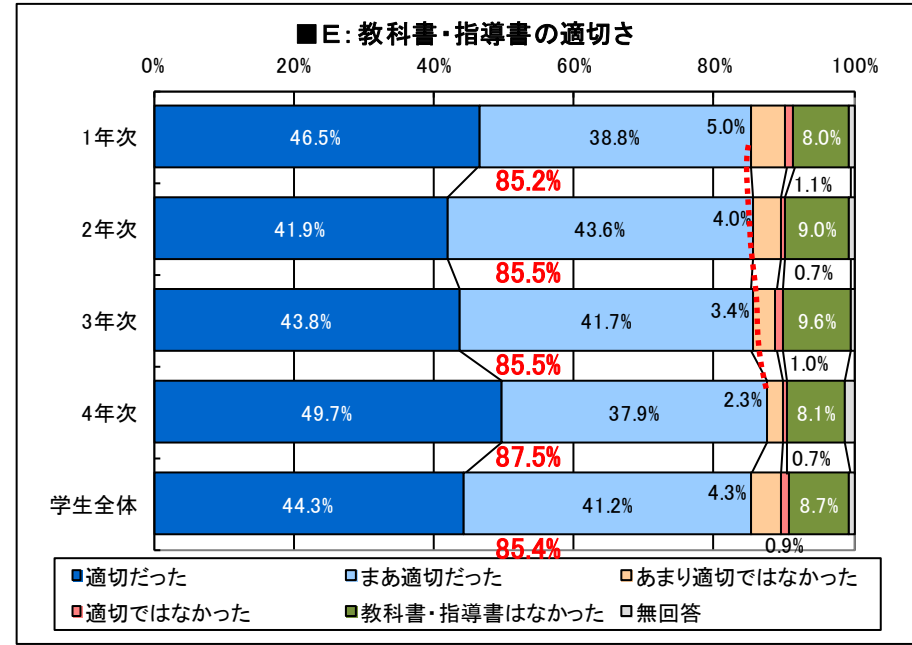


<3> 学年別の分析

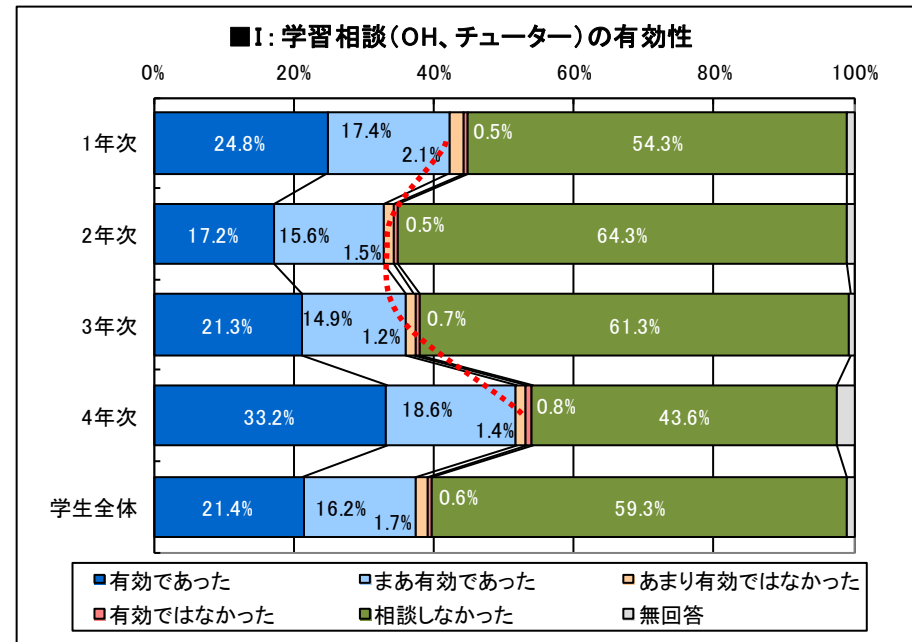
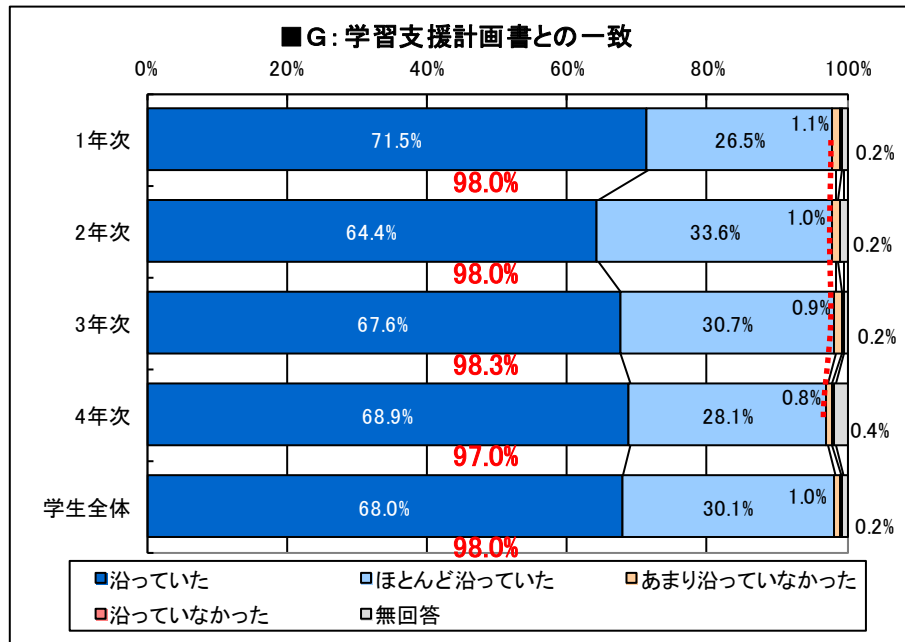
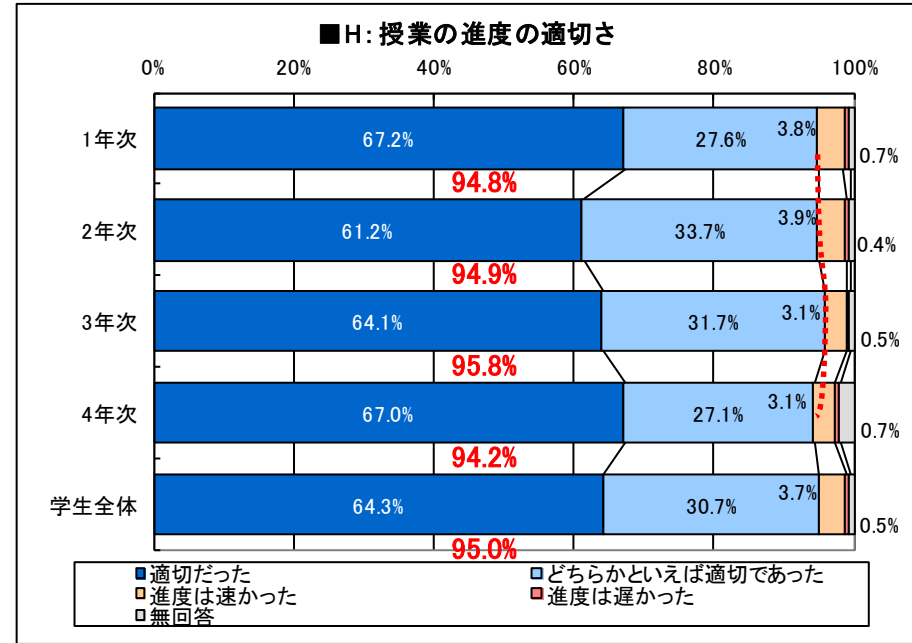
- 赤太文字は、肯定的な意見の合計を示している。
- 「A:事前の興味」では、「1年次」から「3年次」にかけては高学年ほど肯定的な意見が多くなり、差は最大で9.1ポイントであった。そして、「4年次」でやや減少していたものの、「とても興味があった」だけを見ると「4年次」が33.8%と最も多かった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見の合計は「2年次」が93.3%と最も少なく、次いで「1年次」「4年次」「3年次」の順となっていたが、差は非常に少なく、最も少ない「2年次」と最も多い「3年次」との差は1.4ポイントと非常に少なかった。そして、「よく理解できた」の差も最大で3.3ポイントと大きくはなかった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見の合計は「4年次」が93.2%と最も少なく、「2年次」と「3年次」が96.2%で最も多かった。そして、差は最大でも3.0ポイントと大きくはなかった。



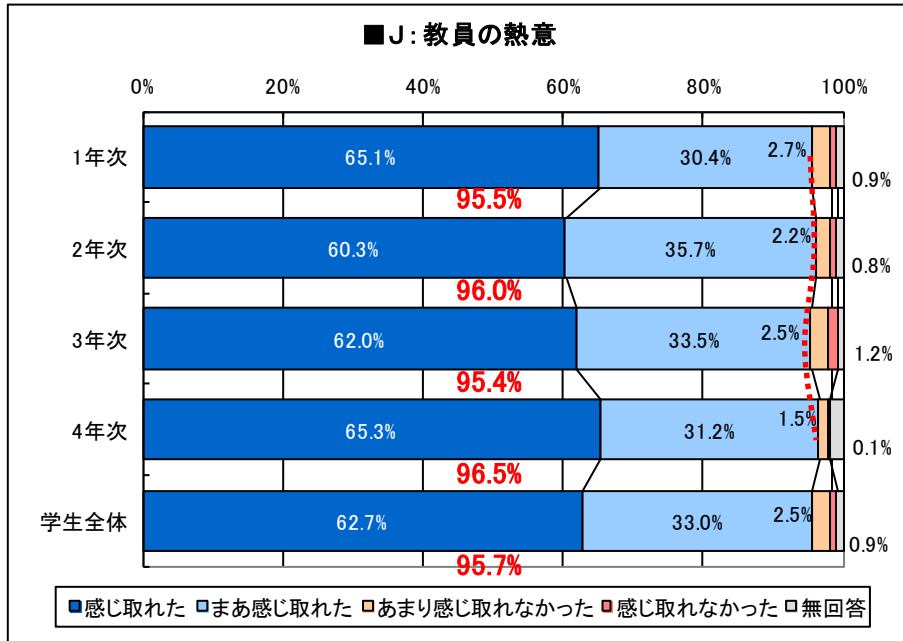
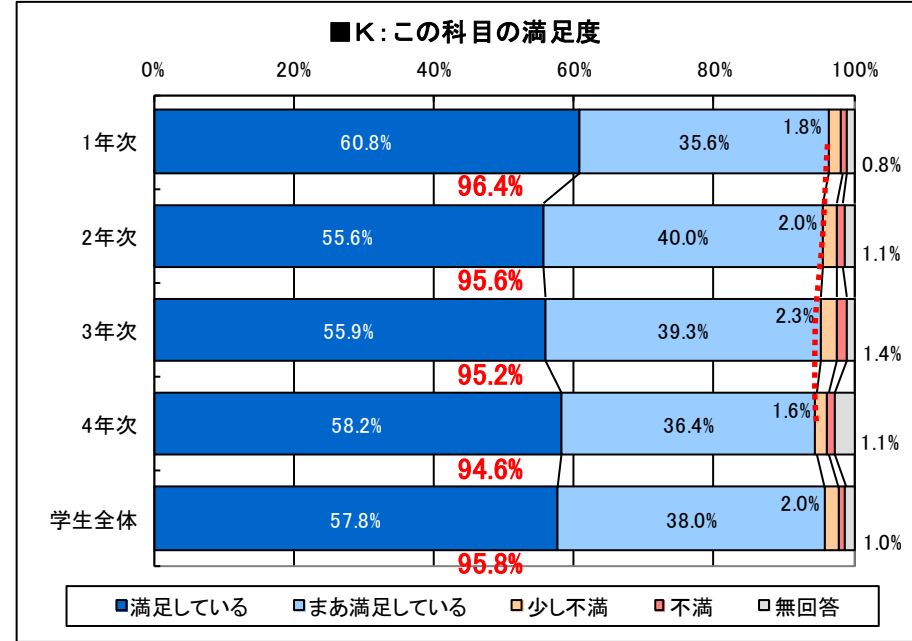
- 「D:予習・復習、課外学習活動」で「1時間程度」までの合計(グラフ内の赤太文字)を学年別に比較すると、最も多かったのは「3年次」の87.2%で、「4年次」「2年次」「1年次」と続いており、差は最大でも7.4ポイントと大きくなかった。ただし、内訳を見ると「3時間以上」は「4年次」が21.7%、「3年次」が18.4%と多く、「1年次」では7.0%となるなど、高学年ほどしっかりと学習時間を確保している様子うかがえた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の87.5%で、「2年次」と「3年次」が85.5%、「1年次」が85.2%となっており、差は少ないが高学年ほど高評価となっていた。「適切だった」も「4年次」が最も多かったが、それに次ぐのは「1年次」であり、最も少なかったのは「2年次」であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的意見が最も多かったのは「1年次」の95.9%であり、「2年次」が95.6%、「3年次」が95.5%、「4年次」が94.8%と、差はわずかではあるが高学年ほど低評価となっていた。ただし、いずれの学年も非常に高い評価であり、全学年で、ほとんどの学生が肯定的な意見となっていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の98.3%であり、「1年次」と「2年次」が98.0%、「4年次」が97.0%で続き、学年との相関関係は見られなかった。学年間の差は非常に少なく、全学年でほとんどの学生が肯定的な意見となっていた。そして、「1年次」では「沿っていた」が71.5%とやや多かった。
- 「H:授業の進度の適切さ」の肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の95.8%であり、「2年次」が94.9%、「1年次」が94.8%、「4年次」が94.2%で続いており、学年間の差は最大でも1.6ポイントと少なく、全学年で高い評価となっていた。そして、「1年次」で「適切だった」が多かった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」を見ると、「4年次」が特徴的であり、「有効であった」が33.2%で最も多く、「相談しなかった」が43.6%で少なさが目立っていた。次いで、「1年次」で「有効であった」が多く「相談しなかった」が少なくなっており、この2学年が学習相談をしっかりと利用しているようであった。そして、学習相談の利用が最も少ないのは「2年次」であり、「相談しなかった」が64.3%を占めていた。

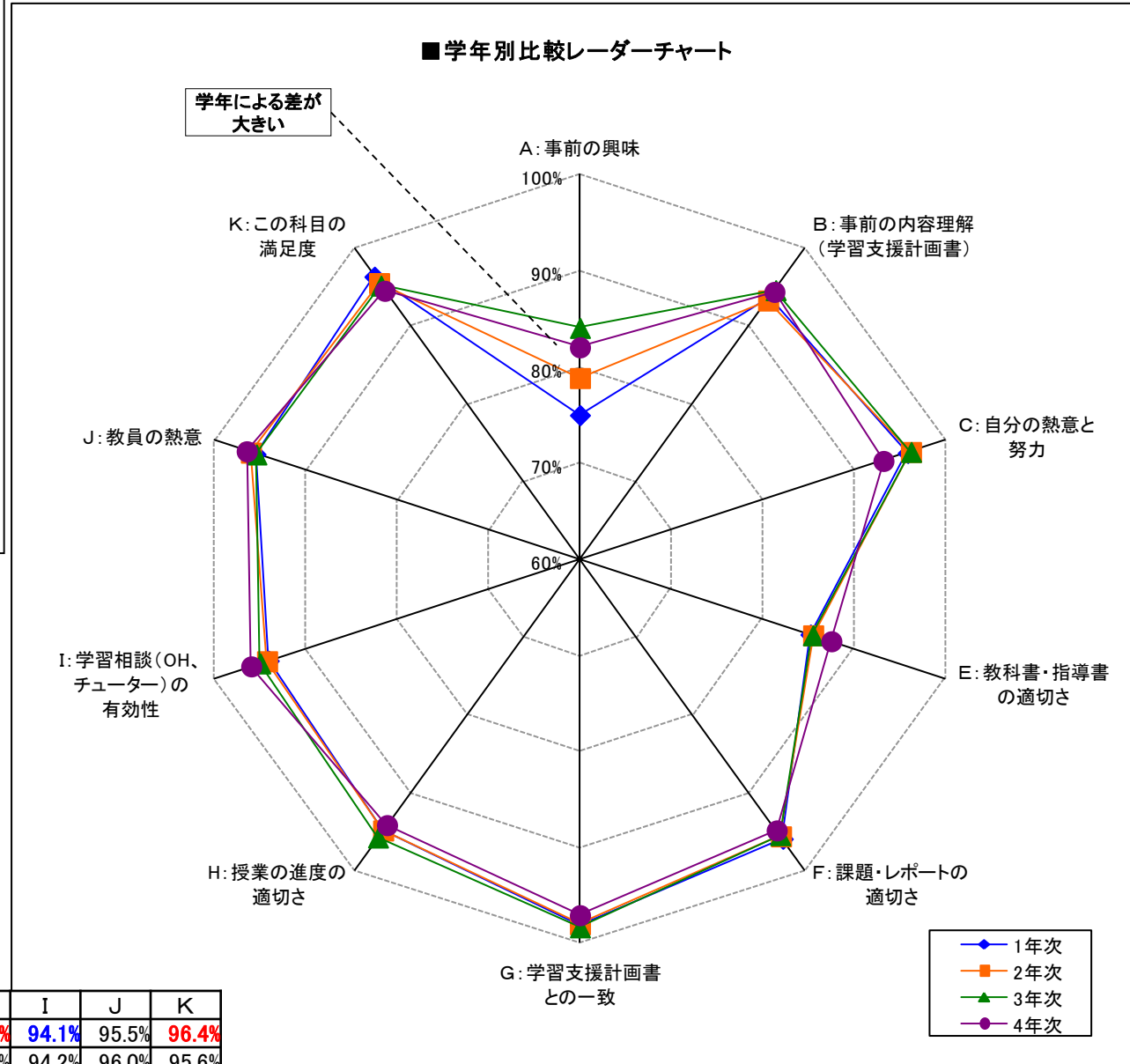


- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「4年次」の96.5%であった。次いで、「2年次」が96.0%、「1年次」が95.5%、「3年次」が95.4%で続いていた。学年間の差は最大でも1.1ポイントと小さく、いずれの学年でもほとんどの学生が教員の熱意を感じており、「感じ取れた」という評価も全学年で6割以上を占めていた。
- 「K:この科目の満足度」の肯定的な意見は「1年次」が96.4%と最も多かった。特に「満足している」も60.8%と最も多く、強く満足している学生が多かった。次いで、「2年次」が95.6%、「3年次」が95.2%、「4年次」が94.6%で続いており、高学年ほど満足という意見が減少していた。ただし、差は最大でも1.8ポイントと小さく、学年による満足度の差はほとんどないと言って良いと思われる。



<3-2> 肯定的な意見の学年別比較

- 肯定的な意見の割合を学年別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 学年による差が目立っていたのは、「A:事前の興味」であり、「3年次」の興味が最も強く、次いで、「4年次」「2年次」「1年次」の順で徐々に低下していた。
- 上記以外の項目では、学年による大きな差は見られなかった。
- 下表のように肯定的な意見の合計で見ても、「4年次」は「C:自分の熱意と努力」「F:課題・レポートの適切さ」「G:学習支援計画書との一致」「H:授業の進度の適切さ」「K:この科目の満足度」の5項目で最も低かったが、差はわずかであり、目立つものではなかった。そして、目立って高い学年も見られなかった。



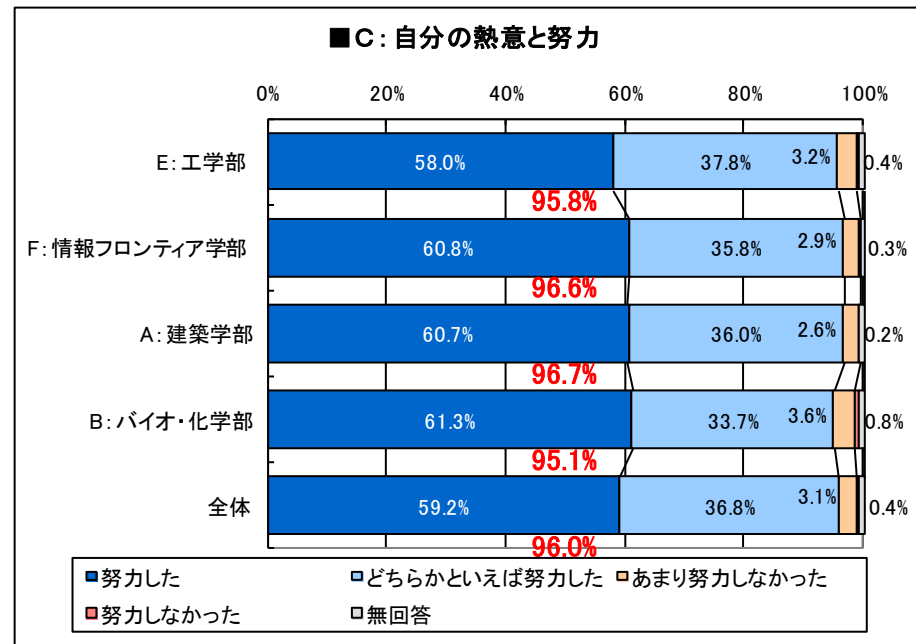
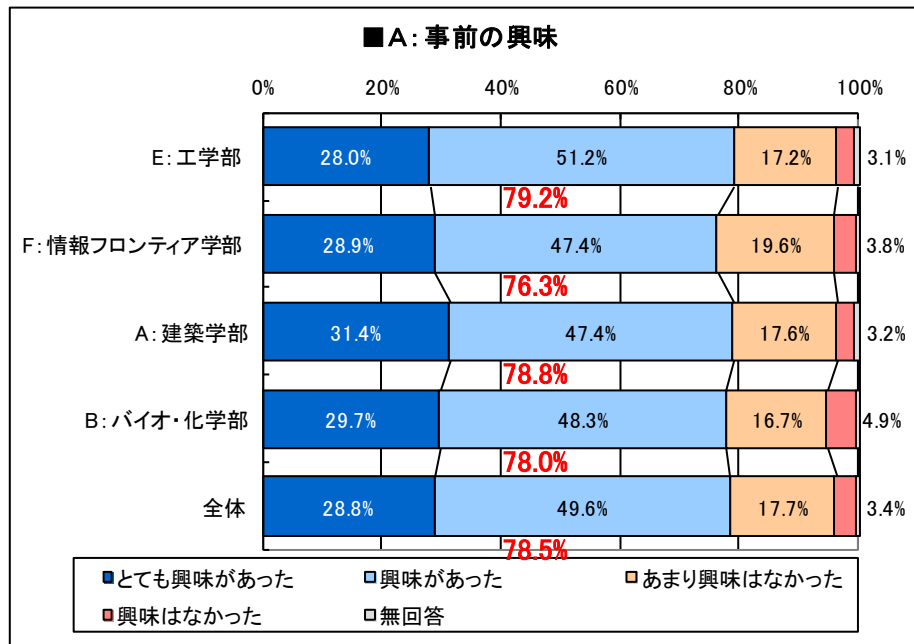
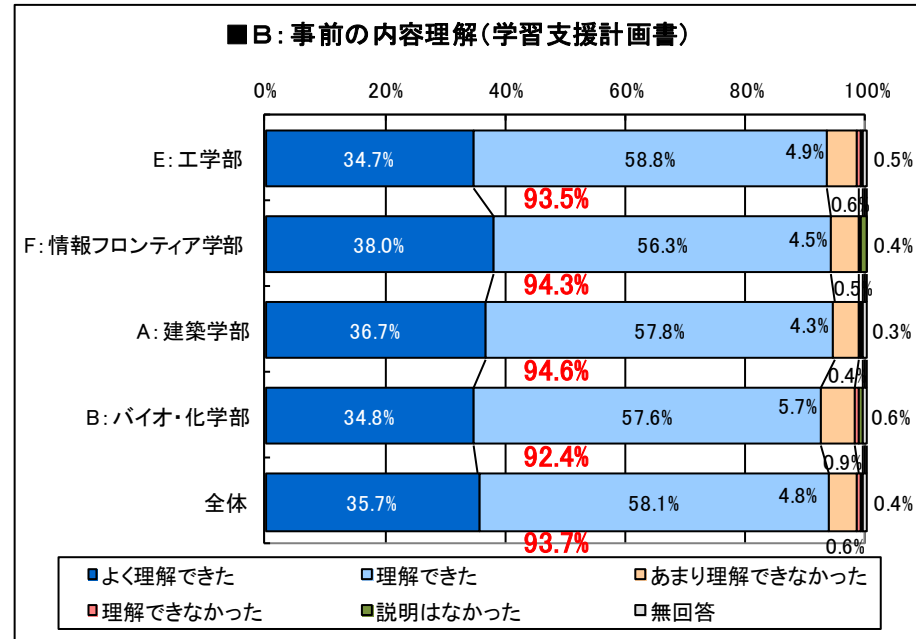
■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次	75.0%	93.6%	95.9%	85.2%	95.9%	98.0%	94.8%	94.1%	95.5%	96.4%
2年次	78.9%	93.3%	96.2%	85.5%	95.6%	98.0%	94.9%	94.2%	96.0%	95.6%
3年次	84.1%	94.7%	96.2%	85.5%	95.5%	98.3%	95.8%	95.0%	95.4%	95.2%
4年次	82.1%	94.4%	93.2%	87.5%	94.8%	97.0%	94.2%	96.0%	96.5%	94.6%

※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

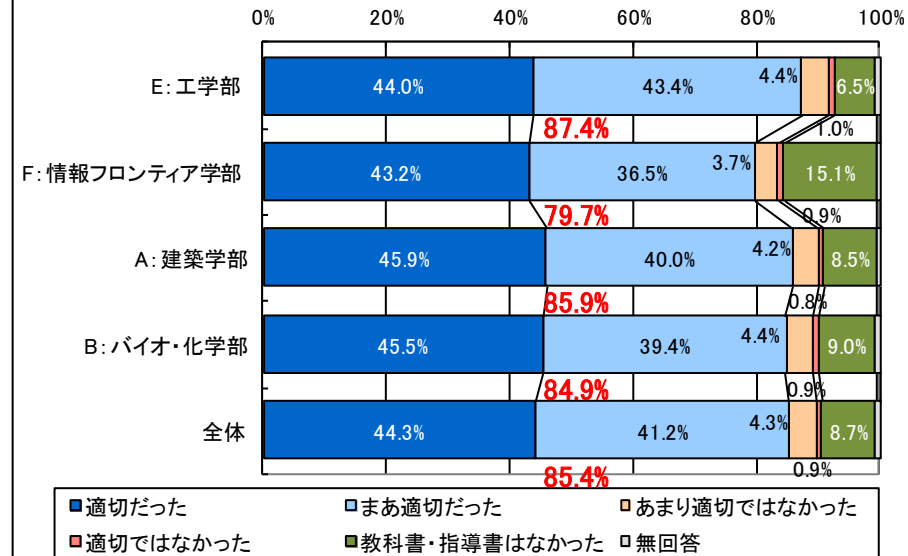
<4> 学部・学科別の分析

- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」の79.2%であった。そして、「A:建築学部」が78.8%、「B:バイオ・化学部」が78.0%、「F:情報フロンティア学部」が76.3%で続いており、差は最大でも2.9ポイントと小さかった。そして、「とても興味があった」は「A:建築学部」が31.4%と最も多かったが、最も少ない「E:工学部」の28.0%との差は3.4ポイントと小さかった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の94.6%であり、「F:情報フロンティア学部」が94.3%、「E:工学部」が93.5%、「B:バイオ・化学部」が92.4%で続いており、差は最大でも2.2ポイントと小さかった。
- 「C:自分の熱意と努力」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の96.7%であり、「F:情報フロンティア学部」が96.6%、「E:工学部」が95.8%、「B:バイオ・化学部」が95.1%で続いており、差は最大でも1.6ポイントと小さかった。そして、「努力した」はいずれの学部でも約6割を占めており、こちらの差も最大で3.3ポイントと小さく、熱意と努力を持って授業を受けていた様子が見えられた。

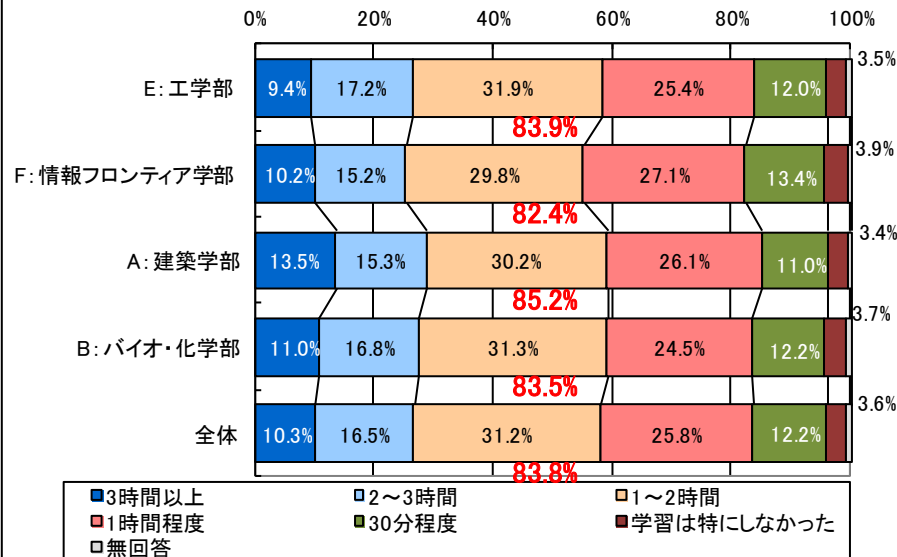


- 「D:予習・復習、課外学習活動」の「1時間程度」までの合計を見ると、最も多かったのは「A:建築学部」の85.2%であった。次いで、「E:工学部」が83.9%、「B:バイオ・化学部」が83.5%、「F:情報フロンティア学部」が82.4%であり、いずれの学部でもしっかりと勉強しているようであった。内訳を見ると、「A:建築学部」で「3時間以上」が13.5%とやや多かった。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「E:工学部」の87.4%であり、次いで、「A:建築学部」が85.9%、「B:バイオ・化学部」が84.9%で続いており、ここまでの3学部の差は2.5ポイントと小さかった。そして、最も少なかったのは「F:情報フロンティア学部」の79.7%で、他の3学部に比べて少なさが目立っており、「教科書・指導書はなかった」が15.1%と多く、特徴的であった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の96.3%であり、「F:情報フロンティア学部」が96.0%、「E:工学部」が95.6%、「B:バイオ・化学部」が94.7%で続き、差は最大でも1.6ポイントと小さく、いずれの学部でも課題・レポートを高く評価していた。

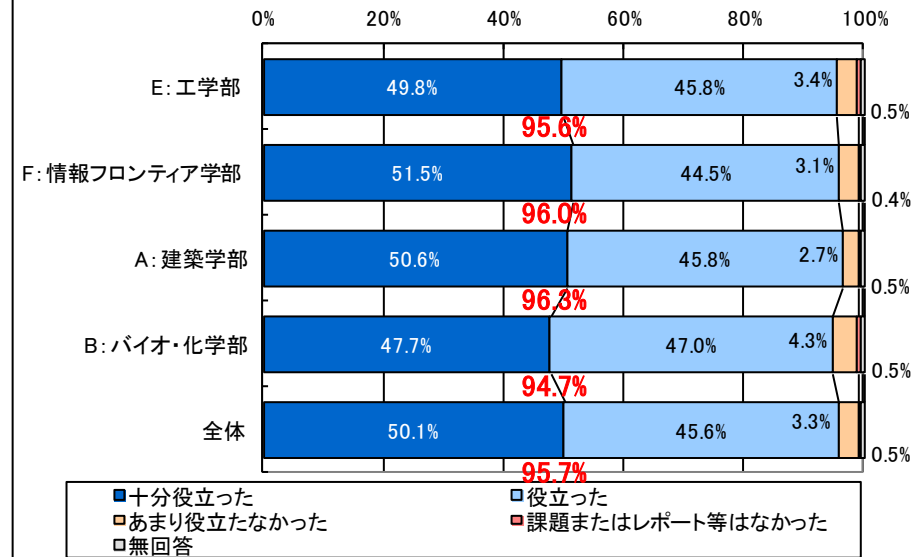
■E:教科書・指導書の適切さ



■D:予習・復習、課外学習活動

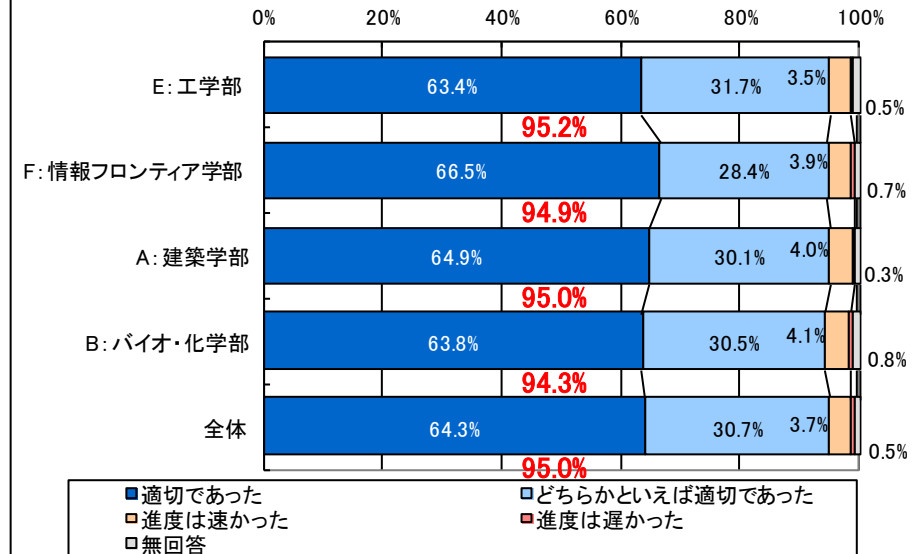


■F:課題・レポートの適切さ

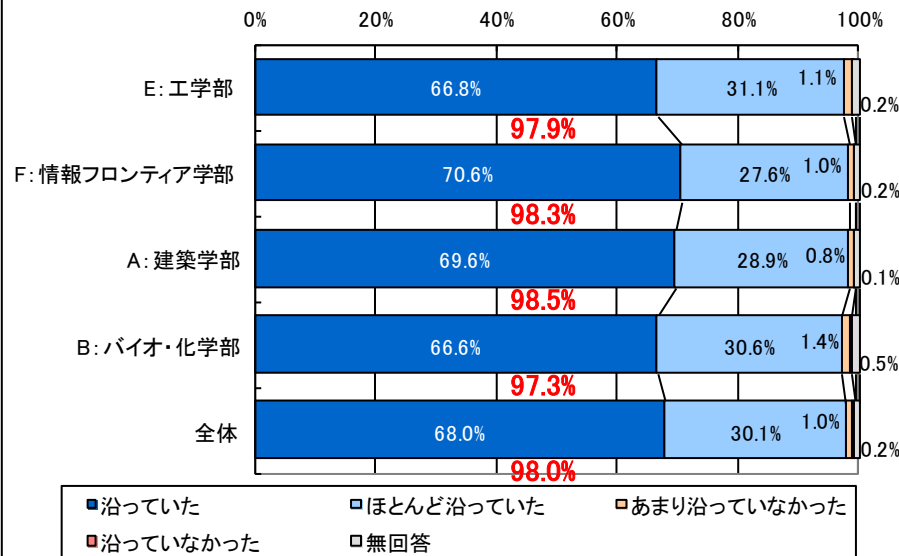


- 「G:学習支援計画書との一致」で肯定的な意見が最も多かったのは「A:建築学部」の98.5%であり、「F:情報フロンティア学部」が98.3%、「E:工学部」が97.9%、「B:バイオ・化学部」が97.3%で続いており、差は最大でも1.2ポイントと小さく、いずれの学部でもほぼ全員が肯定的な意見であった。
- 「H:授業の進度の適切さ」でもすべての学部で肯定的な意見が約95%で、学部間の差も最大で0.9ポイントと非常に小さかった。そして、「適切であった」だけを見ると「F:情報フロンティア学部」が66.5%とやや多く、最も少ない「E:工学部」との差は3.1ポイントであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で、まず「相談しなかった」の割合を見ると、「F:情報フロンティア学部」が62.4%と最も多く、最も少ない「A:建築学部」の54.0%との差は8.4ポイントとやや大きかった。そして、利用者の評価を見ると、否定的な意見はいずれの学部でも3%以内であり、評価は非常に高いと言える。

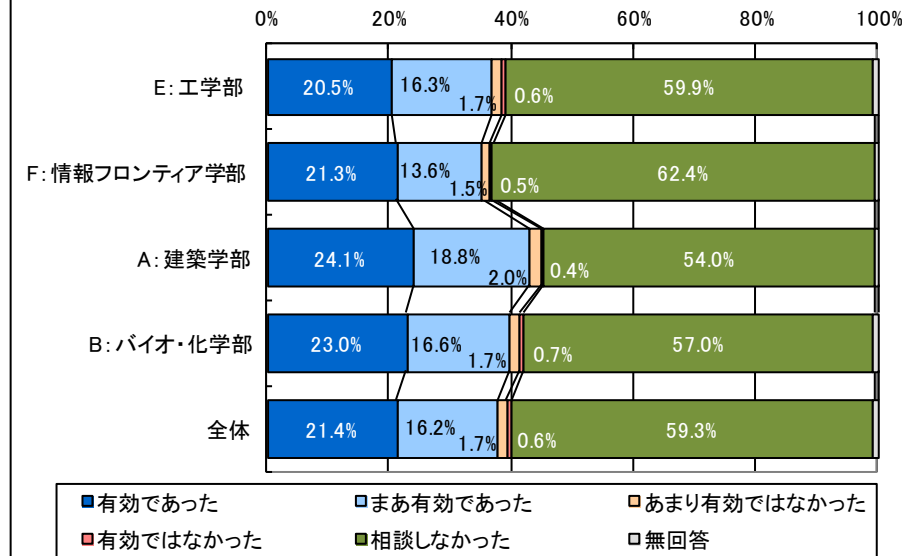
■H: 授業の進度の適切さ



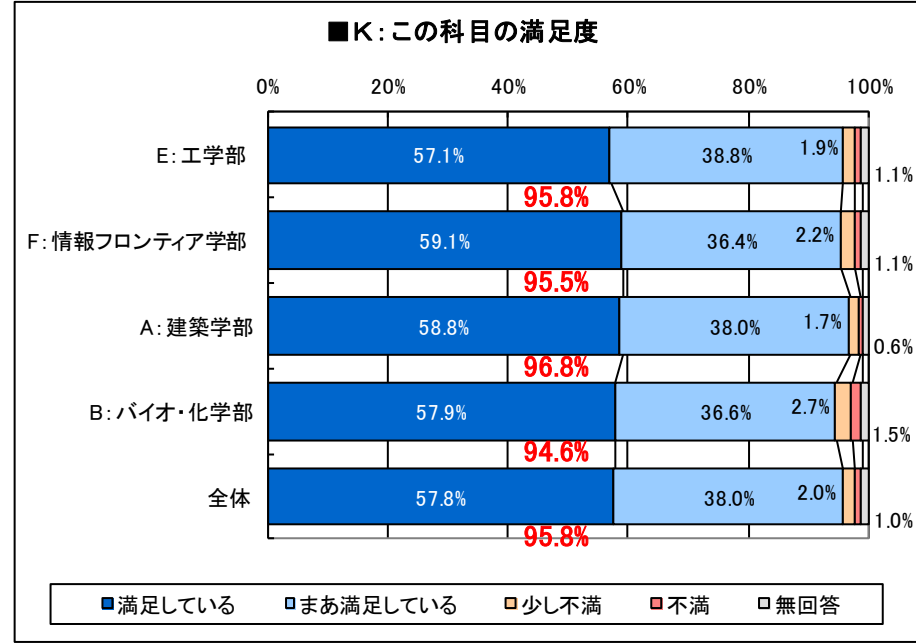
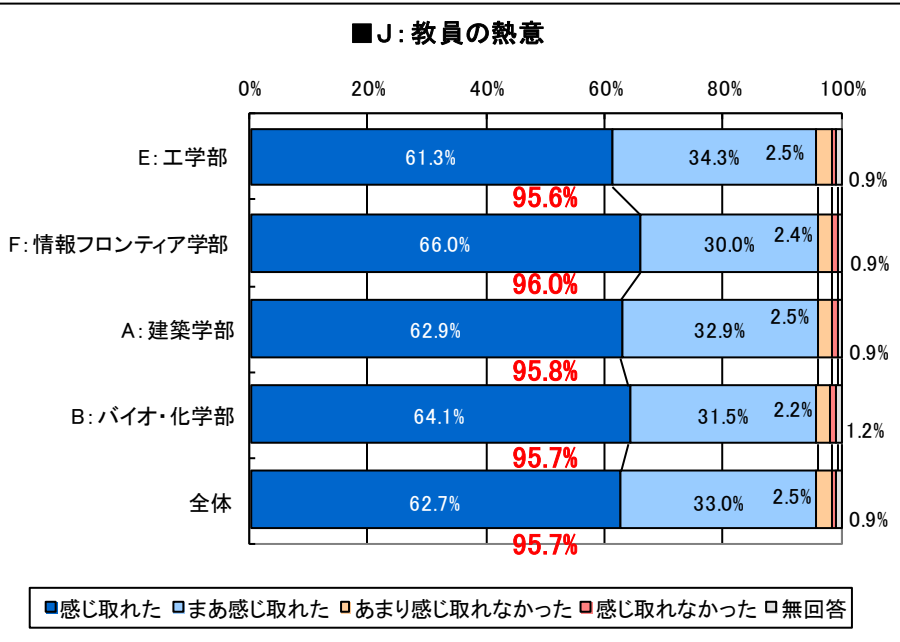
■G: 学習支援計画書との一致



■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



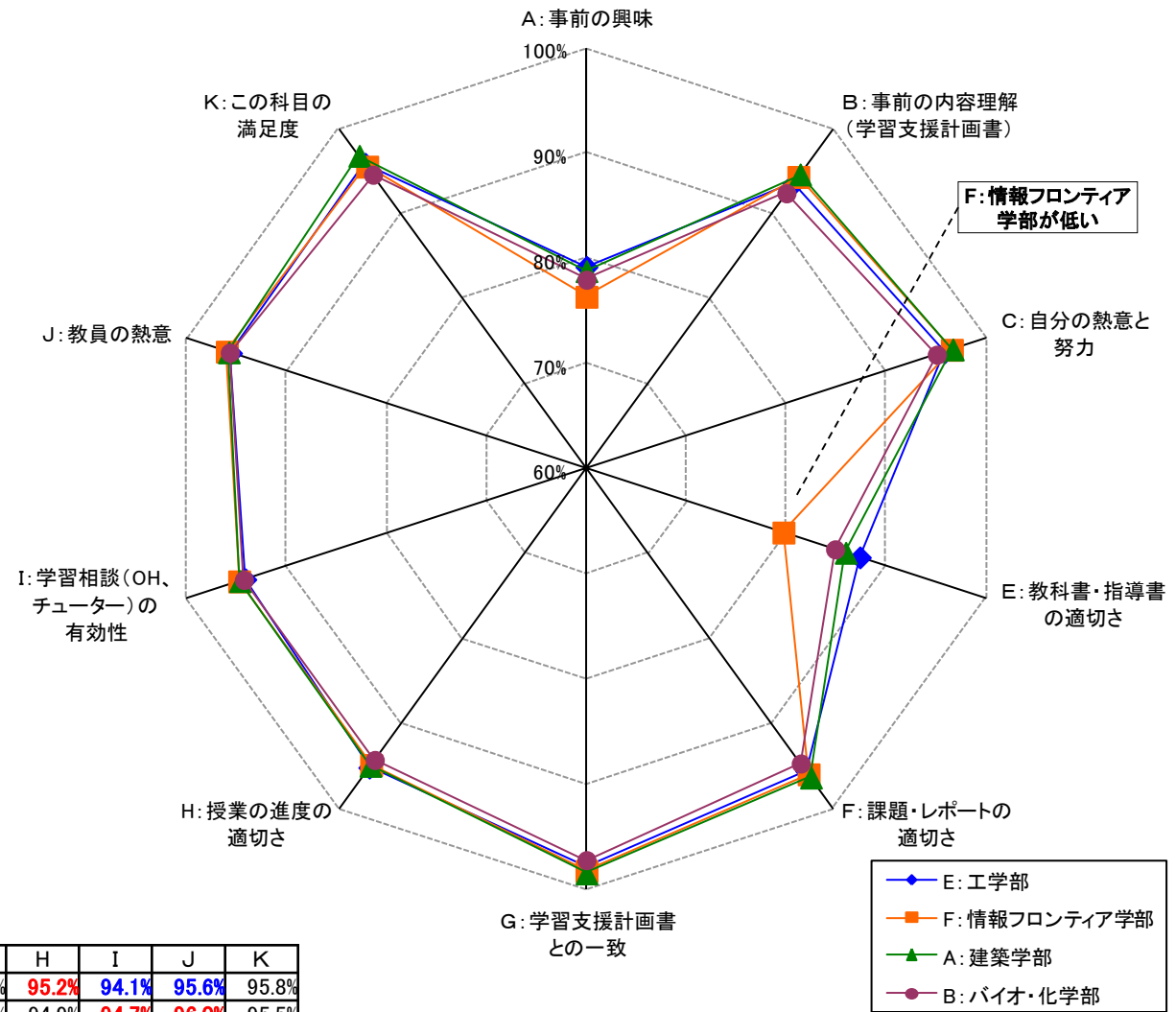
- 「J:教員の熱意」で肯定的な意見が最も多かったのは「F:情報フロンティア学部」の96.0%であり、「A:建築学部」が95.8%、「B:バイオ・化学部」が95.7%、「E:工学部」が95.6%と続いており、差は最大でも0.4ポイントと非常に小さく、いずれの学部でも教員の熱意を高く評価していた。「感じ取れた」も全学部で6割を超えていたが、「F:情報フロンティア学部」が66.0%とやや多かった。
- 「K:この科目の満足度」も肯定的な意見が全学部で95%を超えており、満足度としては非常に高く、学年間の差は最大でも2.2ポイントと小さかった。内訳を見ると、「満足している」は「F:情報フロンティア学部」が59.1%と最も多いものの、いずれの学部でもほぼ6割が強い満足感を感じていた。一方、否定的な意見を見ると、最も多い「B:バイオ・化学部」でも4.2%であり、最終的に授業に不満を感じているという意見は5%にも満たなかった。



- 肯定的な意見の割合を学部別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 全体的に学部による差はほとんど見られなかったが、「F:情報フロンティア学部」の「E:教科書・指導書の適切さ」がやや低かった。
- 表の数値を詳細に見ると、「A:建築学部」は5項目で最も高く、「B:バイオ・化学部」は6項目で最も低かったが、いずれも差はわずかであった。

■学部別比較レーダーチャート

※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者のみでの評価となる。



■学部別比較

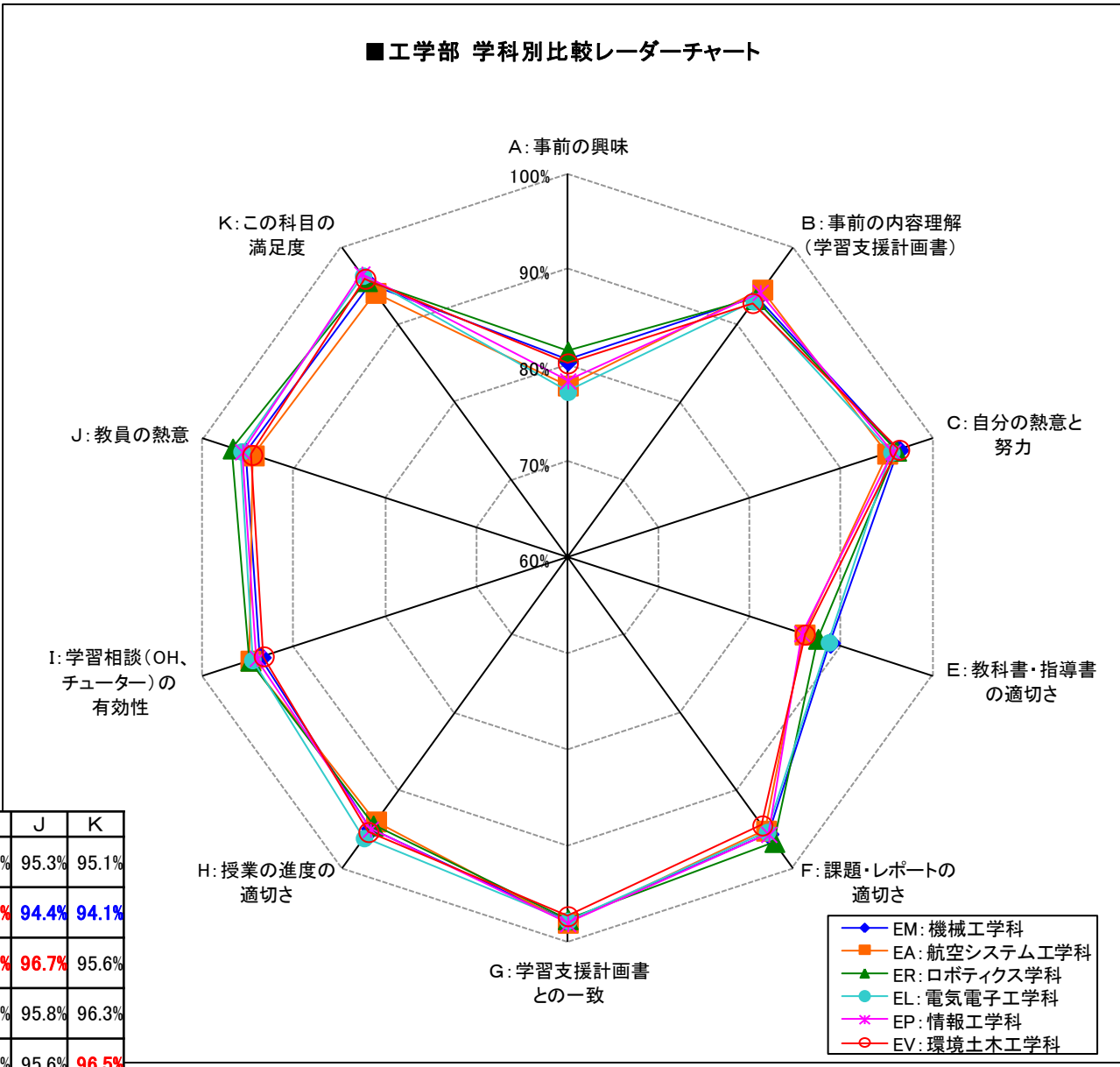
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E: 工学部	79.2%	93.5%	95.8%	87.4%	95.6%	97.9%	95.2%	94.1%	95.6%	95.8%
F: 情報フロンティア学部	76.3%	94.3%	96.6%	79.7%	96.0%	98.3%	94.9%	94.7%	96.0%	95.5%
A: 建築学部	78.8%	94.6%	96.7%	85.9%	96.3%	98.5%	95.0%	94.6%	95.8%	96.8%
B: バイオ・化学部	78.0%	92.4%	95.1%	84.9%	94.7%	97.3%	94.3%	94.3%	95.7%	94.6%

※最高が赤太文字、最低が青太文字としている。

<4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をした。
- グラフで「工学部」の各学科の特徴を見ると、特筆するような差はほとんどないと言って良いと思われる。
- 表の数値を詳細に見ると、「ER:ロボティクス学科」は4項目で最も高く、「EM:機械工学科」「EA:航空システム工学科」「EP:情報工学科」は2項目で、「EL:電気電子工学科」「EV:環境土木工学科」は1項目で最も高かった。
- 一方、低いものを見ると、「EA:航空システム工学科」「EV:環境土木工学科」は4項目で最も低く、「EL:電気電子工学科」「EP:情報工学科」は1項目で最も低かった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート

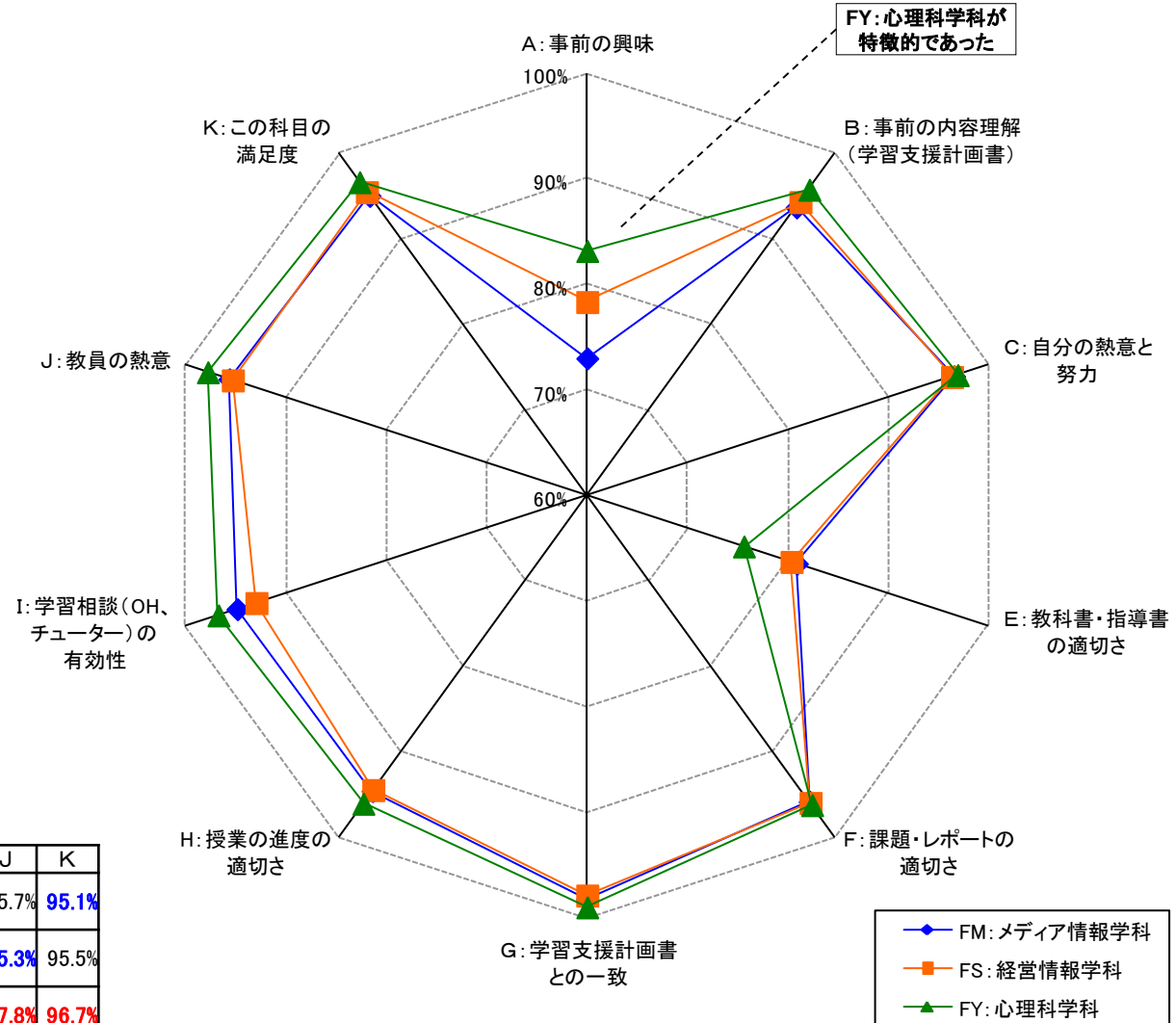


■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM: 機械工学科	80.5%	93.5%	96.3%	88.8%	95.6%	97.9%	94.9%	93.6%	95.3%	95.1%
EA: 航空システム工学科	77.9%	94.5%	95.0%	86.0%	95.2%	98.1%	94.0%	94.8%	94.4%	94.1%
ER: ロボティクス学科	81.5%	93.3%	96.0%	87.4%	96.6%	97.7%	94.5%	94.8%	96.7%	95.6%
EL: 電気電子工学科	77.3%	93.0%	95.5%	88.6%	95.4%	97.9%	96.1%	94.6%	95.8%	96.3%
EP: 情報工学科	78.4%	94.1%	95.6%	85.7%	95.7%	98.2%	95.0%	94.0%	95.6%	96.5%
EV: 環境土木工学科	80.2%	92.8%	96.3%	86.0%	94.5%	97.4%	95.4%	93.3%	94.6%	95.9%

- 「情報フロンティア学部」は3学科の比較であるが、「FY:心理科学科」が特徴的であり、「E:教科書・指導書の適切さ」は目立って低いものの、それ以外のすべての項目では最も高く、特に「A:事前の興味」の高さが目立っていた。
- 一方、「FM:メディア情報学科」と「FS:経営情報学科」は目立って高いものは見られなかったが、「FM:メディア情報学科」では「A:事前の興味」の低さが目立っており、「FS:経営情報学科」は目立つものではないが、10項目中の5項目で最も低かった。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート

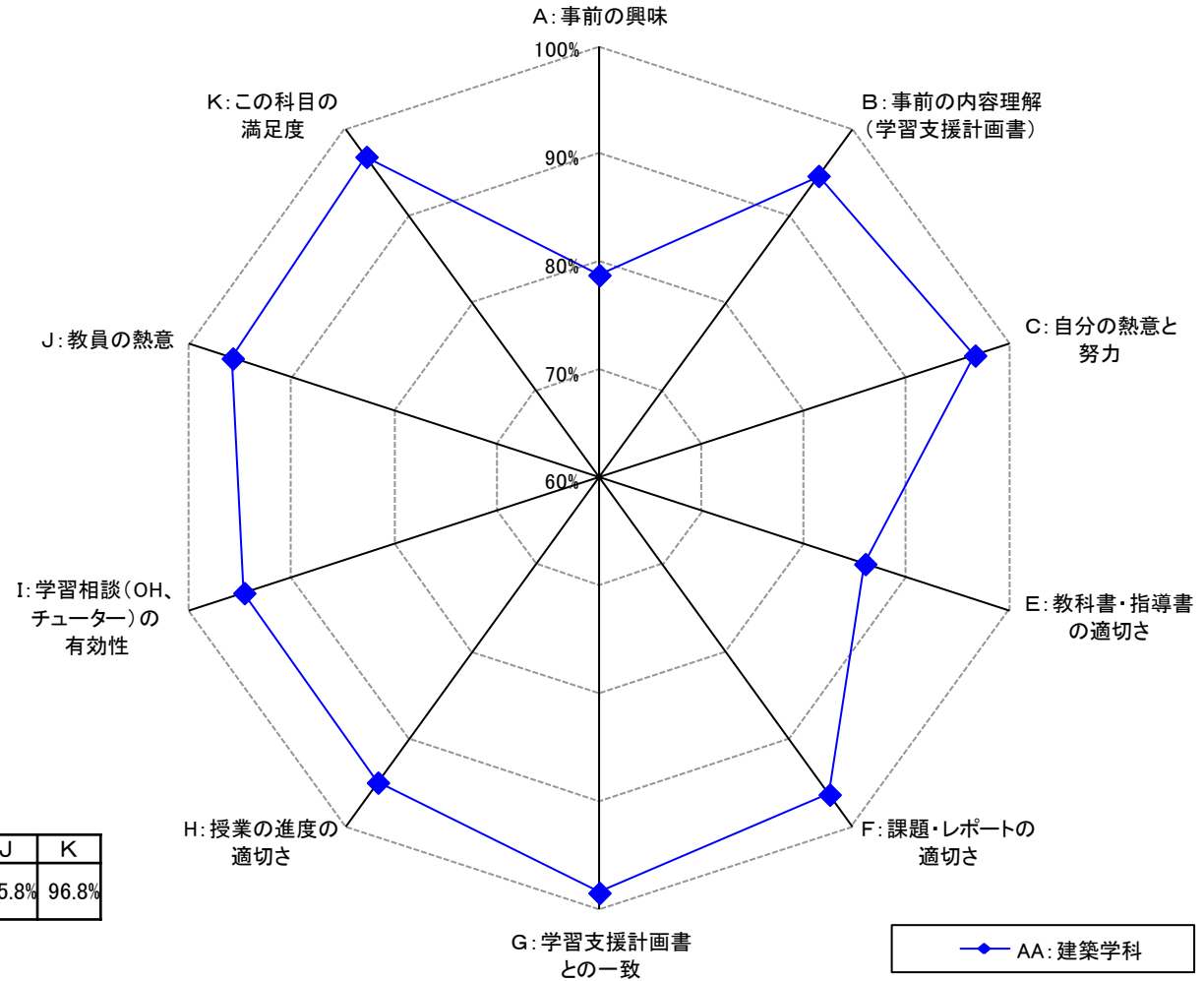


■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	73.0%	93.7%	96.5%	80.9%	95.8%	98.2%	94.6%	94.8%	95.7%	95.1%
FS:経営情報学科	83.2%	95.8%	96.9%	75.6%	96.2%	99.0%	96.1%	96.7%	97.8%	96.7%
FY:心理科学科	78.3%	94.4%	96.3%	80.4%	96.0%	97.9%	94.5%	93.0%	95.3%	95.5%

- 「建築学部」は「AA:建築学科」だけなので、比較は行っていない。

■ 建築学部 学科別比較レーダーチャート

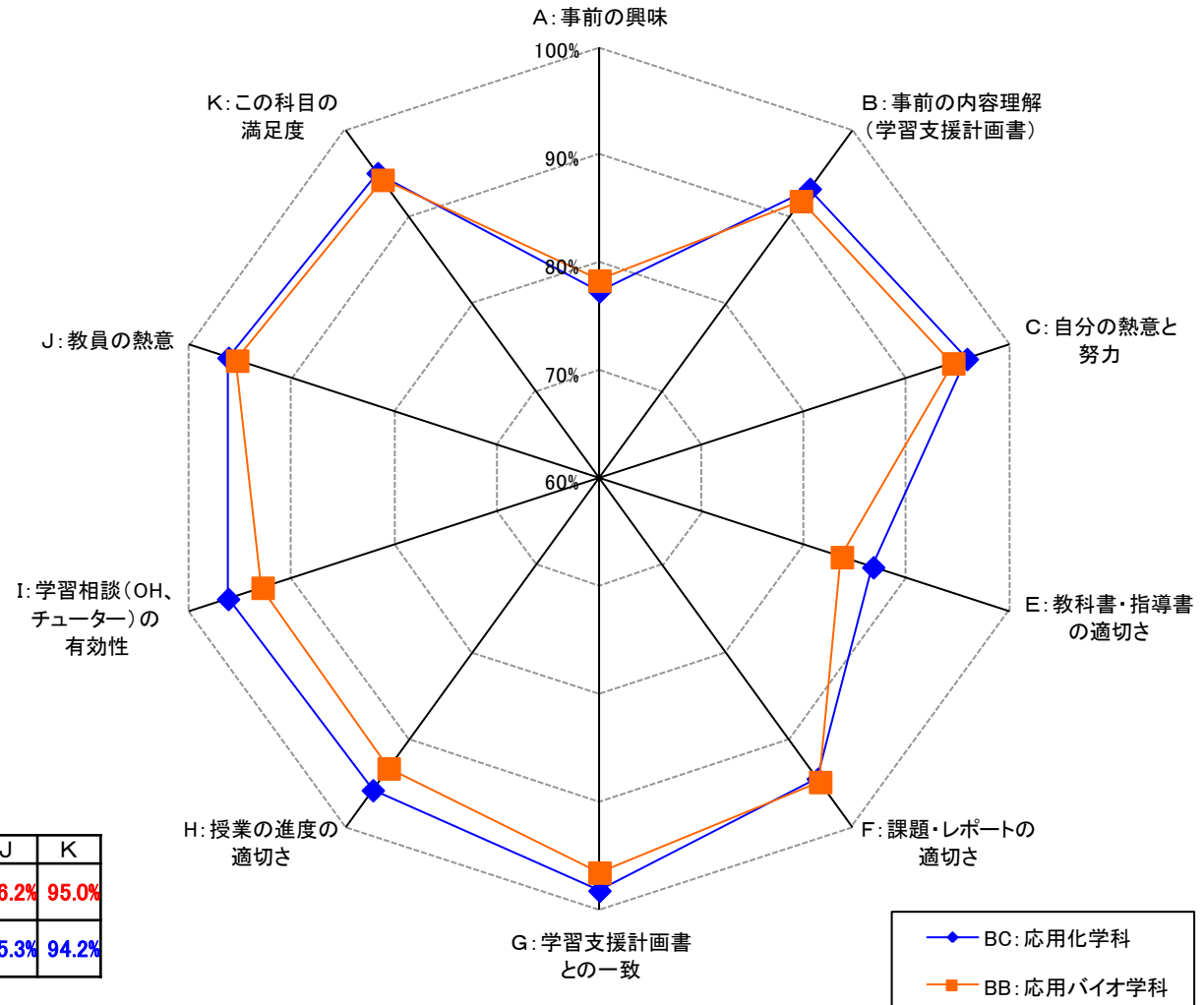


■ 建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
AA: 建築学科	78.8%	94.6%	96.7%	85.9%	96.3%	98.5%	95.0%	94.6%	95.8%	96.8%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較になるが、「BC:応用化学科」が10項目中の8項目で高かった。そして、「BB:応用バイオ学科」は2項目で高かったが、その2項目の差はわずかであり、全体で見ると「BC:応用化学科」の方が肯定的な意見が多いと言える。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート

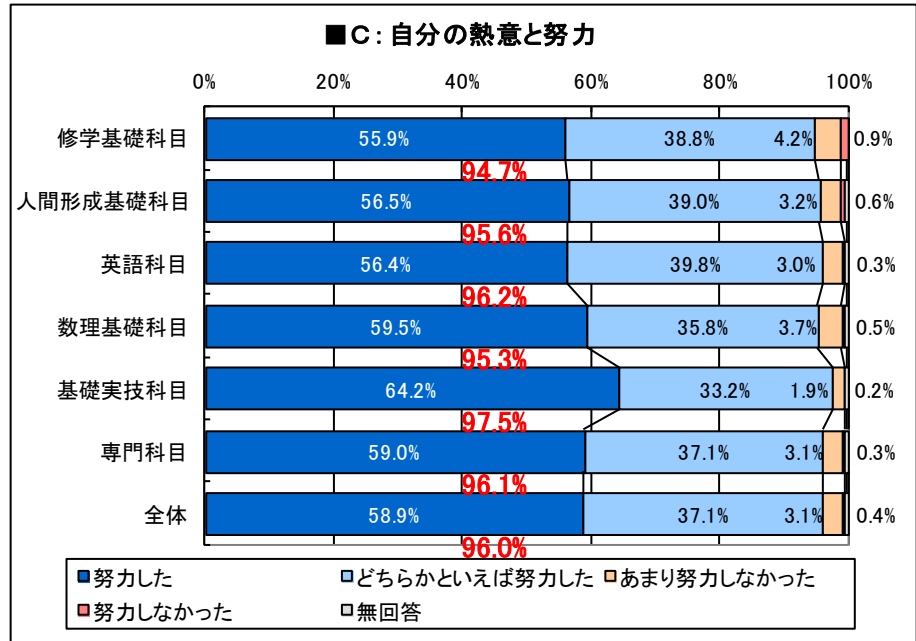
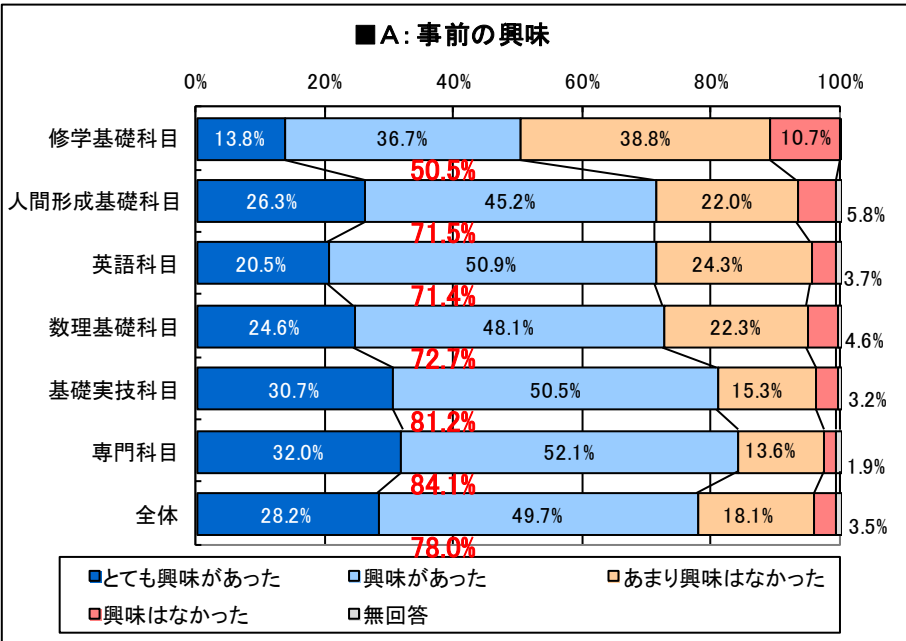
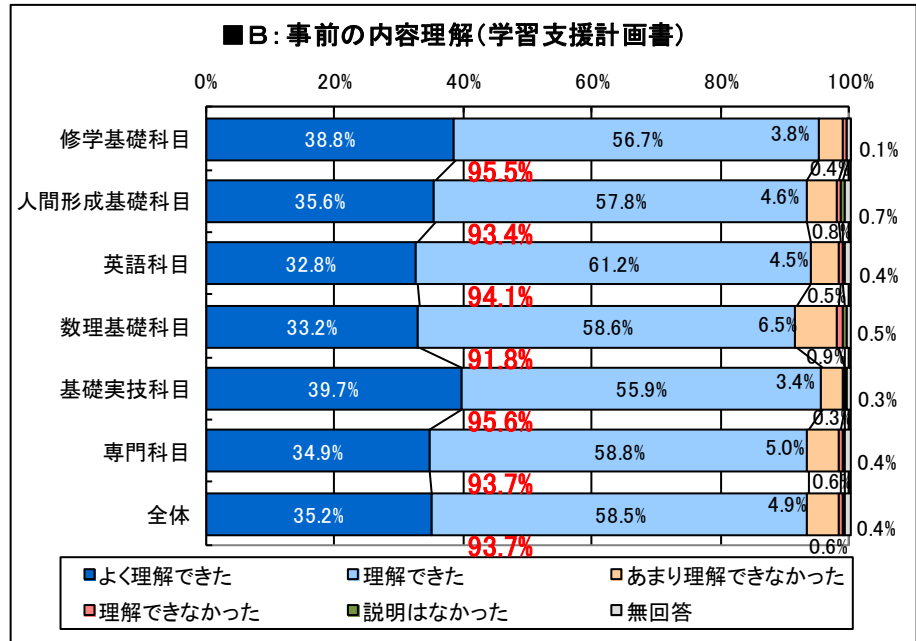


■ バイオ・化学部 学科別比較

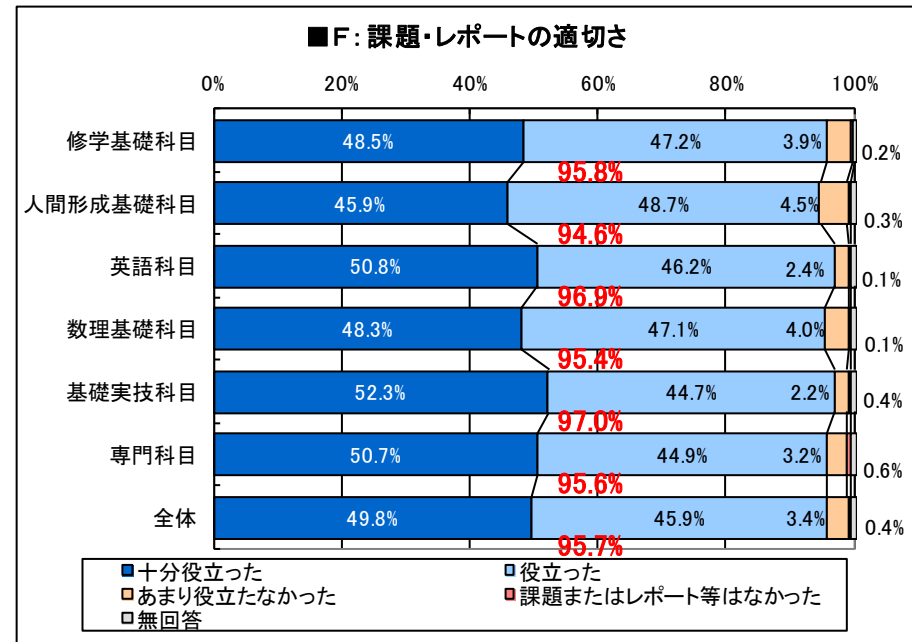
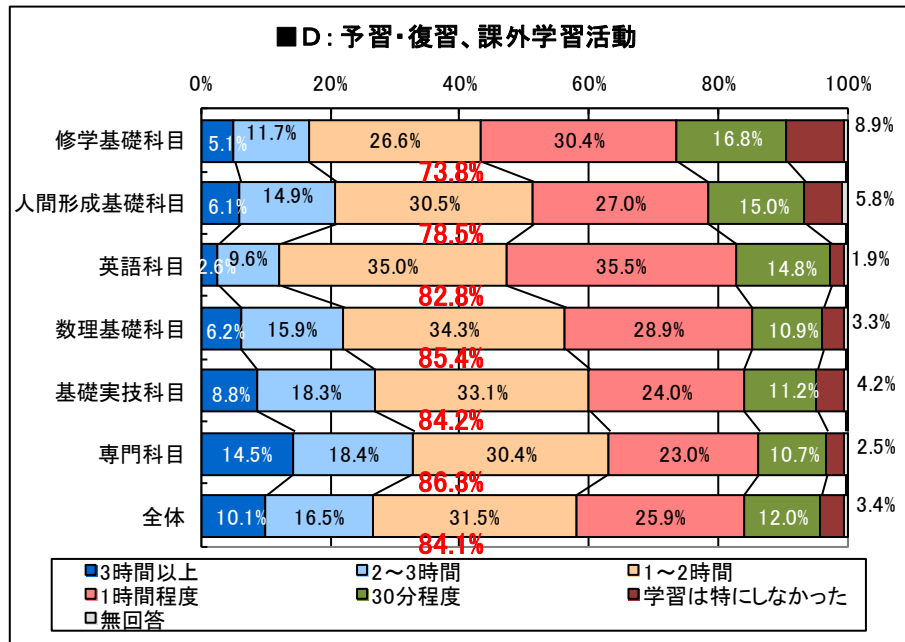
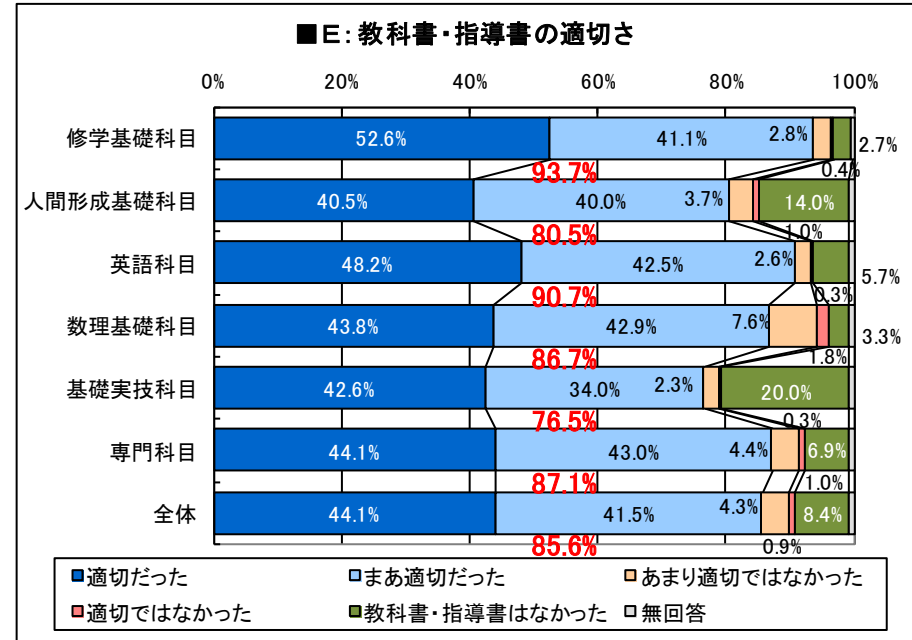
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	77.4%	93.2%	95.8%	86.7%	94.5%	98.3%	95.8%	96.2%	96.2%	95.0%
BB: 応用バイオ学科	78.4%	91.8%	94.5%	83.7%	94.8%	96.6%	93.3%	92.9%	95.3%	94.2%

<5>科目区分別の分析

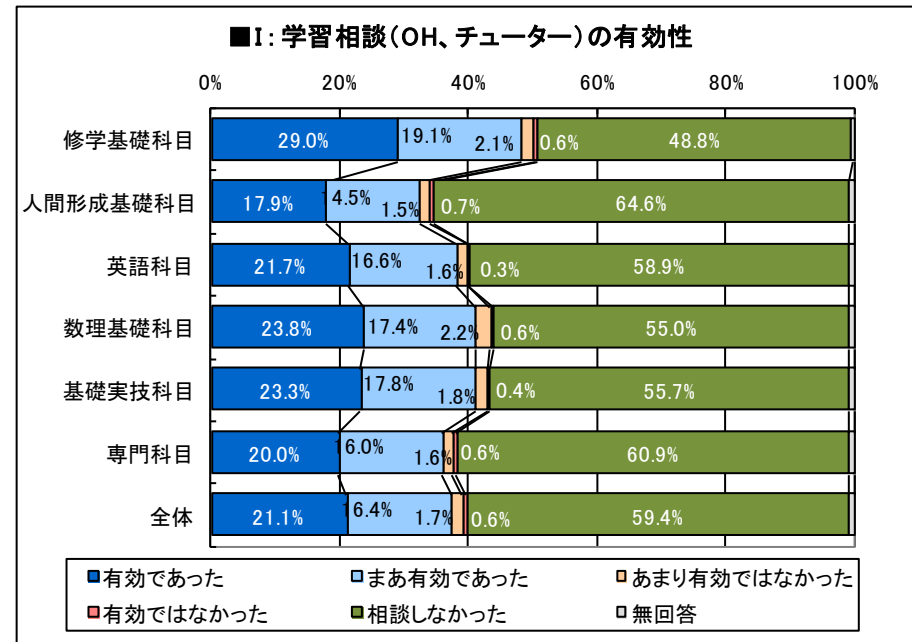
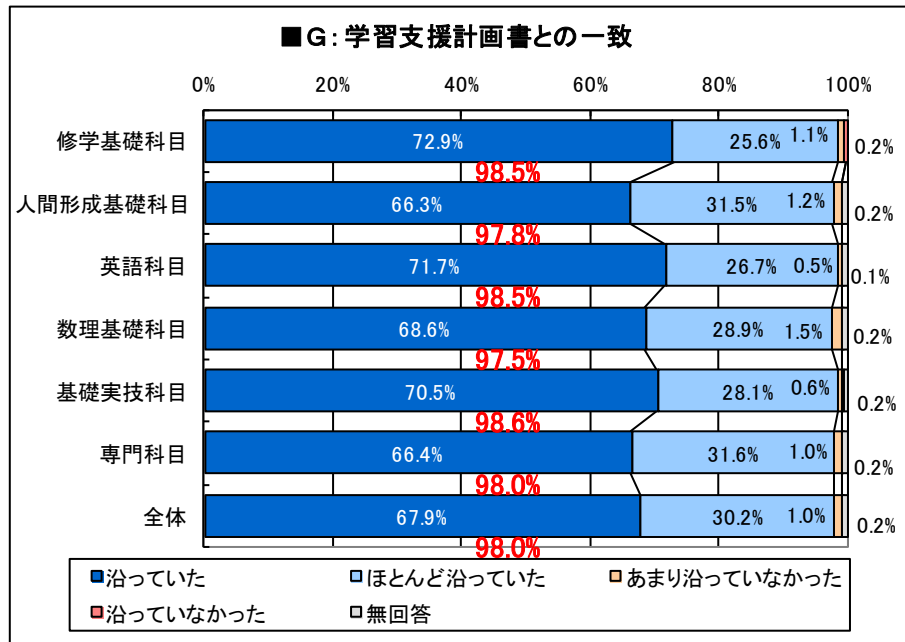
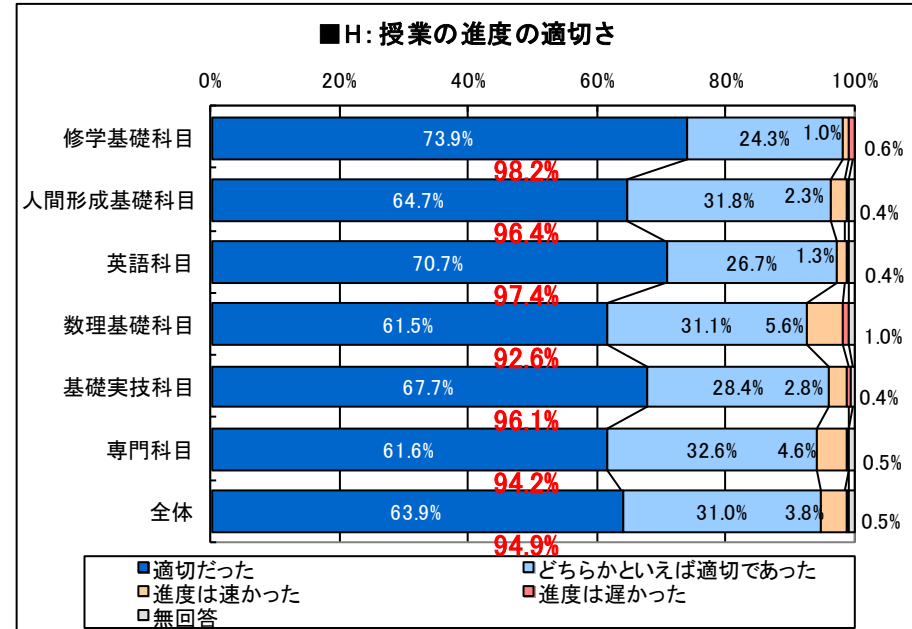
- 授業を6つの科目区分で分けて、その評価を比較した。
- 「A:事前の興味」で肯定的な意見が多かったのは「専門科目」の84.1%と、「基礎実技科目」の81.2%であり、8割を超えたのはこの2つの科目区分だけであった。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の50.5%であり、「専門科目」との差は33.6ポイントと大きかった。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」の肯定的な意見はすべての科目区分で9割を超えていた。最も多かったのは「基礎実技科目」の95.6%、最も少なかったのは「数理基礎科目」の91.8%であり、差は3.8ポイントとわずかであった。
- 「C:自分の熱意と努力」の肯定的な意見もすべての科目区分で9割を超えており、最も多かったのは「基礎実技科目」の97.5%で、「努力した」が64.2%と多い点も特徴的であった。そして、最も少なかった「修学基礎科目」でも肯定的な意見は94.7%で、これも十分に高い数値であり、科目区分に関わらずしっかりと努力している様子がうかがえた。



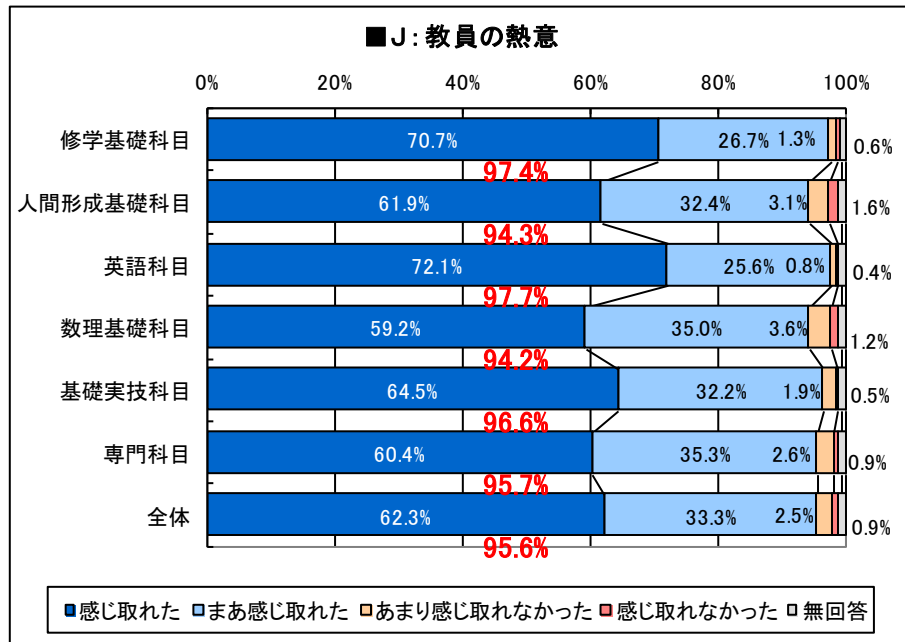
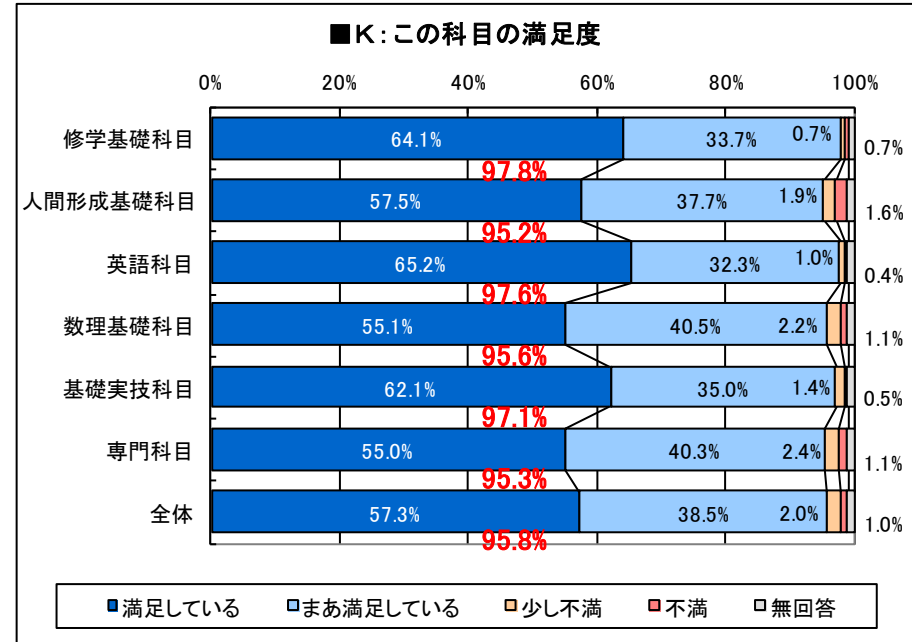
- 「D:予習・復習、課外学習活動」の「1時間程度」までの合計を見ると、「専門科目」が86.3%で最も多く、特に「3時間以上」「2~3時間」が多い点が特徴的であった。次いで、「数理基礎科目」が85.4%、「基礎実技科目」が84.2%で続いていた。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の73.8%であり、「専門科目」との差は12.5ポイントと大きかった。そして、内訳を見ると「英語科目」では「3時間以上」「2~3時間」が目立って少ないという特徴が見られた。
- 「E:教科書・指導書の適切さ」で肯定的な意見が最も多かったのは「修学基礎科目」の93.7%であり、「適切だった」が52.6%と半数を占めていた。一方、肯定的な意見の少なさが目立っていたのは「基礎実技科目」の76.5%と「人間形成基礎科目」の80.5%であったが、この2つの科目区分では「教科書・指導書はなかった」が多いという特徴が見られた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」はほとんどの科目区分で肯定的な意見が約95%を占めており、全体的に非常に高い評価となっていた。科目間の差は最大でも2.4ポイントと少なく、よく似た評価となっていた。



- 「G:学習支援計画書との一致」では、全科目区分で肯定的な意見が95%を超えており、「沿っていた」も65%を超えて非常に高い評価であった。肯定的な意見が最も多かったのは「基礎実技科目」の98.6%、最も少なかったのは「数理基礎科目」の97.5%であったが、差は最大でも1.1ポイントと非常に少なかった。
- 「H:授業の進度の適切さ」も全体的に評価は高く、全科目区分で肯定的な意見が90%を超えており、「適切だった」は60%を超えていた。肯定的な意見が最も多かったのは「修学基礎科目」の98.2%であり、「適切だった」は73.9%となっていた。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」の92.6%であったが、これも決して低い評価ではなかった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「人間形成基礎科目」が64.6%で最も多かった。一方、最も少なかったのは「修学基礎科目」の48.8%であり、差は15.8ポイントであった。相談の利用には差があったものの、利用者の評価はいずれも高く、否定的な意見は3%以内に収まっていた。



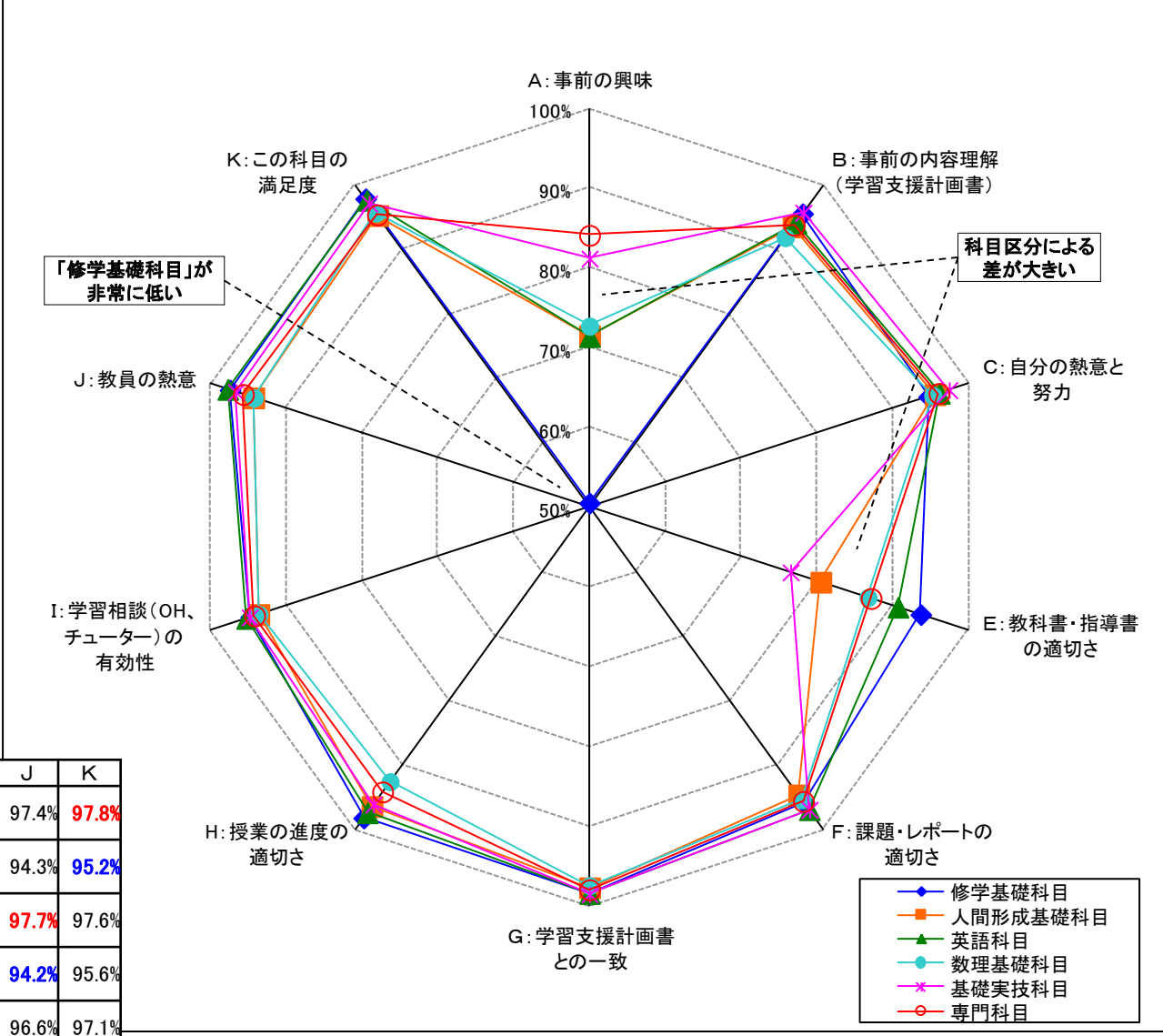
- 「J:教員の熱意」は全科目区分で肯定的な意見が90%を超えていた。そして、「感じ取れた」もほぼ60%を超えており、教員の熱意をしっかりと感じている様子が見えてきた。肯定的な意見が最も多かったのは「英語科目」の97.7%であり、「感じ取れた」も72.1%と多かった。一方、最も少なかったのは「数理基礎科目」であったが、肯定的な意見は94.2%、「感じ取れた」は59.2%であり、これも評価としては非常に高いと言える。
- 「K:この科目の満足度」は全科目区分で肯定的な意見が95%を超えていた。そして、「満足している」も55%を超えており、満足度は非常に高いと言える。最も満足度が高かったのは「修学基礎科目」の97.8%であり、ほぼ全員が満足という回答であった。最も低かったのは「人間形成基礎科目」の95.2%であったが、これも十分に高いものであり、「満足している」は57.5%を占めていた。



<5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートにプロットし、比較を行った。
- 10項目の中で最も特徴的であったのは「A: 事前の興味」での科目区分による差の大きさであり、「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」や「基礎実技科目」に対する興味と大きな差があることがうかがえる。
- 上記に次いで科目区分による差が大きかったのが「E: 教科書・指導書の適切さ」であったが、これには「教科書・指導書はなかった」の差も影響しており、「基礎実技科目」と「人間形成基礎科目」では「なかった」が多かった。
- 上記の2項目以外では科目区分による差が非常に少なかった。表の数値を詳細に見ると、「基礎実技科目」は4項目で最も高く、「数理基礎科目」は5項目で最も低かったが、いずれも差はわずかであった。

■ 科目区分別比較レーダーチャート



■ 科目の評価比較

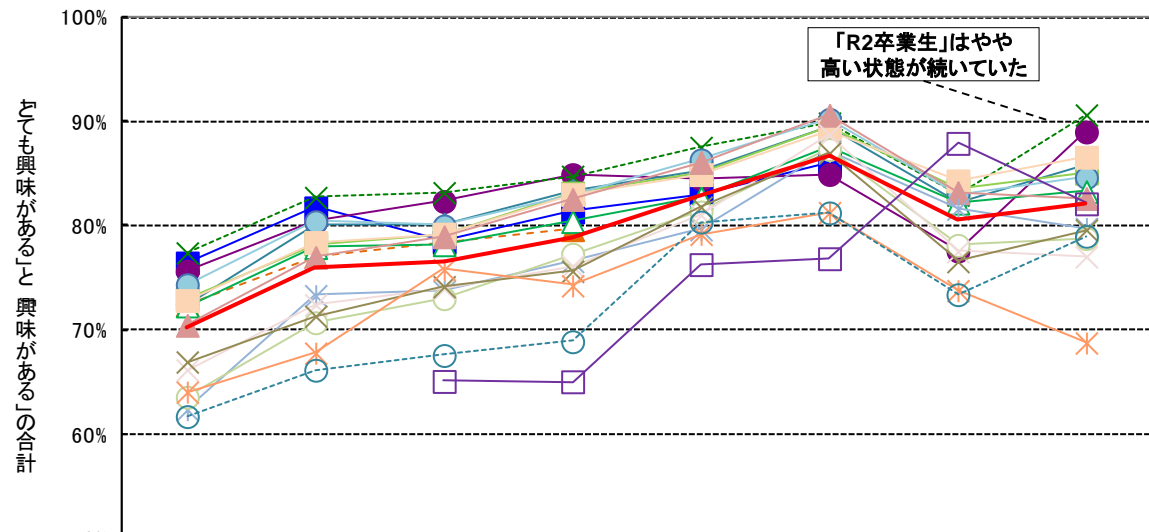
	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	50.5%	95.5%	94.7%	93.7%	95.8%	98.5%	98.2%	94.7%	97.4%	97.8%
人間形成基礎科目	71.5%	93.4%	95.6%	80.5%	94.6%	97.8%	96.4%	93.6%	94.3%	95.2%
英語科目	71.4%	94.1%	96.2%	90.7%	96.9%	98.5%	97.4%	95.2%	97.7%	97.6%
数理基礎科目	72.7%	91.8%	95.3%	86.7%	95.4%	97.5%	92.6%	93.6%	94.2%	95.6%
基礎実技科目	81.2%	95.6%	97.5%	76.5%	97.0%	98.6%	96.1%	94.8%	96.6%	97.1%
専門科目	84.1%	93.7%	96.1%	87.1%	95.6%	98.0%	94.2%	94.2%	95.7%	95.3%

<6> 同一学生群の分析

<6-1> 同一学生群の変化に関する分析

- 同一学生群が学年が上がるにつれてどのように意識変化をしているのかを確認した。
- 学期は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制となったため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後学期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- 「A:事前の興味」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」(70.1%)から「3年次-後学期」(86.7%)にかけて肯定的な意見がゆるやかに増加しており、興味があるという意見は16.6ポイント増加している。それ以降は「4年次-前学期」にかけて低下し、「4年次-後学期」まで横這いとなって卒業に至っていた。
- 以前は「全体平均」を下回る学生群が多かったが、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が多くなってきており、授業に対する事前の興味が強くなってきているようであった。
- 特に「R2卒業生」は4年間を通じて肯定的な意見が多い状態を維持したまま卒業に至っていた。
- 在学生を見ると、「現4年次」は「4年次-前学期」に大きく低下したものの、「4年次-後学期」には強い興味を持って授業を受けていた。「現3年次」は「1年次-前学期」から「1年次-後学期」にかけては高い状態であったが、その後は目立つ高さではなくなっており、今後の動きが気になる学生群と言える。

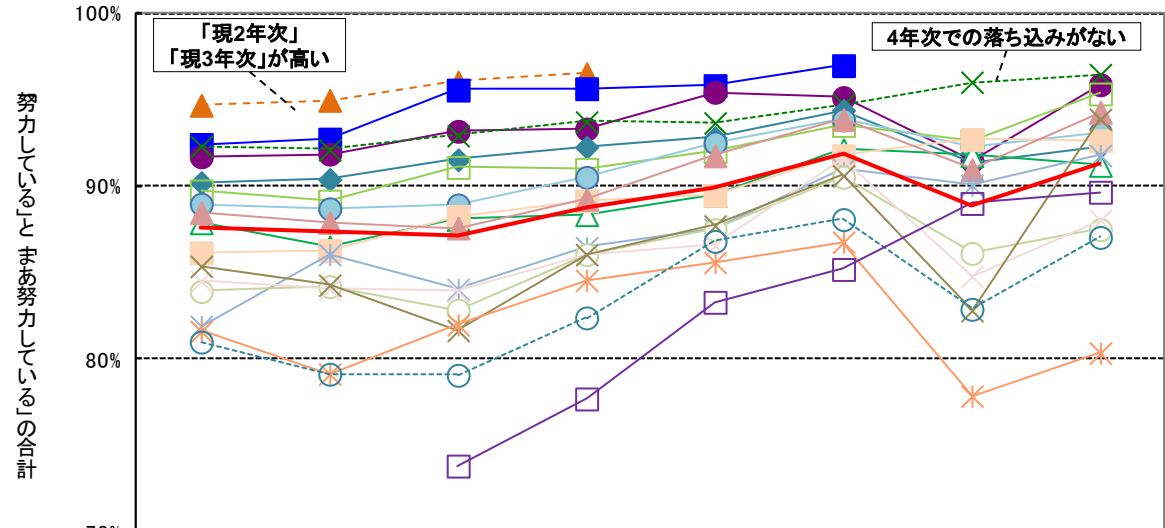
■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	72.4%	77.0%	78.4%	79.6%				
---■--- 現3年次	76.4%	81.7%	78.5%	81.3%	83.0%	86.0%		
---●--- 現4年次	75.6%	80.4%	82.3%	84.9%	84.5%	84.9%	77.6%	89.0%
---×--- R2卒業生	77.4%	82.7%	83.2%	84.7%	87.5%	89.9%	83.0%	90.6%
---◇--- R1卒業生	72.5%	80.1%	80.2%	83.4%	85.2%	89.4%	82.2%	85.9%
---□--- H30卒業生	73.0%	78.2%	79.2%	83.1%	85.2%	89.5%	83.5%	85.0%
---○--- H29卒業生	74.3%	80.4%	80.0%	83.0%	86.3%	90.2%	83.0%	84.6%
---△--- H28卒業生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%	82.2%	83.3%
---◇--- H27卒業生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
---▲--- H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---*--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---○--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---×--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---×--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---*--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---○--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---□--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---■--- 全体平均	70.1%	76.0%	76.5%	78.8%	82.8%	86.7%	80.5%	82.2%

- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけては横這い、そこから「3年次-後学期」にかけてゆるやかに向上し、「4年次-前学期」で低下した後、「4年次-後学期」で再び向上して卒業に至っていた。ただし、いずれの変化も小さく、学生自身の熱意と努力としては、4年間であまり大きく変動していないようであった。
- 上記のように「全体平均」では変化は少ないが、「H20卒業生」や「H21卒業生」のように、以前は4年次で大きく低下する学生群も見られた。それが、「R2卒業生」のように4年間で熱意と努力が低下することなく卒業に至るなど、中だるみのような変化が少なくなってきたようであった。
- 上記以外にも「現2年次」「現3年次」「現4年次」のように、「1年次-前学期」の段階で非常に強い熱意を持って努力しており、それを維持して学年を重ねるなど、学生の意識に変化が見られる。

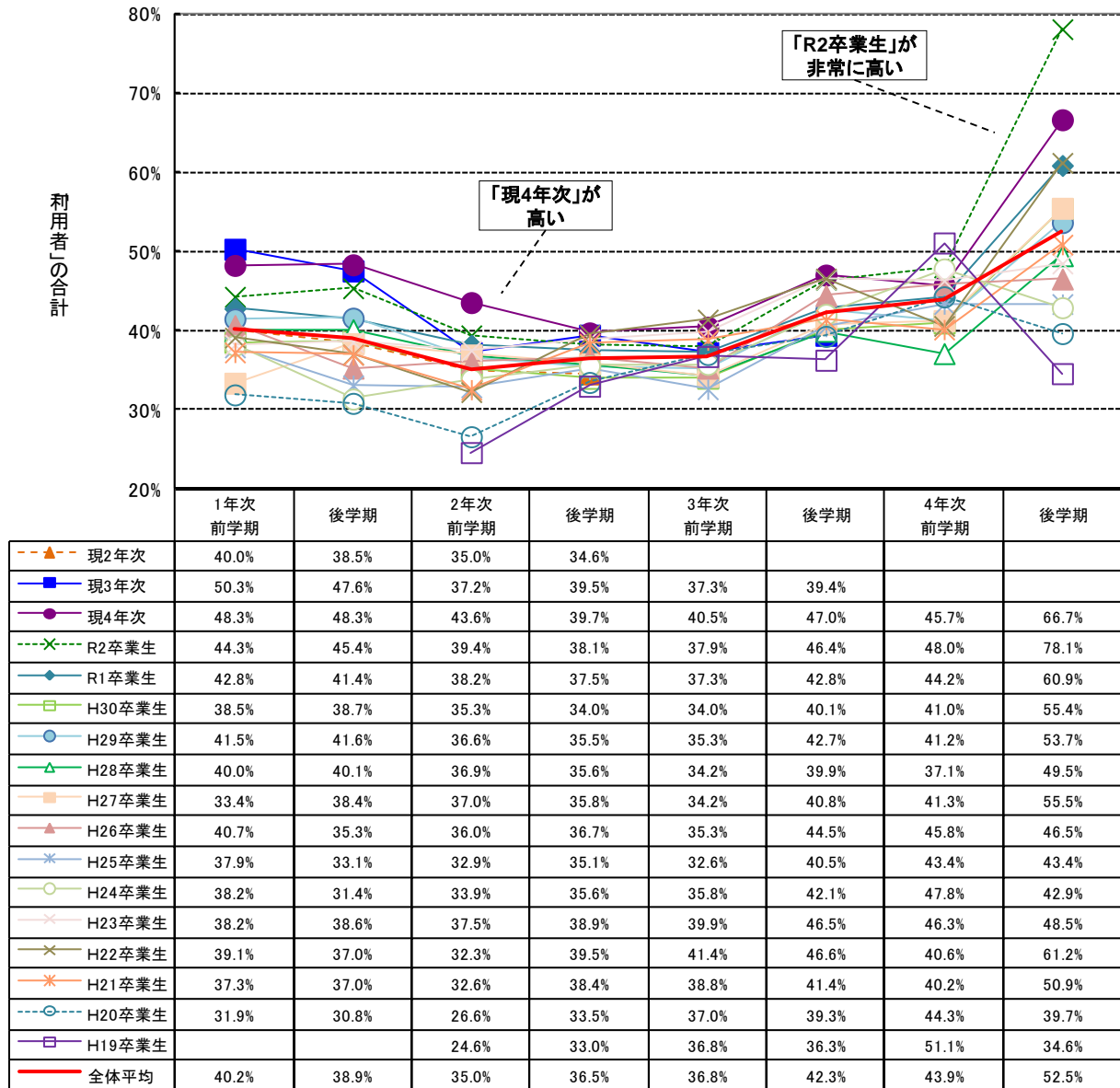
■ 学年毎・学期毎の「C:自分の熱意と努力」の変化 同一学生群の変化



	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	94.7%	95.0%	96.0%	96.5%				
---■--- 現3年次	92.4%	92.7%	95.6%	95.6%	95.8%	97.0%		
---●--- 現4年次	91.7%	91.9%	93.2%	93.3%	95.4%	95.1%	91.5%	95.9%
---×--- R2卒業生	92.3%	92.1%	92.9%	93.7%	93.7%	94.7%	96.0%	96.5%
---◆--- R1卒業生	90.2%	90.4%	91.5%	92.3%	92.8%	94.4%	91.3%	92.3%
---□--- H30卒業生	89.7%	89.1%	91.1%	91.0%	92.0%	93.5%	92.7%	95.3%
---○--- H29卒業生	89.0%	88.7%	88.9%	90.5%	92.5%	93.8%	92.3%	93.1%
---△--- H28卒業生	87.9%	86.5%	88.1%	88.4%	89.5%	92.1%	91.8%	91.2%
---■--- H27卒業生	86.2%	86.3%	88.3%	89.2%	89.5%	91.8%	92.7%	92.6%
---▲--- H26卒業生	88.5%	87.9%	87.6%	89.3%	91.8%	93.9%	91.0%	94.3%
---*--- H25卒業生	81.9%	86.1%	84.0%	86.5%	87.5%	91.0%	90.1%	91.8%
---○--- H24卒業生	83.9%	84.2%	82.8%	86.1%	87.5%	90.5%	86.1%	87.5%
---×--- H23卒業生	84.5%	84.1%	83.9%	86.1%	86.6%	91.5%	84.8%	88.0%
---×--- H22卒業生	85.4%	84.3%	81.7%	86.0%	87.7%	90.6%	82.8%	93.9%
---*--- H21卒業生	81.6%	79.1%	82.0%	84.6%	85.6%	86.8%	77.9%	80.4%
---○--- H20卒業生	81.0%	79.1%	79.1%	82.4%	86.8%	88.1%	82.9%	87.0%
---□--- H19卒業生			73.8%	77.7%	83.3%	85.2%	89.0%	89.7%
---■--- 全体平均	87.6%	87.3%	87.1%	88.8%	89.9%	91.9%	88.9%	91.3%

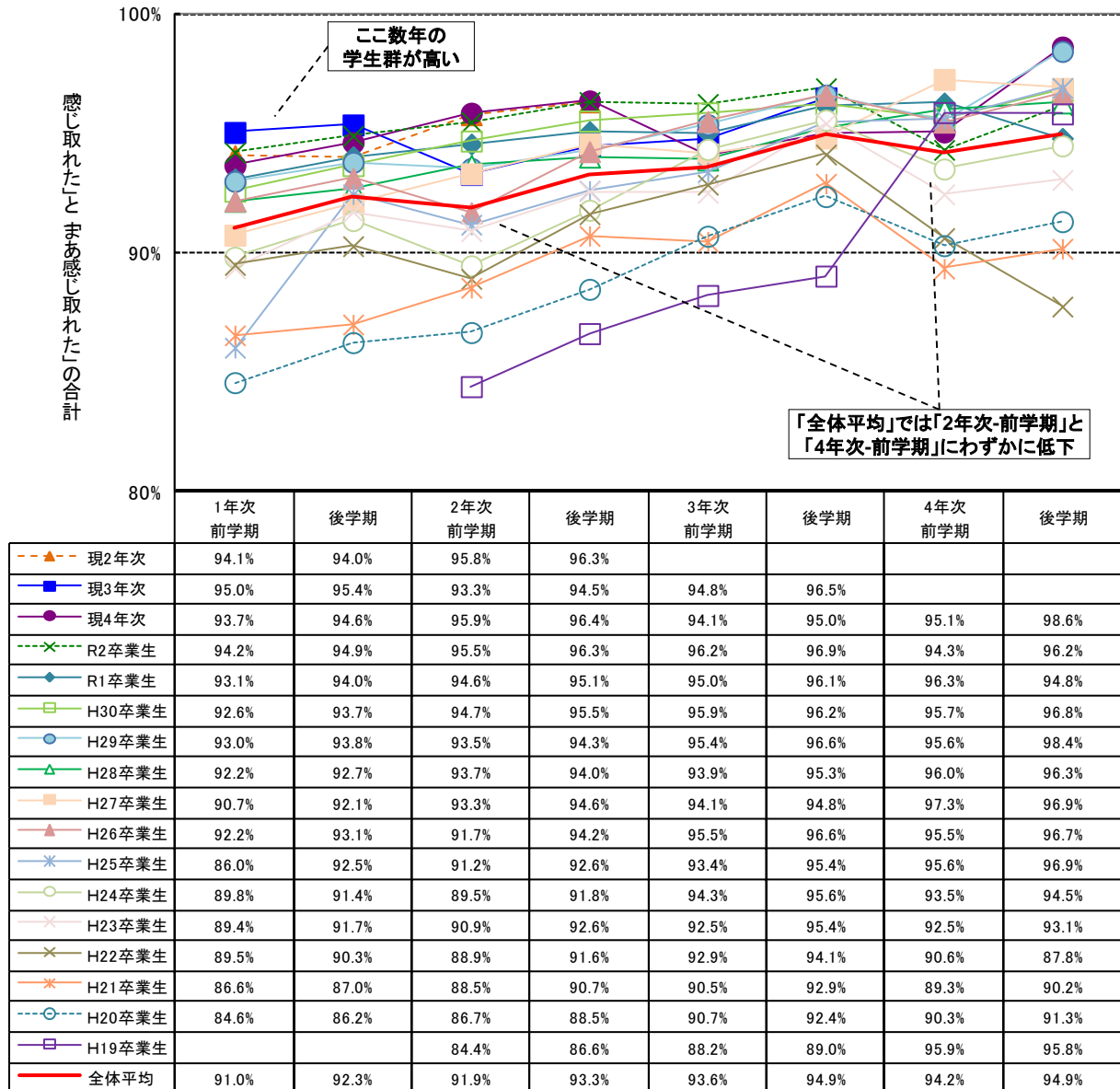
- 「I:学習相談の有効性」は内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を見ている。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」を見ると、「1年次-前学期」から「2年次-前学期」にかけてわずかに減少し、その後は「4年次-後学期」にかけて徐々に増加しながら卒業に至っていた。利用者の割合としてはおおよそ35%から50%の間で、一定割合の学生は継続的に学習相談を利用しており、以前の学生群と比較しても、それほど大きな差は見られなかった。
- 学生群として特徴的であったのは、「R2卒業生」であり、「4年次-後学期」の利用率が78.1%と非常に高かった。また、「現4年次」は4年間を通して高い利用率であり、「現3年次」も「1年次-前学期」にはこれまでで最も高い利用率となっていた。これらを見ると、ここ数年の学生群は特に利用率が高いと言える。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による
「学習相談利用者割合」の変化 同一学生群の変化



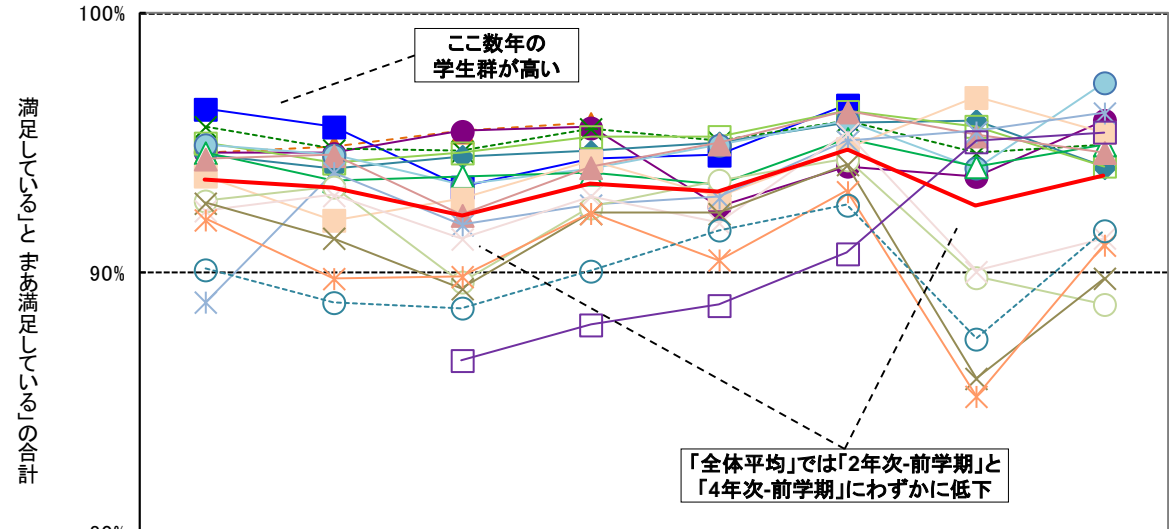
- 「J:教員の熱意」の「全体平均」は基本的には右肩上がりであり、「2年次-前学期」と「4年次-前学期」にわずかに低下するという変化となっていた。肯定的な意見の割合はおおよそ90%から95%の間で、4年間を通して教員の熱意を感じており、高学年になるほどその傾向が強まっていると言える。
- 学生群の特徴を見ると、他の指標と同様に、「H26卒業生」あたりから肯定的な意見が多くなってきており、「4年次-前学期」での中だるみのような変化も見られなくなってきた。
- 「J:教員の熱意」に関して、ここ数年の学生群の高さが目立っており、「現4年次」は「2年次-後学期」までは非常に高く、その後は低下したものの「4年次-後学期」では過去最高の高さとなって卒業に至っていた。また、「現3年次」は「1年次-前学期」から「1年次-後学期」にかけての高さが目立っていた。

■ 学年毎・学期毎の「J:教員の熱意」の変化 同一学生群の変化



- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」も他の指標と同様に「2年次-前学期」と「4年次-前学期」でわずかに低下するものの、4年間を通して93%前後が満足という意見であり、4年間を通して高い満足度を維持していると言える。
- 他の指標と同様に以前の学生群は85%前後まで低下することもあったが、「H26卒業生」以降の学生群は満足度が高く、4年間の変動が少なくなってきたと言える。特に最近の学生群には「4年次-前学期」での落ち込みがほとんど見られず、この点は大きな変化と言える。
- 満足度に関しても、ここ数年の学生群は特に高く、「現3年次」は「1年次-前学期」から「1年次-後学期」にかけて過去最高の満足度であり、その後やや低下したものの「3年次-後学期」にも高い満足度となっていた。また、「現4年次」は「2年次-前学期」から「2年次-後学期」にかけて高く、「4年次-後学期」の満足度も高い状態で卒業に至っていた。

■ 学年毎・学期毎の「K:この科目の満足度」の変化 同一学生群の変化

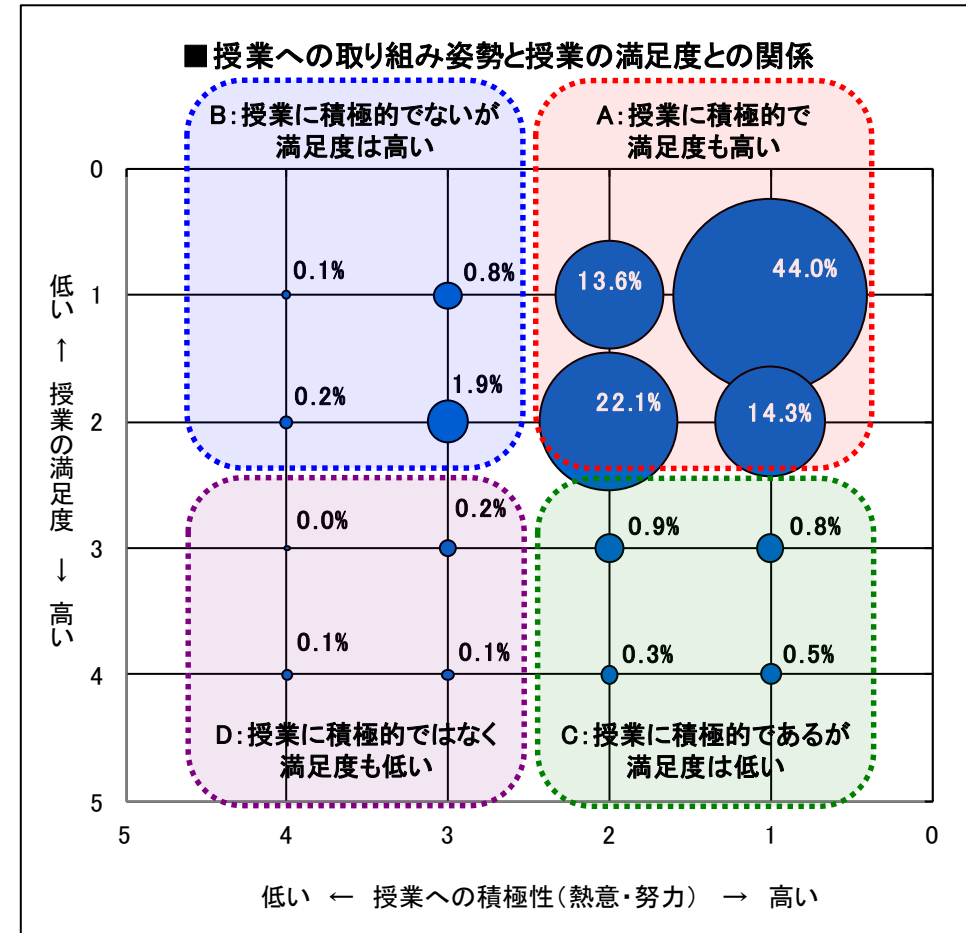


	1年次 前学期	後学期	2年次 前学期	後学期	3年次 前学期	後学期	4年次 前学期	後学期
---▲--- 現2年次	94.6%	94.9%	95.4%	95.8%				
---■--- 現3年次	96.3%	95.6%	93.3%	94.4%	94.5%	96.5%		
---●--- 現4年次	94.7%	94.6%	95.5%	95.6%	92.6%	94.1%	93.7%	95.9%
---×--- R2卒業生	95.6%	94.7%	94.7%	95.6%	95.0%	95.9%	94.6%	94.9%
---◆--- R1卒業生	94.6%	94.0%	94.5%	94.7%	95.0%	95.7%	95.9%	94.1%
---□--- H30卒業生	95.0%	94.2%	94.6%	95.3%	95.3%	96.2%	95.7%	94.1%
---○--- H29卒業生	94.9%	94.5%	93.4%	94.0%	94.9%	95.9%	94.0%	97.3%
---△--- H28卒業生	94.6%	93.6%	93.7%	93.8%	93.4%	95.2%	94.1%	94.9%
---■--- H27卒業生	93.7%	92.0%	92.9%	94.3%	92.9%	94.8%	96.8%	95.4%
---▲--- H26卒業生	94.4%	94.5%	92.2%	94.1%	95.0%	96.2%	95.3%	94.6%
---*--- H25卒業生	88.9%	93.9%	91.9%	92.6%	92.9%	95.1%	95.4%	96.2%
---○--- H24卒業生	92.8%	93.3%	89.7%	92.5%	93.6%	94.4%	89.8%	88.8%
---×--- H23卒業生	92.4%	93.0%	91.3%	93.0%	91.9%	95.4%	90.1%	91.3%
---×--- H22卒業生	92.7%	91.3%	89.4%	92.3%	92.3%	94.2%	85.9%	89.8%
---*--- H21卒業生	92.0%	89.8%	89.9%	92.3%	90.5%	93.1%	85.2%	91.1%
---○--- H20卒業生	90.1%	88.9%	88.6%	90.1%	91.7%	92.6%	87.5%	91.6%
---□--- H19卒業生			86.6%	88.0%	88.7%	90.7%	95.1%	95.4%
---■--- 全体平均	93.6%	93.3%	92.2%	93.4%	93.1%	94.7%	92.6%	93.7%

<7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析

<7-1>授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

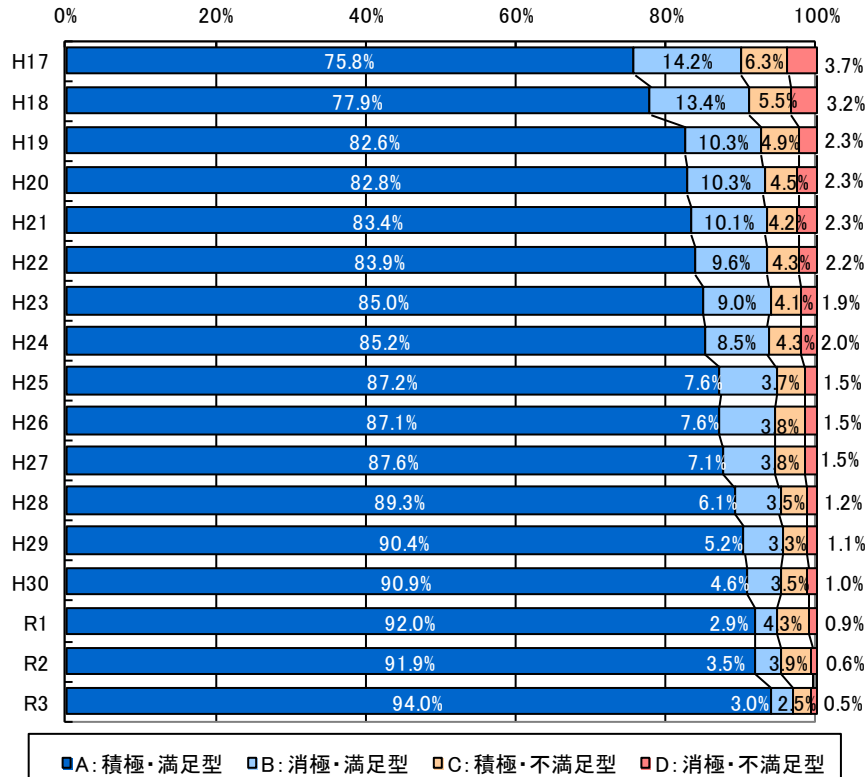
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」は94.0%でほとんどの学生がこのグループに属していた。内訳を見ても、「満足度」「積極性」がともに高い学生が44.0%であり、非常に積極的で満足度が高く、充実している様子が分かる。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」というグループは3.0%と少なかった。これは授業には積極的というわけではないが満足度は高い学生群であり、教員の指導で引っ張られている学生などが想定される。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」というグループは2.5%であった。この学生群は授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず満足度が低いというものであり、授業の内容や指導方法などに不満を持っている学生が想定される。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」というグループは0.5%であった。これは最も課題が多い学生群で退学予備軍に近いものと考えられ、しっかりとしたフォローが必要であると思われる。



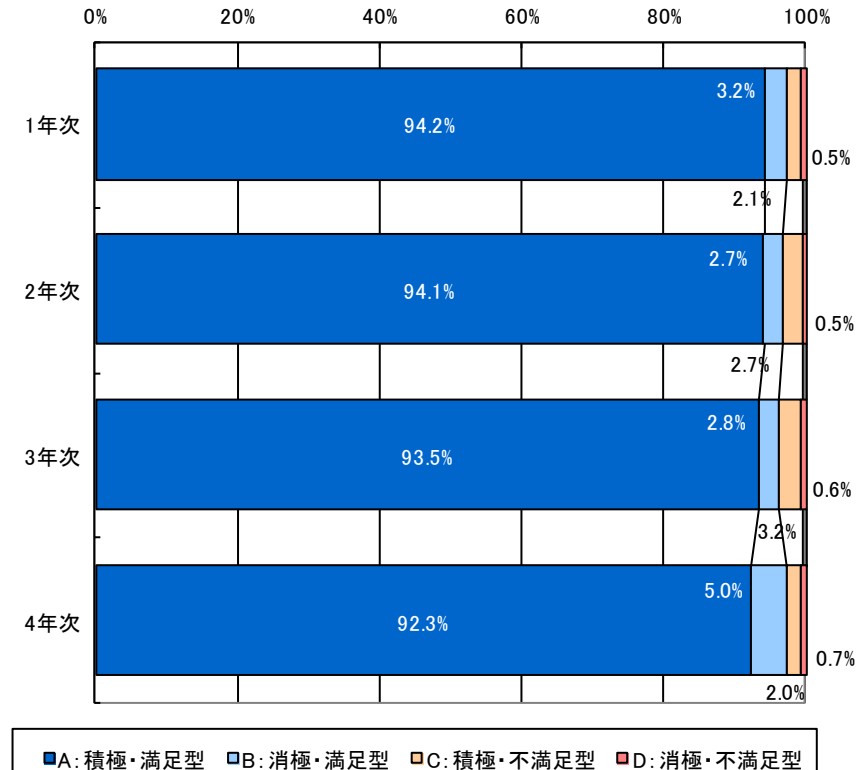
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	94.0%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	3.0%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っばられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	2.5%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	0.5%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの経年変化を見ると、「A:積極・満足型」は前回は2.1ポイント上回って過去最高となっていた。何度か例外はあるものの、調査開始時から継続的に増加しており、最初のH17と比べると18.2ポイントの増加となっていた。
- 他のグループを見ると、「B:消極・満足型」は前回から0.5ポイントの減少、「C:積極・不満足型」は1.4ポイントの減少、「D:消極・不満足型」は0.1ポイントの減少となっていた。
- 「A:積極・満足型」の割合を学年別に比較したところ、「1年次」が94.2%と最も多く、「2年次」が94.1%、「3年次」が93.5%、「4年次」が92.3%となっており、学年が上がるほど減少する傾向が見られた。ただし、差は最大でも1.9ポイントと非常に小さかった。

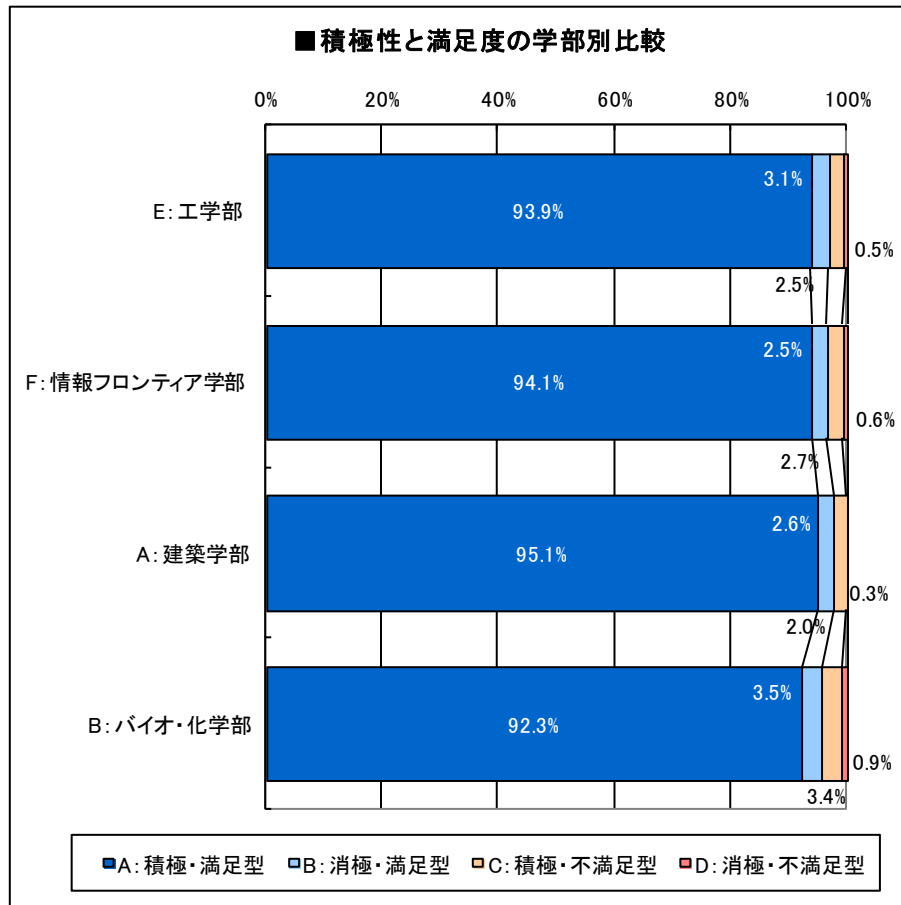
■ 積極性と満足度の経年変化



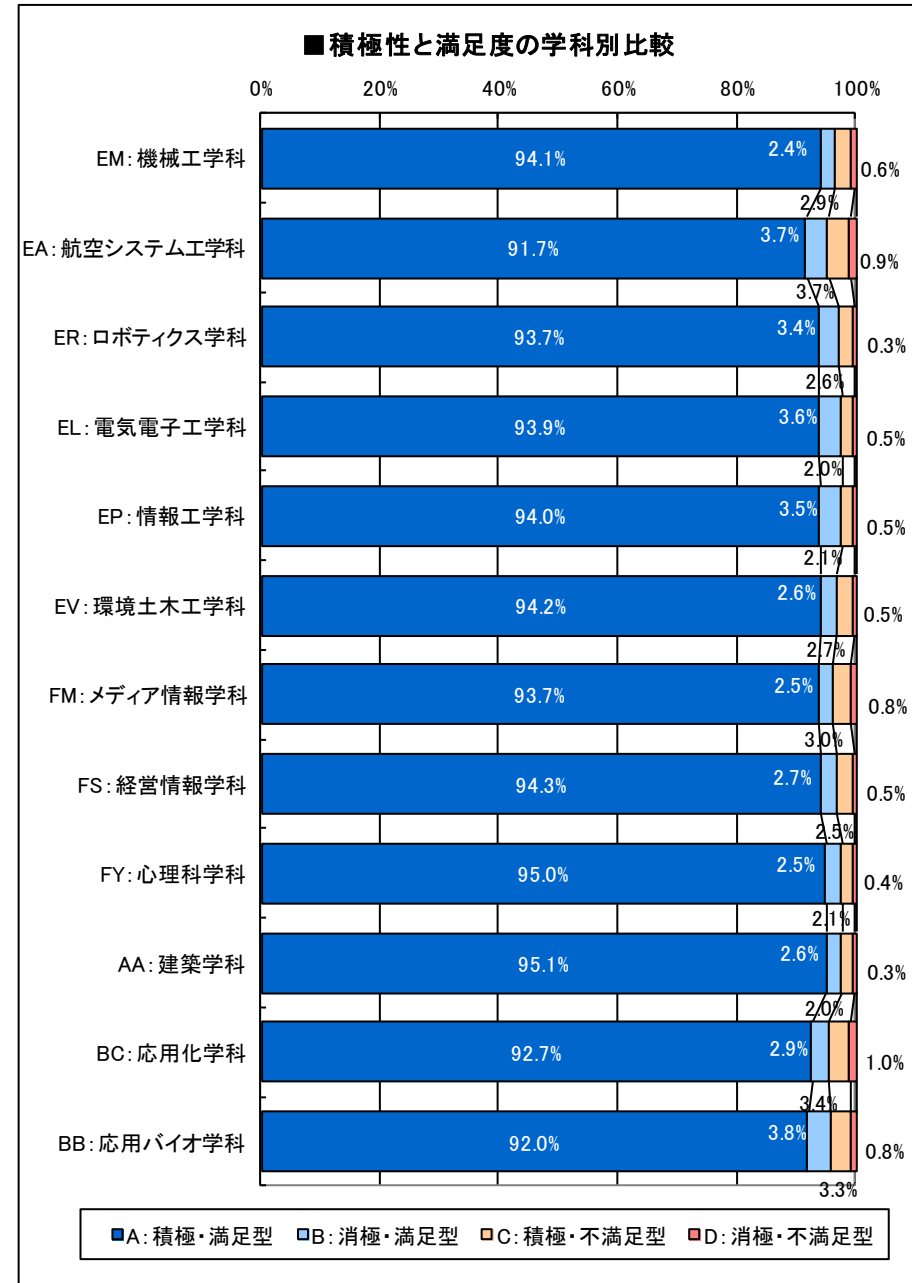
■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別に比較したところ、「A:積極・満足型」が最も多かったのは「A:建築学部」の95.1%であり、「F:情報フロンティア学部」が94.1%、「E:工学部」が93.9%、「B:バイオ・化学部」が92.3%で続いていた。そして、差は最大でも2.8ポイントと小さかった。
- 他の3つのグループも学部による差はわずかであり、特筆するような特徴は見られなかった。

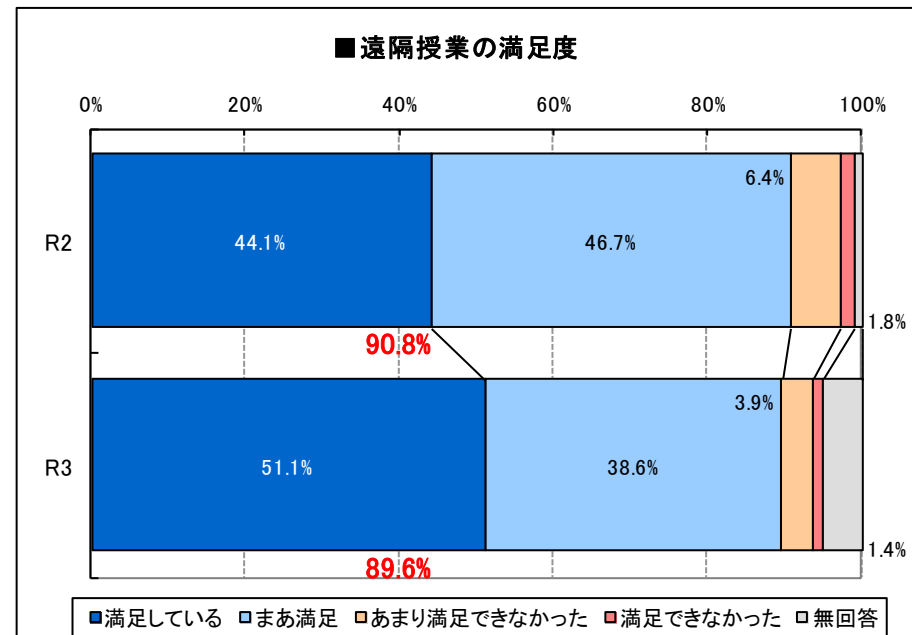
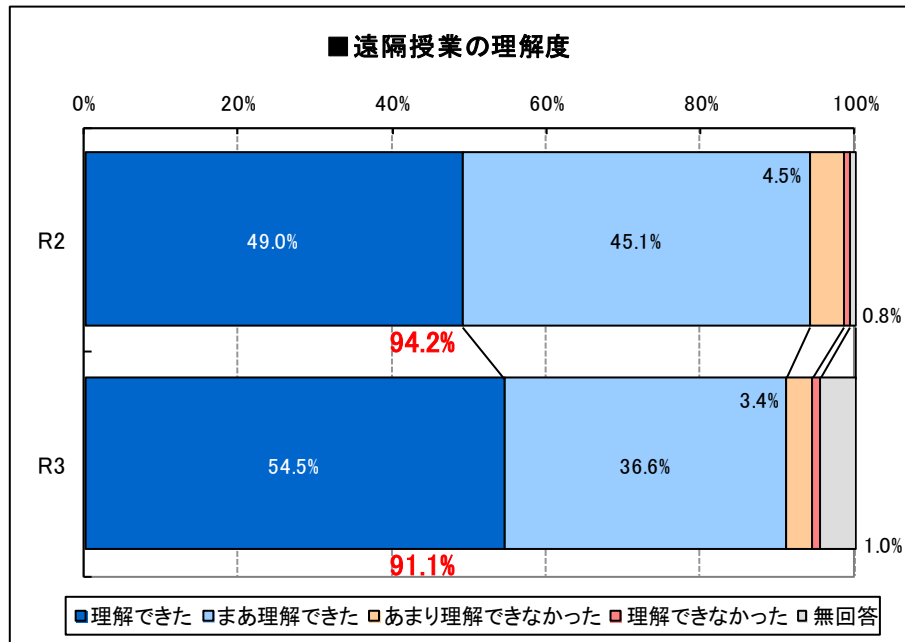
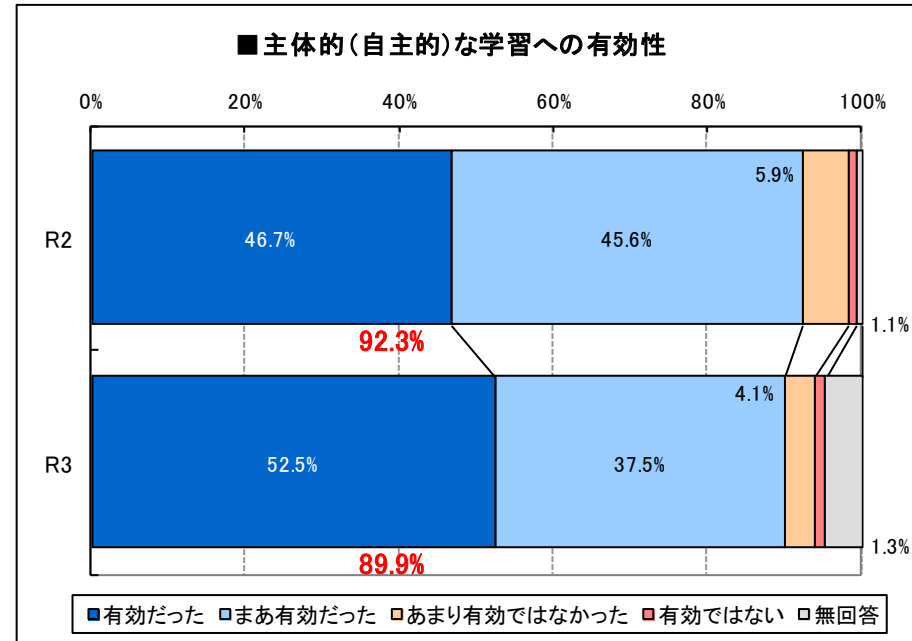


- 学科別で「A:積極・満足型」が最も多かったのは「AA:建築学科」の95.1%であった。次いで、「FY:心理科学科」が95.0%、「FS:経営情報学科」が94.3%、「EV:環境土木工学科」が94.2%、「EM:機械工学科」が94.1%で続いていた。
- 一方、「A:積極・満足型」が最も少なかったのは、「EA:航空システム工学科」の91.7%であり、「AA:建築学科」との差は3.4ポイントでそれほど大きな差ではなく、充実度は低くなさそうであった。

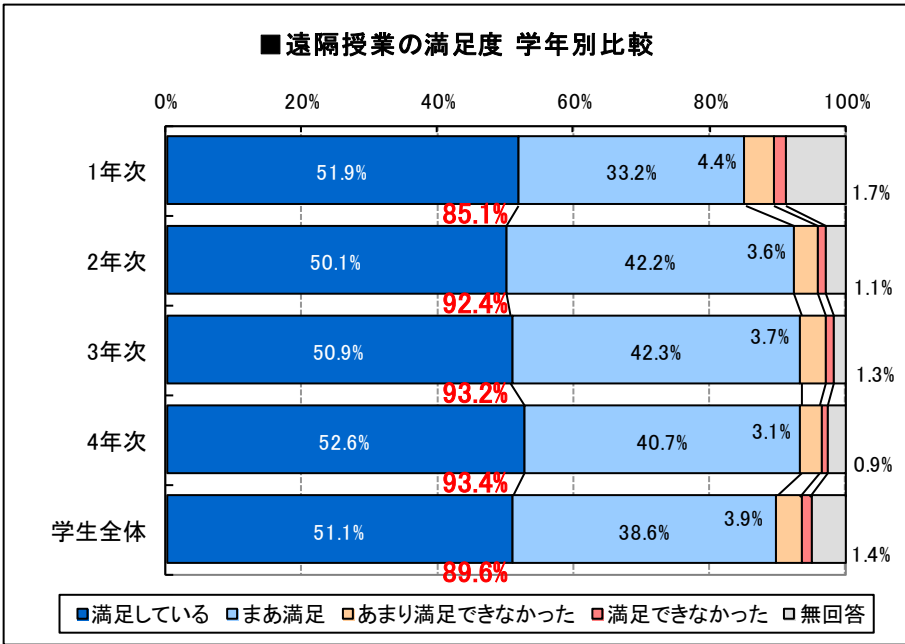
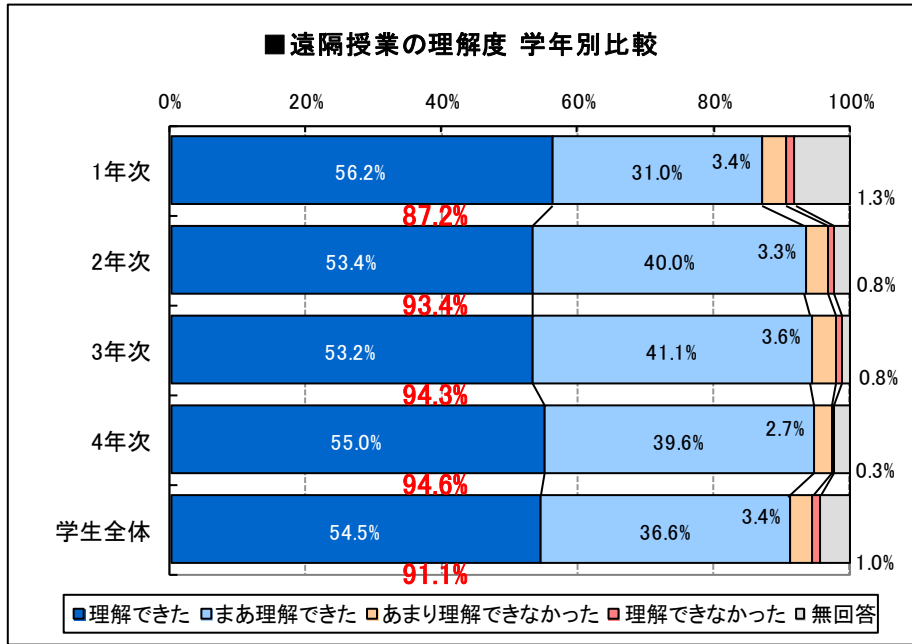
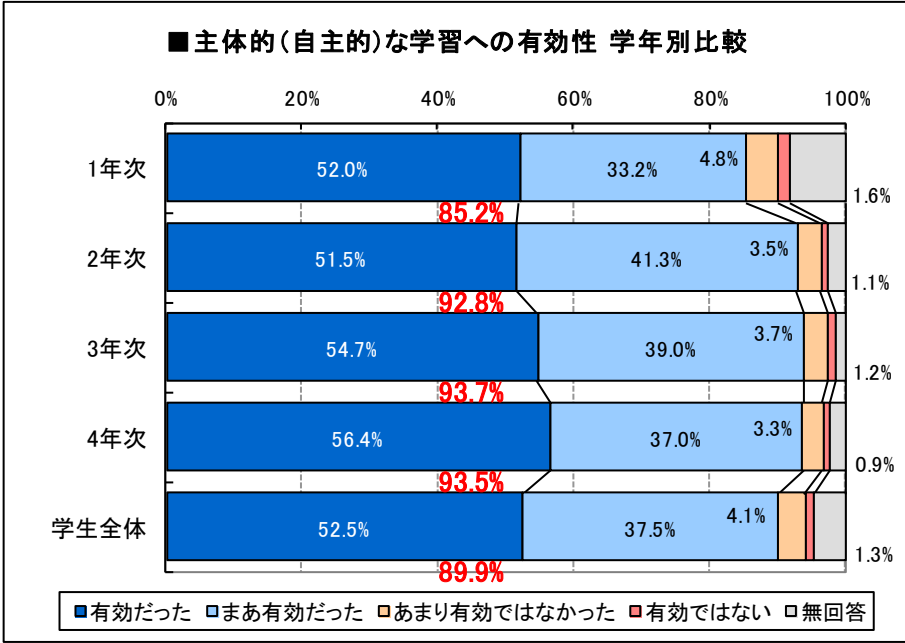


<8>遠隔授業の評価の分析

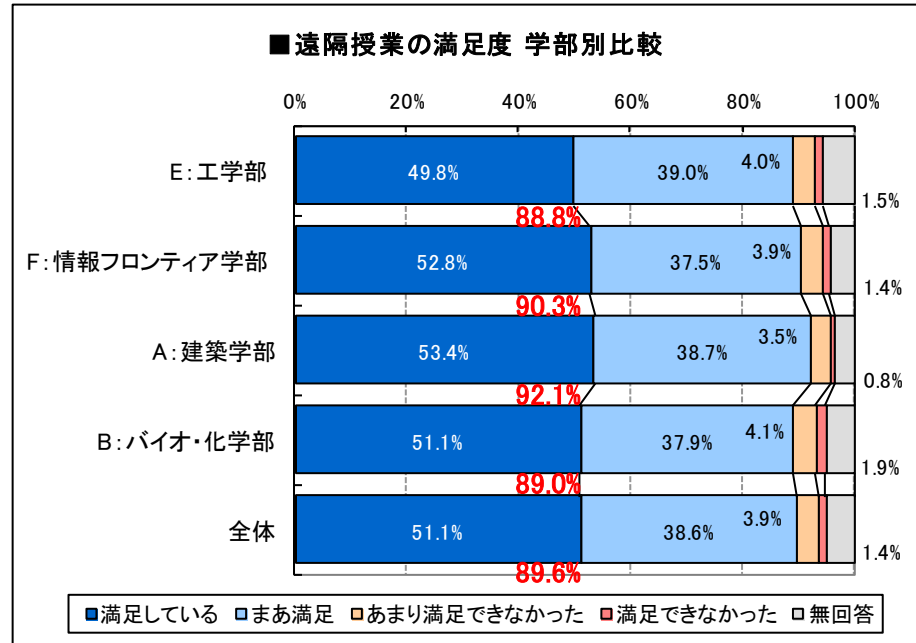
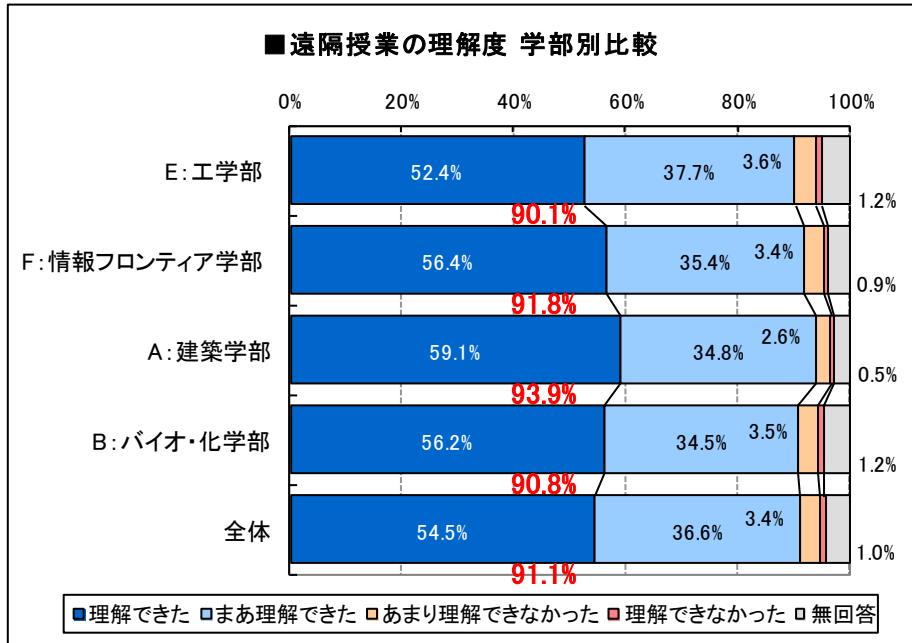
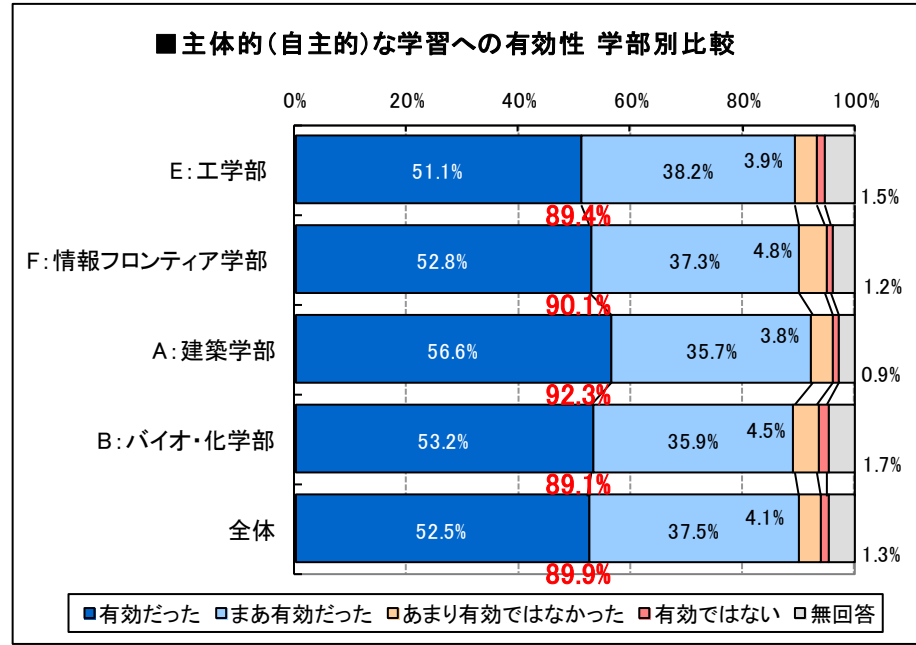
- 前回から「遠隔授業」に関する3つの質問を加えており、今回が2回目となるので、経年変化を見た。
- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を見ると、今回は91.1%、前回は94.2%であり、3.1ポイントの減少となっていた。ただし、「理解できた」は今回が54.5%、前回は49.0%で5.5ポイントの増加であり、しっかりと理解できたという学生は増加していた。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見は、今回は89.9%、前回は92.3%で2.4ポイントの減少であった。ただし、ここでも「有効だった」を見ると、今回は52.5%、前回は46.7%で5.8ポイントの増加となっていた。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見は、今回は89.6%、前回は90.8%で、1.2ポイントとわずかに減少していた。ただし、今回の「満足している」は51.1%と半数を占めており、前回の44.1%から7.0ポイントの増加であり、遠隔授業を深く理解している学生は増加していると言える。



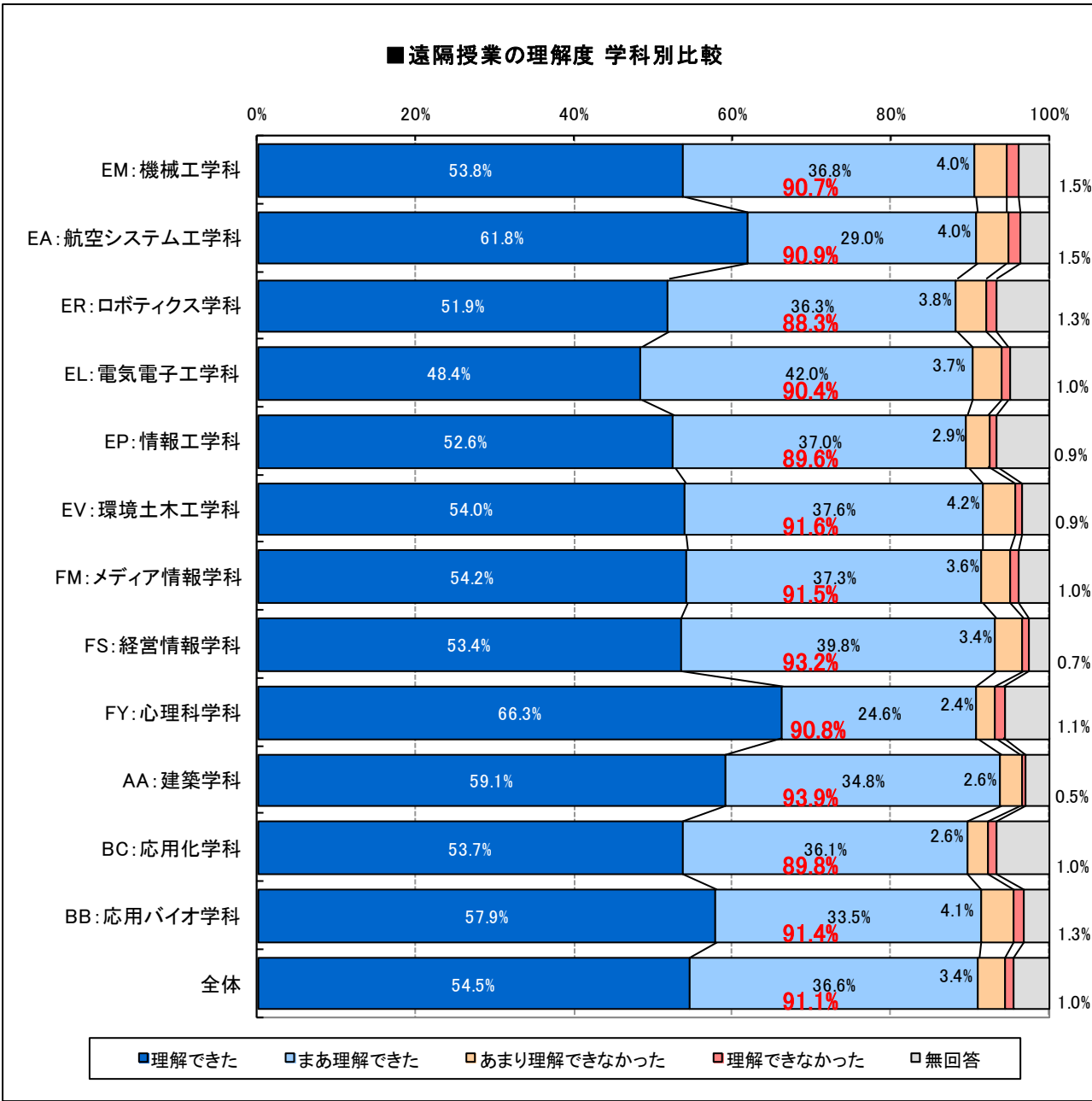
- 「遠隔授業の理解度」で肯定的な意見が最も多かった学年は「4年次」の94.6%であった。そして、「3年次」が94.3%、「2年次」が93.4%、「1年次」が87.2%で続いており、低学年ほど理解度が低い傾向が見られ、特に「1年次」の低さが目立っていた。ただし、「1年次」は「理解できた」が56.2%と最も多く、理解度が深い学生は多いようであった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」の肯定的な意見が最も多かったのは「3年次」の93.7%であった。次いで、「4年次」が93.5%、「2年次」が92.8%であり、ここまではほとんど差がなかった。そして、「1年次」が85.2%で、「3年次」との差は8.5ポイントと大きかった。
- 「遠隔授業の満足度」の肯定的な意見は「4年次」が93.4%と最も多く、「3年次」が93.2%、「2年次」が92.4%、「1年次」が85.1%であり、高学年ほど満足度が高い傾向が見られた。「4年次」から「2年次」の差は非常に少なく、内訳も似た傾向であったが、「1年次」は「4年次」との差が8.3ポイントと大きく、否定的な意見の合計が6.1%とやや多かった。



- 「遠隔授業の理解度」で肯定的な意見が最も多かった学部は「A: 建築学部」の93.9%であり、「F: 情報フロンティア学部」が91.8%、「B: バイオ・化学部」が90.8%、「E: 工学部」が90.1%で続いており、差は最大でも3.8ポイントと大きくはなかった。「理解できた」も同じ傾向であり、「A: 建築学部」が59.1%で多さが目立っており、「E: 工学部」が52.4%で最も少なかった。
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多かったのは「A: 建築学部」の92.3%で、「有効だった」も56.6%と多かった。次いで、「F: 情報フロンティア学部」が90.1%、「E: 工学部」が89.4%、「B: バイオ・化学部」が89.1%で続いており、差は最大で3.2ポイントであった。
- 「遠隔授業の満足度」を見ると、「A: 建築学部」が92.1%で最も満足度が高く、次いで、「F: 情報フロンティア学部」が90.3%、「B: バイオ・化学部」が89.0%、「E: 工学部」が88.8%であり、差は最大でも3.3ポイントと大きくはなく、いずれの学部でも約9割が遠隔授業に満足していた。内訳を見ても「満足している」の差は最大で3.6ポイントと大きくはなかった。

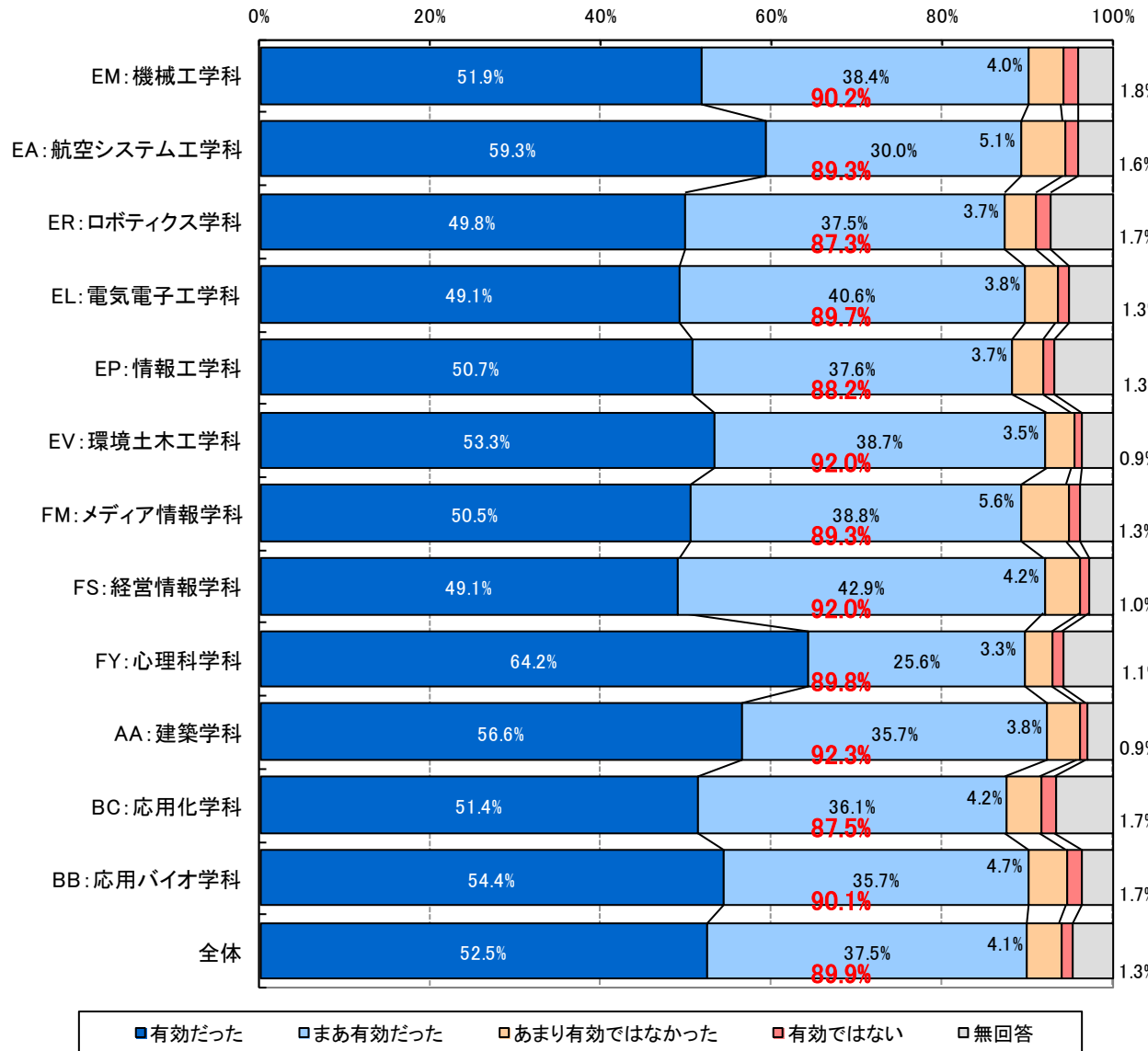


- 「遠隔授業の理解度」の肯定的な意見を学科別に比較したところ、最も多かったのは「AA:建築学科」の93.9%であった。次いで、「FS:経営情報学科」が93.2%、「EV:環境土木工学科」が91.6%、「FM:メディア情報学科」が91.5%、「BB:応用バイオ学科」が91.4%で続いていた。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の88.3%で、「AA:建築学科」との差は5.6ポイントであった。
- 「理解できた」だけを見ると、「FY:心理科学科」が66.3%、「EA:航空システム工学科」が61.8%であり、この2学科の多さが目立っていた。



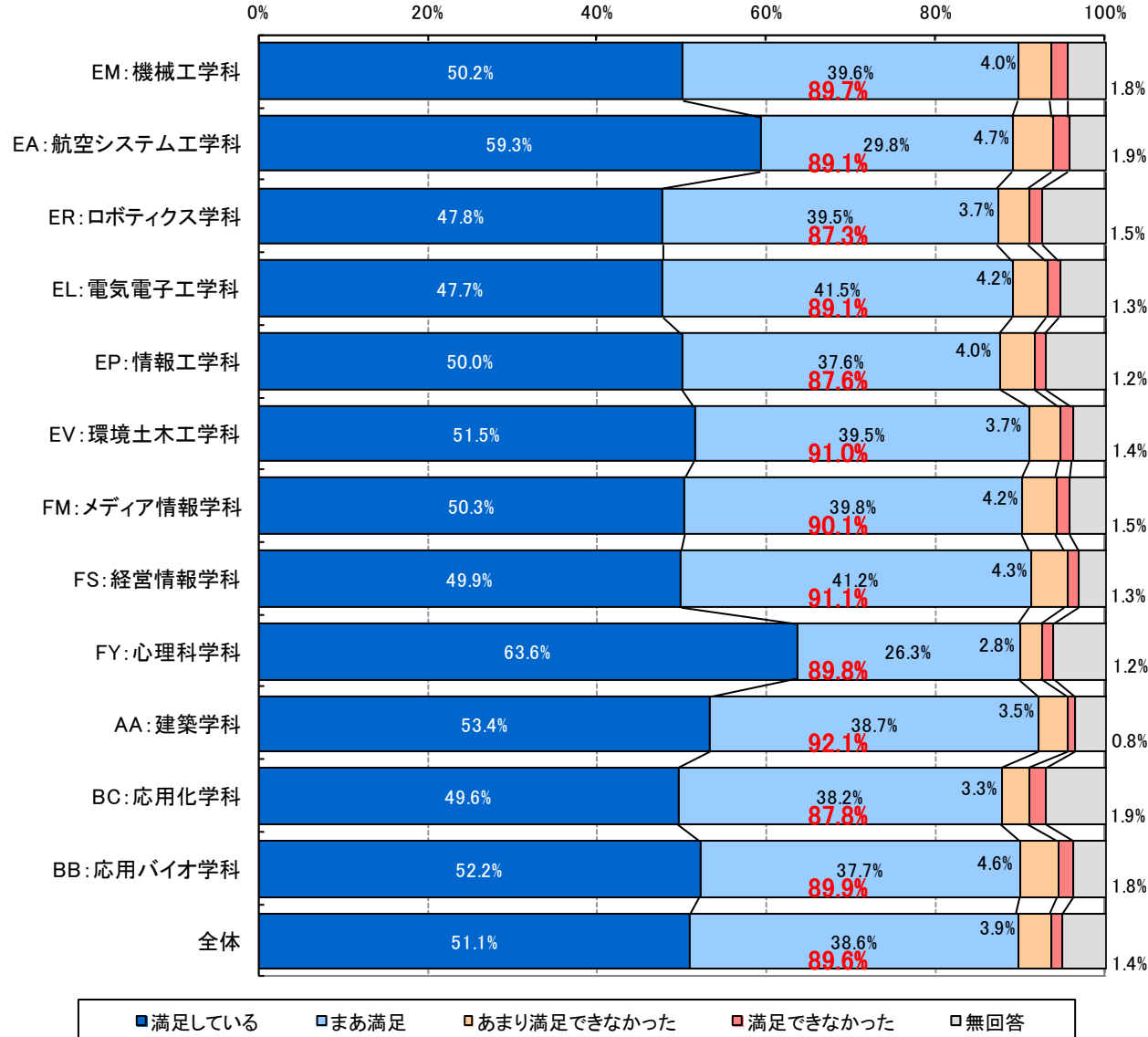
- 「主体的(自主的)な学習への有効性」で肯定的な意見が最も多かったのは「AA:建築学科」の92.3%であった。次いで、「EV:環境土木工学科」と「FS:経営情報学科」が92.0%、「EM:機械工学科」が90.2%、「BB:応用バイオ学科」が90.1%で続いていた。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の87.3%で、「AA:建築学科」との差は5.0ポイントと大きくはなかった。
- 「有効だった」だけを見ると、ここでも「FY:心理科学科」が64.2%と多さが目立っており、「EA:航空システム工学科」が59.3%、「AA:建築学科」が56.6%で続いていた。一方、「有効だった」が最も少なかったのは「EL:電気電子工学科」と「FS:経営情報学科」の49.1%であった。「FS:経営情報学科」は肯定的な意見の合計では2番目に多かったが、「まあ有効であった」と考える意見が多いようであった。

■ 主体的(自主的)な学習への有効性 学科別比較



- 「遠隔授業の満足度」で最も満足度が高かったのは「AA:建築学科」の92.1%であった。「AA:建築学科」は遠隔授業に関する3つの質問すべてで肯定的な意見が最多であった。
- 上記に次いで、「FS:経営情報学科」が91.1%、「EV:環境土木工学科」が91.0%、「FM:メディア情報学科」が90.1%、「BB:応用バイオ学科」が89.9%で続いており、ここまでの5学科は「遠隔授業の理解度」の上位と全く同じであった。
- 一方、最も少なかったのは「ER:ロボティクス学科」の87.3%であった。「ER:ロボティクス学科」は3つの質問すべてで肯定的な意見が最も少なかった。ただし、満足度としては9割に近く、決して低い満足度ではなかった。
- 「満足している」だけを見ると、多さが目立っていたのは「FY:心理科学科」の63.6%と「EA:航空システム工学科」の59.3%であり、この2学科も3つの質問で同じ結果であり、理解度が高く、満足度が高い学生が多いようであった。

■ 遠隔授業の満足度 学科別比較



<9> 全体のまとめ

<9-1>全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

【全体傾向で確認できた事】

学生の78.5%が授業に「興味」を持ち、95.7%が「教員の熱意」を感じていた。そして、「教科書・指導書」「課題・レポート」「学習相談」などの評価も非常に高く、最終的な「満足度」は95.8%であった。

- ◆ 授業の前段階の項目では、「事前の興味」で78.5%、「事前の内容理解（学習支援計画書）」で93.7%が肯定的な意見であった。
- ◆ 授業内容の項目では、「教科書・指導書の適切さ」で85.4%、「課題・レポートの適切さ」で95.7%、「学習支援計画書との一致」で98.0%、「授業の進捗の適切さ」で95.0%、「学習相談の有効性」で94.3%が肯定的な意見であり、いずれも非常に高い評価であった。
- ◆ 学生の姿勢の項目では、「自分の熱意と努力」で96.0%、「教員の熱意」で95.7%が肯定的な意見であった。そして、最終的な「授業の満足度」は95.8%であり、非常に充実している様子がうかがえた。

【経年変化で確認できた事】

Web調査化の影響も考えられるが、多くの項目が過去最高の非常に高い評価となり、「自分の熱意と努力」「満足度」も過去最高であった。

- ◆ 今回は多くの項目が過去最高の評価であったが、これには調査のWeb化による回答者の減少と回答者属性の変化の影響も考えられる。
- ◆ 「自分の熱意と努力」「満足度」はいずれも過去最高となり、「教員の熱意」も前回は上回って過去2番目であった。そして、「課題・レポート」「学習支援計画書との一致」「授業の進捗」など、授業の進め方に関しても多くが過去最高の評価であった。
- ◆ 唯一、前回は下回っていたのは「事前の興味」であったが、内訳を見ると、授業に強い興味を持っている学生は過去最高であり、内容的には授業に対する興味は強くなっていると言える。

【学年別比較で確認できた事】

授業への「興味」は「3年次」が最も強く、「1年次」が弱かった。学習時間は高学年ほどしっかりと確保していたが、その他の項目では学年による目立った差は見られなかった。

- ◆ 「事前の興味」は学年による差が大きく、「3年次」の興味が最も強く、次いで、「4年次」「2年次」「1年次」の順で徐々に低下していた。
- ◆ 「事前の興味」以外では学年による差がほとんど見られなかった。
- ◆ 「4年次」は「自分の熱意と努力」「課題・レポート」「学習支援計画書との一致」「授業の進捗の適切さ」「満足度」の5項目で最も低かったが、差はわずかであった。
- ◆ 学習時間で「3時間以上」「2～3時間」などの割合を見ると、高学年ほどしっかりと学習時間を確保しているようであった。

【学部別・学科別比較で確認できた事】

学部による差は全体的に小さいが、「情報フロンティア学部」の「教科書・指導書の適切さ」の評価が低かった。そして、「建築学部」がしっかりと学習時間を確保していた。

- ◆ 全体的に学部による差はほとんど見られなかったが、「教科書・指導書の適切さ」で「情報フロンティア学部」の評価が低かった。また、学習時間の差も大きくはなかったが、内訳を見ると「建築学部」がしっかりと学習時間を確保しているようであった。
- ◆ 学部毎に学科を見ると、「工学部」の6学科の差はほとんどなかった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」の「心理科学科」は「教科書・指導書の適切さ」が低かったものの、それ以外のすべてで最も高く、特に「事前の興味」が高かった。「メディア情報学科」は「事前の興味」の低さが目立った。
- ◆ 「バイオ・化学部」では「応用化学科」で高い項目が多く見られた。

【科目区分別比較で確認できた事】

「事前の興味」は「修学基礎科目」が低く、「専門科目」と「基礎実技科目」に対する興味が強かった。そして、この興味が強い2つの科目区分では、学習時間が長いという特徴が見られた。

- ◆ 「事前の興味」は「修学基礎科目」が非常に低く、「専門科目」や「基礎実技科目」に対する興味が強かった。
- ◆ 「教科書・指導書の適切さ」は科目区分間によって評価が分かれており、「修学基礎科目」の評価が高く、「基礎実技科目」が低かった。これには教科書・指導書の有無の差も影響しており、「基礎実技科目」と「人間形成基礎科目」では「教科書・指導書はなかった」が多かった。
- ◆ 上記の2項目以外では科目区分による差は少なかった。
- ◆ 学習時間では、「専門科目」「数理基礎科目」「基礎実技科目」で長い層が多く、「英語科目」で短い層が多かった。

【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は過去最高の94.0%で、調査開始のH17から18.2ポイント増加していた。学年間の差はほとんどなく、学部では「建築学部」が最も多く、「バイオ・化学部」が最も少なかった。

- ◆ 「積極・満足型」は前回は2.1ポイント上回って過去最高の94.0%となっており、調査開始時のH17と比べると18.2ポイントの増加となっていた。そして、「満足度」と「積極性」がともに高い学生が44.4%を占めていた。
- ◆ 「積極・満足型」の割合は低学年ほど多かったが、差は最大でも1.9ポイントと非常に小さく、学年による差はほとんどなかった。
- ◆ 学部では「建築学部」が95.1%で最も多く、最も少ないのは「バイオ・化学部」の92.3%で、差は2.8ポイントと小さかった。学科では「建築学科」の95.1%が最も多く、最も少ない「航空システム工学科」の91.7%との差は3.4ポイントであった。

【同一学生群で確認できた事】

「H26卒業生」あたりを境目として、4年間を通して「興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高く、ここ数年の学生群では中だるみのような低下のないまま卒業に至るケースが多くなっている。

- ◆ 「H26卒業生」あたりを境目として学生の意識や行動の変化が見られ、それ以降では4年間を通して「事前の興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高く、これまでの平均を下回ることがなくなっている。
- ◆ ここ数年の学生は入学直後から「事前の興味」「自分の熱意と努力」が非常に高く、結果的に「教員の熱意」「満足度」も高いなど充実している様子がうかがえ、「自分の熱意と努力」などは、学年が上がっても中だるみのような低下が見られない学生群が多くなっている。
- ◆ ここ数年の学生群は「学習相談利用者割合」が「4年次-後学期」で急上昇するという特徴も見られる。

【遠隔授業の評価で確認できた事】

遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の評価は内容的には前回より高かった。学年では「1年次」が低く、学科では3指標ともに「建築学科」が高かった。

- ◆ 「遠隔授業の理解度」「主体的(自主的)な学習への有効性」「満足度」の3指標ともに肯定的な意見の合計はわずかに前回は下回っていたが、内訳を見るとすべて前回より高い評価となっており、「満足している」という回答は51.1%と半数を占めていた。
- ◆ 学年による差は大きくはなかったが、3指標ともに「1年次」の評価が最も低かった。「1年次」では「無回答」が多いという特徴も見られた。
- ◆ 学部別の評価の差も小さかったが、3指標ともに「建築学部」が最も高く、「工学部」と「バイオ・化学部」がやや低かった。学科では3指標ともに「建築学科」の評価が最も高かった。

ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようになる。

- ❑ 学生の78.5%が授業に「興味」を持ち、95.7%が「教員の熱意」を感じていた。そして、「教科書・指導書」「課題・レポート」「学習相談」などの評価も非常に高く、最終的な「満足度」は95.8%であった。
- ❑ Web調査化の影響も考えられるが、多くの項目が過去最高の非常に高い評価となり、「自分の熱意と努力」「満足度」も過去最高であった。
- ❑ 授業への「興味」は「3年次」が最も強く、「1年次」が弱かった。学習時間は高学年ほどしっかりと確保していたが、その他の項目では学年による目立った差は見られなかった。
- ❑ 学部による差は全体的に小さいが、「情報フロンティア学部」の「教科書・指導書の適切さ」の評価が低かった。そして、「建築学部」がしっかりと学習時間を確保していた。
- ❑ 「事前の興味」は「修学基礎科目」が低く、「専門科目」と「基礎実技科目」に対する興味が強かった。そして、この興味が強い2つの科目区分では、学習時間が長いという特徴が見られた。
- ❑ 「H26卒業生」あたりを境目として、4年間を通して「興味」「熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」が高く、ここ数年の学生群では中たるみのような低下のないまま卒業に至るケースが多くなっている。
- ❑ 「積極・満足型」は過去最高の94.0%で、調査開始のH17から18.2ポイント増加していた。学年間の差はほとんどなく、学部では「建築学部」が最も多く、「バイオ・化学部」が最も少なかった。
- ❑ 遠隔授業の「理解度」「主体的な学習への有効性」「満足度」の評価は内容的には前回より高かった。学年では「1年次」が低く、学科では3指標ともに「建築学科」が高く、「ロボティクス学科」が低かった。



- ❖ 「満足度」は過去最高の95.8%であった。Web調査化の影響も考えられるが、非常に高い満足度であった。また、95.7%が「教員の熱意」を感じていると答えており、コロナ禍にも関わらず、学生から非常に高く評価されていることが確認できた。
- ❖ 学年による大きな差は見られなかったが、学部では「建築学部」が充実しているようであった。
- ❖ 「H26卒業生」あたりを境目として授業の充実度が上がって、ここ数年では中たるみも少なくなってきたようであり、緊急の課題は見当たらない。今後はこの状態を維持しながら、遠隔授業のような新たな授業形態にも対応していくことが求められるようになると思われる。
- ❖ 「積極・満足型」の学生はH17から18.2ポイント増の94.0%であり、授業の改善が着実に進んでいることが数字に表れていた。